

水産講習所一覽

昭和九年

296
3

296-3
1200600223991

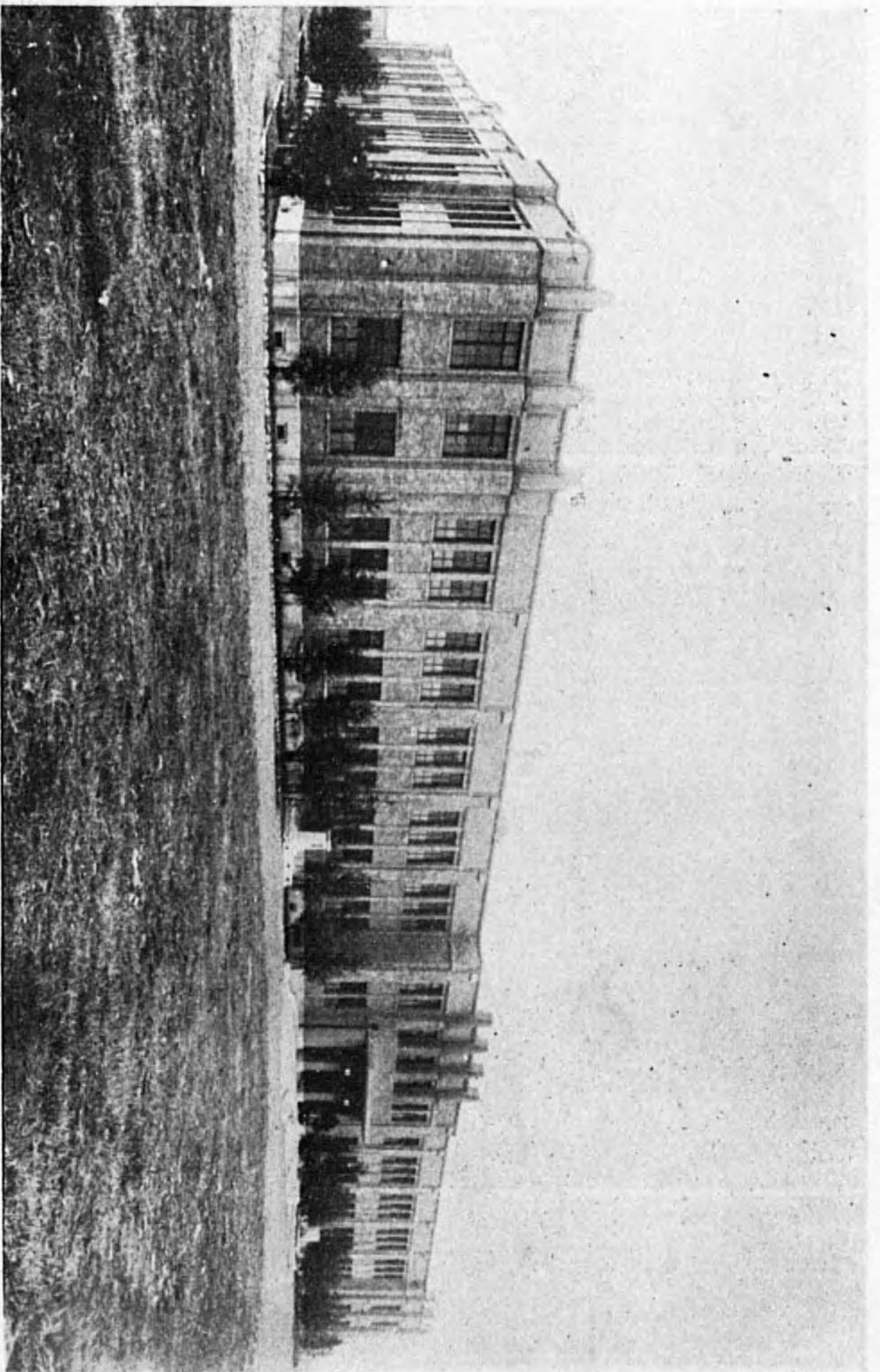


始

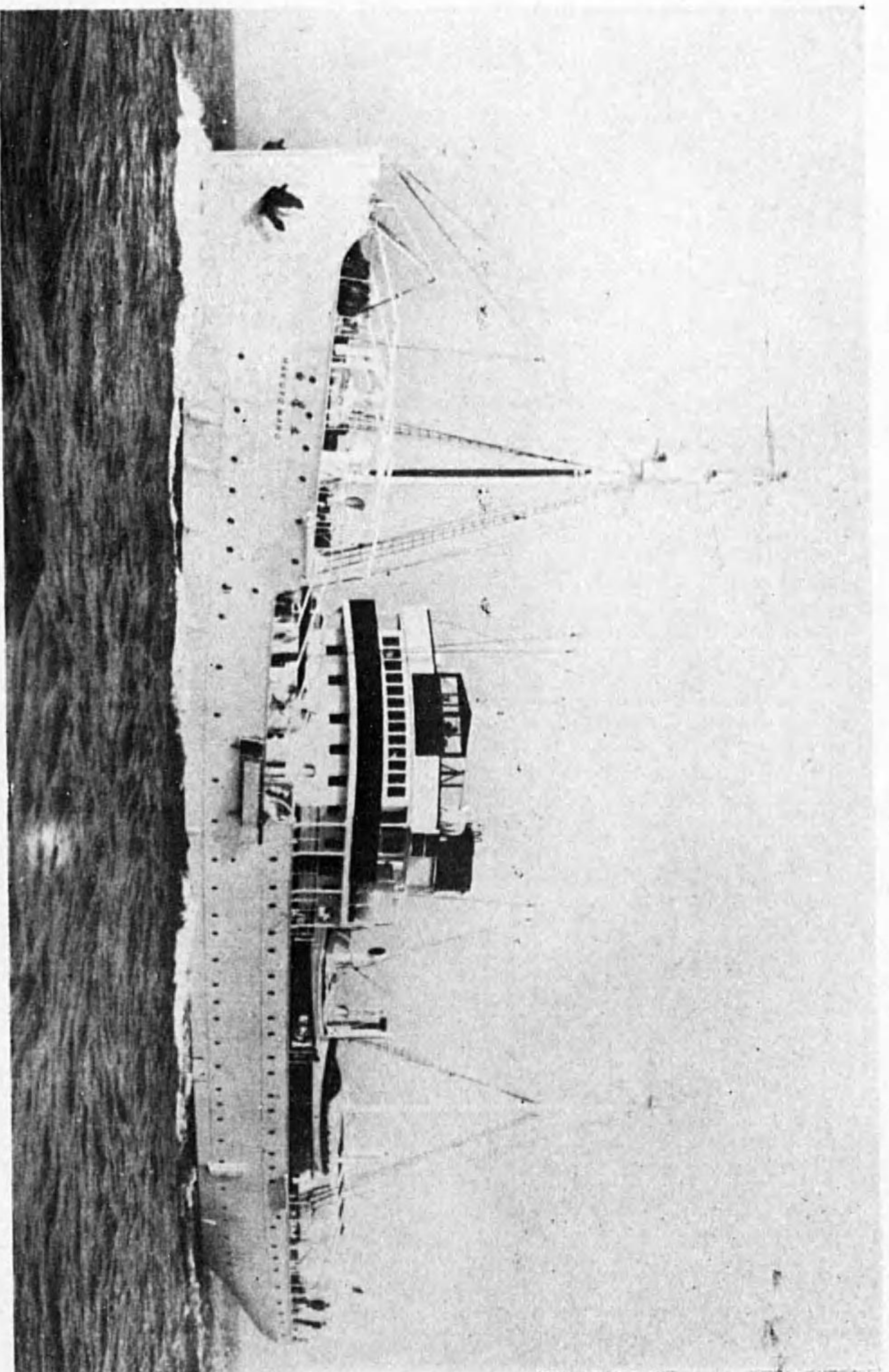


水産講習所一覽

昭和九年



水產講習所



丸 應 白 船 習 實

水產講習所一覽

目次

第一章 沿革及組織	一
第一節 沿革概要	一
第二節 官制、規程及規則	四
第一 水產講習所官制	四
第二 水產講習所名譽教授ニ關スル件	四
第三 水產講習所規程	四
第四 水產講習所規則	二
第五 水產講習所入學試業料ニ關スル件	三
第六 水產講習所處務規程	三
第七 水產講習所處務細則	三
第八 水產講習所教育規程	四
第九 水產講習所教授會規程	四
第一〇 本科成績考查細則	四
第二 水產講習所入學志願者體格檢查標準	四
第三 水產講習所學生服裝規程	四
第四 實習規程	四
第五 實習船規程	四

第一五 圖書及標本	五
第一六 在外研究員ニ關スル規程及勅令	五
第一七 學藝技術獎勵金品寄附取扱規程	五
第一八 寄宿舍規程	五
第三章 職員	五
第一節 敷地、建物及諸設備	三
第二節 敷地及建物	三
第三節 諸設備	三
一 船 舶	三
二 實習場及實驗場	三
第四章 研究成績	三
第五章 學 生	三
第一節 在學生氏名	一五
第二節 在學生府縣別	一三
第六章 卒業生	一四
第一節 卒業者氏名	一四
第二節 卒業者狀況	一六
附 錄	一六
一 在外研究員	一六
二 職員異動	一七
三 學友會	一七
四 財團法人水產研究獎勵會	一七

發行所寄贈本



296-3

水産講習所一覽

第一章 沿革及組織

第一節 沿革概要

第一 本所創立以前

明治二十二年 一月大日本水産會ハ水産教育必要ノ主唱ニ基キ寄附金ヲ以テ東京市京橋區木挽町厚生館内ニ水産傳習所ヲ假設セリ

二十六年 七月日本橋區箱崎町ニ移リ後數月ニシテ又芝區三田四國町ニ移轉セリ

二十六年 五月農商務省ハ一ケ年金六千五百圓ヲ交附シテ生徒ノ養成ヲ囑託シタルヲ以テ更ニ覺倉ヲ三田四國町ニ番地ニ新築シテ修業年限ヲ三ケ年トシ教務ヲ擴張セリ

二十七年 一月文部省ハ徵兵令第十三條ニ依リ官公立尋常中學校ト同等以上タルコトヲ認定ス

九月卒業生ヲシテ漁船々員タルノ資格ヲ得セシムル爲メ商船學校ト聯絡シ特別入學ノ制規ヲ定ム



二十九年 十二月文部省ハ水産科教員ノ養成ヲ囑託シ全國ヨリ十五名ヲ撰拔入學セシメタリ

三十年 政府ハ水産教育機關ヲ官設スルニ決シ其經費ヲ本年ノ議會ニ提出シテ其協賛ヲ得水産講習所ヲ創設スルコトトナリタルヲ以テ水産傳習所ハ三月三十一日限り閉所スルニ至



第二本所

明治三十年

三月二十二日勅令第四十七號ヲ以テ水産講習所ノ官制ヲ發布セラレテ諸規則ヲ定メ講習科入學ノ程度ヲ尋常中學第三學年級修業以上トシ修業年限ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テハ漁撈製造養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケ別ニ現業科ヲ置キテ實業者若クハ其子弟ノ就學ニ便ナラシメ又講習科卒業生ニシテ尙深ク既修ノ學科中一二ノ科目ニ就キ研究セント欲スルモノ、爲メニ研究科ヲ設ケ修業期間ヲ一ケ年以内トシ舊水産講習所ノ疊舎ニ營繕ヲ加ヘテ之ヲ開設シ藤田四郎所長トナル

三十一年

三月教官ヲ會合シテ講習科ノ傳習要項ヲ定ム此月葦原清風所長トナル
六月農商務省ハ遠洋漁業練習生規程ヲ定メテ生徒ヲ募集シ本所ニ於テ其授業ヲ開始ス此月研究科ノ修業年限ヲ三ケ年以内トシ尙遠洋漁業練習生ヲ本所ノ研究生ト爲ス
九月初メテ罐詰及魚油魚蠟沃度製造ノ現業科生徒ヲ募集ス此月竹内正志所長トナル
十一月牧朴眞所長トナル、同月本所處務規程ヲ制定ス

三十二年

一月文部省ハ本所講習科ヲ文官任用令第三條ニ依リ官公立中學校ト同等以上ノモノト認定シテ之ヲ告示セリ
十一月巾着網漁業ノ現業科生徒ヲ募集ス

三十三年

一月本所ノ規則ヲ更訂シテ講習科ヲ本科ト稱シ中學校卒業ノ程度ニ依リ漁撈、製造、養殖中ノ一科ヲ選ヒテ生徒ノ入學ヲ許シ又別ニ遠洋漁業科ヲ置キ遠洋漁業練習生規程ニ依リテ採用セラレタル生徒ノ養成ヲナスト共ニ從來ノ學期及學年ヲ變更シ毎年九月ヲ以テ學年ノ始トセリ
四月神奈川縣下小田原町ニ於ケル所外製造實習場ノ建築ニ着手シ七月其工事ヲ竣ヘ八月開場式ヲ舉行セリ
九月地ヲ深川區越中島町ニトシテ本所疊舎ノ新營ニ着手シ又石川島造船所ニ於テ實習用帆船ノ新營ニ着手セリ

三十四年

四月初年新營ニ着手セシ實習船ノ進水式ヲ舉行シテ快鷹丸ト命名シ八月ニ至リ全ク其工ヲ竣ヘ艤裝整頓セリ
六月初テ鯉節其他節類ノ現業科生徒ヲ募集ス

三十五年

文部省ヨリ水産教員養成ノ囑託ヲ受ケ全國ヨリ選出ノ生徒十名ノ入學ヲ許ス

三十六年

五月文部省ハ實業教員養成規程ニヨリ本科生徒中ニ學資ヲ補給シテ水産教員養成ノ方法ヲ定ム
六月農商務省ヨリ地方水産試驗場講習所職員講習會授業ノ囑託ヲ受ク
九月深川區越中島町ノ新築疊舎ニ移轉ス
十月第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ本所ニ引繼キ翌三十七年六月之ヲ本所内ニ移築セリ

十二月露國萬國水産博覽會ヨリ本所出品ニ對シテ名譽謝狀ヲ贈與セラレ

十二月官制ヲ改正シ專任所長ヲ置ク松原新之助所長トナル

三十七年 一月處務規程ヲ改正シ更ニ處務細則及試験部規程ヲ定メテ事務ノ分掌ヲ明ニセリ

三月傳習規則及傳習規程ヲ改正ス

三十八年 四月千葉縣下元鹽業調査所津田沼製鹽試驗場ヲ引繼キ本所ノ實習場トセリ

六月千葉縣製鹽實習場ヲ大藏省ノ所管トセリ又製鹽技術員養成科規程ヲ定メ生徒ヲ募集セリ

三十七八年戰役ニ際シ陸軍省ト協議ノ上軍用罐詰ノ監督ヲナシ本所冷蔵庫ヲ同省ノ使用ニ供セリ

三十九年 二月深川區冬木町養魚池ヲ本所々管ニ移サレタリ

四月伊太利國美蘭ニ開カレタル萬國博覽會ニ本所ヨリ出品シ十一月萬國審査委員ニ於テ「フオリ、コンコルソー」(競争セサル名譽出品)トシ賞狀ヲ贈與セラレ

四十年 四月六日水産傳習所ノ創設ヨリ二十年本所ノ開始ヨリ十年ニ相當スルヲ以テ記念式ヲ舉行シ植樹ヲナシ翌七日所内ヲ一般公衆ノ觀覽ニ供セリ

六月捕鯨砲手養成ノ必要ヲ認メ現業科生徒トシテ其授業ヲ開始セリ

九月六日實習船隼丸ノ建造設計成リ石川島造船所ニ於テ起工シ十二月二日進水シ生徒ノ實習ニ使用セリ

九月九日實習船快鷹丸(總噸數百四十噸)ハ實習中韓國迎日灣ニ於テ風波ノ難ニ遭ヒ避難ノ途ナク同灣口冬外申ノ突角九萬里沿岸ノ岩礁ニ打揚ゲラレ忽チニシテ破壊シ終ニ教官一名生徒三名殉難スルノ不幸ヲ見ルニ至レリ茲ニ於テ本所ノ漁撈科生徒實習ノ機關ヲ失ヒ止ムヲ得ス民間實業者ノ漁船ニ乘組ミ實習セシメタルモ規定ノ期間内ニ於テハ豫定ノ實習ヲ完了セシムルコト能ハサリシヲ以テ該生徒ノ卒業期ヲ四十一年十月マテ延期シテ其實習ヲ繼續セリ

十月二十五日勅令第三百二十九號ヲ以テ在外研究生規程ヲ公布セラレ

十一月議會ニ於テ快鷹丸代船新造豫算ノ協賛ヲ得タルヲ以テ直チニ其設計ニ着手セリ遞信省ハ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乘組タル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ甲種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコト又現業科中遠洋漁業專修ヲ卒リタル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ一箇年ヲ短縮シテ丙種運轉士乙種運轉士又ハ乙種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セリ

四十一年 五月大阪鐵工所ニ於テ起工シタル新造實習船ハ雪鷹丸(四百四十四噸)ト命名シ四十二年二月進水同年五月十七日東京ニ廻航シテ生徒ノ實習ニ使用セリ

十一月本所構内ニテ圖書及標本室ノ建築ニ着手シ四十二年三月其工ヲ竣ヘタリ

十一月千葉縣下館山灣高島ニ於テ臨海實驗場ノ建築ニ着手シ四十二年三月竣工シ其三十日ニ開場式ヲ舉ゲ五月ヨリ養殖科生徒ノ實習ニ使用セリ

四十二年

六月初テ貝殻彫刻ノ現業科生徒ヲ募集ス

本年アラスカユーコン太平洋博覽會ニ本所ヨリ出品ヲナシ大賞牌ヲ受ク

四十三年

一月本所試験規程ヲ改正シテ一般當業者ヨリ試験或ハ鑑定ノ依頼ニ應スルノ制ヲ設ケ
三月試験廳舎ノ新營ヲ企テ四十四年四月落成セリ又高島臨海實驗場ニ氣象觀測室ヲ設

四十四年

一月下啓助所長トナル
三月規則ヲ改訂シテ入學者ノ資格ヲ中學卒業者若クハ專門學校入學者檢定ニ合格シタル者及府縣立水産學校本科卒業者ニ限り又學科課程ニ變更ヲ加ヘ物理及普通動植物數

學等ノ基礎學科ヲ加ヘ尙第三學年ニ於テモ學科ノ講義ヲ併課シ時宜ニヨリ必要ノ事項ヲ其專門家ニ委囑シテ課外講義ヲナスコト、セリ又特殊技術員養成科規程中改正ヲ加ヘ短期講習ヲ爲スノ制ヲ定ム

大正三年

七月二十五日海嘯ノ爲メ構内全部ニ浸水シ深サ三尺餘ニ及ヒ護岸堤防ハ殆ト破壊セラレ船圍場ハ之ニ格納セシ「ボート」ト共ニ全部ヲ流失シテ其形蹟ヲ止メサルニ至リ其他實習場及寄宿舎ノ一部破壊セラレシニヨリ直チニ復舊工事ニ着手四十五年五月之ヲ完成セリ

三月處務細則ヲ改正スルニ方リ漁業基本調査部、漁撈試験部、製造試験部、養殖試験部、化學試験部、漁船機械試験部ニ分チ又編纂部ヲ設ケ傳習、調査及試験ニ關スル報

四二年

十二月水産局長松崎壽三所長心得ヲ命セラレ

五一年

九月規則及規程ヲ更訂シ従前ノ學期及學年ヲ變更シテ毎年四月ヲ以テ學年ノ始トナシ現業科ト稱シタルモノヲ別科ト改メ又從來ノ特殊技術員養成科ハ之ヲ廢シ單ニ必要ニ

應シテ短期講習ヲ行フコトトセリ

六一年

二月技師伊谷以知二郎所長トナル
十月一日風水害ニ依リ本所建築物ハ總テ多少ノ被害アリ殊ニ後方部面ノ諸建築物ハ殆

ント倒壊シタルヲ以テ大正七年四月之カ復舊工事ニ着手シ大正八年三月竣工セリ

七一年

天鷗丸(百六十一噸)ヲ新造シ海洋調査船トシテ専ラ海洋調査ニ使用スルコトトセリ

一月處務細則ヲ改正シ漁業基本調査部ヲ海洋調査部ト改メ其定員經費共ニ之ヲ増加シ

試驗事業ノ擴張ヲ圖レリ

從來本科生徒ハ漁撈科三十名製造科二十五名養殖科十五名合計七十名募集シ來リシガ時代ノ要求ニ伴ヒ本年度ニ於テ各科五名宛都合十五名ヲ増募スルコトトナリ隨テ教授

ノ増員ヲモ爲セリ

七月文部省告示第一九二號ヲ以テ本所本科卒業者ハ公私立實業學校教員タルコトヲ得ルモノト指定セラレタリ

九年

二箇年ノ繼續ヲ以テ漁船機械試驗ノ擴張ヲ行ヒ專任職員並經費ノ増加ヲ得タリ
十二月二十三日祝融ノ災ニ罹リ水産化學試驗部、淡水養殖室、漁撈標本室及海洋調査
部ヨリ成ル一棟ト生徒控室トヲ燒失直チニ復舊工事ニ着手セリ

十年

前年罹災 復舊工事ト共ニ講習部ノ革新及漁船機械試驗、養殖試驗事業ノ擴張ヲ伴ヒ
舊東京工業試驗所敷地ノ一部保管轉換ヲ受ケ之レト本所敷地内ニ亘リ養舍其他ノ増設
ヲ圖レリ猶本所以外ニ於テハ講習部擴張ノ爲メ館山實習場、高島實驗場、小田原實習
場等ニ増築ヲ行ヒ養殖試驗擴張ノ爲メニハ長野縣木崎湖、愛知縣豊橋市外、兵庫縣
二見、廣島縣大長等ニ夫々養魚養貝試驗場ヲ設置シ深川區冬木町養魚試驗池ハ之ヲ廢
止セリ

十一年

九月十三日文部省告示第四四九號ヲ以テ大正八年文部省令第十號高等學校教員規程第
九條第二項ニ依リ專門學校ニ準スヘキ學校ト指定サル
一月講習規則及同規程ヲ更訂シ本科ノ修業年限ヲ延長シテ四箇年トシ其入學資格ヲ變
更シテ中學校第四學年修了者並ニ之ニ準スル者又ハ甲種水産學校卒業者並ニ之ニ準スル
者ト爲シ更ニ學科課程ヲ改正シテ應用的技術ノ向上ト基礎的學力ノ充實トヲ圖レリ
五月講習規則第十一條ノニ依リ農商務省告示第六十六號ヲ以テ臺灣、朝鮮及外國
人特別入學規程ヲ設ク

十二年

七月講習規則及同規程ヲ更訂シ遠洋漁業科ノ修業年限ヲ二ケ年ニ改メ又本科漁撈科學
科課程ノ一部ヲ變更シ同科第四學年ニ於ケル授業ヲ他學年ニ於テ之ヲ課シ同學年全部
ヲ乘船實習ト爲セリ

十三年

七月陸軍省並文部省ハ本科第一學年ヲ修了シタル者ハ徵兵令第十三條第一項第二號ニ
規定スル中學校ノ學科程度ト同等以上ノ課程ヲ修了シタル者ト認定シ又本科在學者ニ
對シ徵兵令第二十三條第一項ノ規定ニ依ル一年志願兵ノ入營ヲ滿二十五歳マデ延期ス
ルコトヲ認定セリ

十四年

九月大震災ノ爲メ本所諸建物諸設備等大半烏有ニ歸セルカ此際ハ教務上重要ノ時期
ニ屬シ一日モ學業ノ中斷ヲ許サ、ルヲ以テ應急處置トシテ府下豊多摩郡杉並村蠶業試
驗場ノ一部ヲ其假養舍ニ充テテ事務ヲ執ルコト、シ十月十五日ヨリ爰ニ應急ノ授業ヲ
開始セリ而シテ直チニ善後復舊ノ計畫ヲ立テ更ニ應急ノ處置トシテ舊敷地ノ一部ニ約
二千坪ノ假養舍建設ニ着手シタリ

十五年

四月八日舊敷地ノ假養舍ニ於テ授業ヲ開始シタリ又小田原、館山、高島等ニ於ケル本
所實習場並實驗場モ前年九月ノ震災ノ爲メ總テ多少ノ被害アリタルモ急速ニ復舊又
ハ修繕ヲ爲シ共ニ完成ヲ告ケタリ

十六年

五月文部省ハ大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ高等試驗令上明治三十三年
以後ニ入學シタル本所本科卒業者ニ對シ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定シ豫備試
驗ヲ免除サル

十七年

八月技師岡村金太郎所長トナル

十八年

九月遞信省令第四十號ヲ以テ船舶職員試驗規程公布セラレ本科漁撈科卒業者ニシテ三

簡年以上船舶ニ乗組タル者ニシテ該船舶ノ種類ニ依リ甲種二等運轉士受験資格ヲ有スルコト又現業科遠洋漁業專修ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ乘組期間一箇年ヲ短縮シ乘組船舶ノ種類ニ依リ乙種一等運轉士、乙種二等運轉士、丙種運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セラレ且ツ右相當試験ヲ受クル場合ニ於テ兩者共筆記試験ヲ免除セラレタリ十一月二十二日付文部省告示第四百三號ヲ以テ本所大正十一年以後ノ入學ニシテ本科第一學年修了者ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラル隨ツテ此資格ニ依リ高等試驗令ニ依ル豫備試験ヲ受クル資格ヲ享有スルコトナレリ

十四年 二月長崎造船所ニテ蒼鷹丸ヲ建造セシメ天鷗丸ノ代船トセリ鋼鐵船ニシテ二百二噸ナリ

六月陸軍省ヨリ所管替ヲ受ケタル青鷗丸ヲ隼丸ノ代船トナス噸數三十二噸餘ナリ十一月農林省告示第三百三十三號ヲ以テ講習規程第一條ヲ改正シ兵式教練ヲ實施セリ

十五年 一月文部省告示第二十六號ヲ以テ明治三十六年文部省告示第三十號教員檢定ニ關スル指定學校名及學科目中ニ於テ本所本科製造科ハ化學(大正三年三月以後ノ卒業生ニシテ當該科目成績優等ナル者ニ限ル)同養殖科ハ動物(同前)ヲ指定セラル一昨年以來大震災後ノ諸設備復舊ヲ繼續シ又本年度ニ於テ敷地ノ埋立工事ヲ完了セリ四月水産ニ關スル物理學的試驗ノ擴張ヲ行ヒ專任職員並經費ノ増加ヲ得ク

昭和二年

十二月復舊工事中ノ試験部機械工場一棟(一〇〇坪)ヲ建設セリ

三年 本所實習船雲鷹丸ハ既ニ老齡ニ達シ安全ナル航海ヲ期シ能ハサルニ至リタルノミナラス時代ニ適合スル實習船ヲ建造シ學生ノ實習ヲ完カシムルノ要ヲ認メ代船建造ノ豫算ヲ得十一月神戸市川崎造船所ニ於テ工事ニ着手セリ

四年 前年度ヨリ復舊工事中ノ漁撈科及製造科ノ實驗實習場一棟並ニ附屬建物(五四四坪三七五)ノ建設ハ本年二月之カ竣工ヲ告ケタリ

三月官制ヲ改正シテ本所ハ専ラ水産ニ關スル學理及技術ノ教授及攻究ヲ掌ルコトナリ從來ノ試験部及海洋調査部ニ屬スル事務ハ舉ケテ之ヲ四月新設ノ水産試驗場ニ移セリ

四月講習所規程及講習所規則ヲ改正シ本科ニ於ケル學科課程ヲ改訂シテ本年度入學者ヨリ授業料ヲ徵收スルコトトシ又本科ノ上ニ修業年限二箇年ノ專攻科ヲ設ケ昭和八年度ヨリ開設スルコトトセリ

四月處務規程及處務細則ヲ改正シテ教務課及庶務課ノ事務分掌ヲ定メ教育ニ關シテハ重要事項審議ノ爲メ教授會規程ヲ制定シ從來ノ教官會議規程ハ之ヲ廢止セリ又教育規程ヲ設ケテ教務ニ關スル綱要ヲ定メタリ

七月本科成績考查細則ヲ制定シ本科學生ノ學業成績考查ニ關スル基準ヲ定メ本年度本科入學生ヨリ之ヲ實施セリ

八月兼テ建造中ノ實習船進水セルヲ以テ白鷹丸(一、三二七噸七八)ト命名シ九月竣工
十一月初旬東京ニ廻航シテ學生ノ實習ニ使用セリ
十一月十八日品川沖碇泊中ノ實習船白鷹丸ニ於テ農林大臣其他所外ニ於ケル本所關係
諸氏數百名ヲ招待シ翌十九日ハ職員學生一同同船ニ參集シ兩日ニ亘リテ同船ノ竣工式
ヲ舉行シ超テ其二十三、四ノ兩日ハ芝浦岸壁ニ繫留シテ廣ク一般ノ觀覽ニ供シ以テ同
船ノ將來ヲ祝福セリ

五年

五月遞信省告示第千二百八十四號ヲ以テ本科漁撈科及遠洋漁業科卒業者ハ船舶職員法
第五條第二項ニ依リ學術試驗合格者ト認メラレ滿二ケ年ノ乘船履歷ニ應シ漁船甲種二
等運轉士免狀又ハ漁汽船甲種二等運轉士免狀ヲ無試驗ニテ授與セラルコトナレリ
尙ホ遠洋漁業科卒業者ハ前記海技免狀受有後船舶職員試驗規程ニ定ムル受驗履歷ヲ得
タルトキハ漁船甲種一等運轉士免狀又ハ漁汽船甲種一等運轉士免狀ヲ無試驗ニテ授與
セラルコトナレリ

六年

十月實習規程ノ一部ヲ改正ス又實習船規程ヲ改正シテ實習船ニ關スル綱要ヲ規定セリ
九月勅令第百三十四號ヲ以テ水産講習所名譽教授ニ關スル件公布セラル
十月水産局長長瀬貞一所長事務取扱トナル
十二月水産局長戸田保忠所長事務取扱トナリ、同月教授日暮忠所長トナル

七年

三月教授杉浦保吉所長トナル

八年

七月實習船青鵬丸ヲ改造シ噸數五十五噸餘トセリ
八月静岡縣榛原郡吉田村川尻ニ温水性魚族ノ養殖實習場設置ニ着手シ八年三月竣工セ
リ
二月本所規則ノ一部ヲ改正シ授業料ノ免除ニ關スル事項ヲ加ヘ遠洋漁業科ニ一定期間
座學ヲ課スルコトトセリ
四月專攻科ヲ開設セリ
四月本所教育規程ヲ改正シ尙服裝規程ヲモ改メ專攻科、遠洋漁業科學生ノ服制ヲ定メ
タリ
昭和七年度ヨリ復舊工事中ノ廳舎、講堂、教室、實驗室等ノ建築竣工セルヲ以テ四月
末假舎ヨリ移轉ヲ開始シ五月一日ヨリ新假舎ニ於テ授業ヲ開始セリ
八月山梨縣北巨摩郡大泉村ニ冷水性魚族ノ養殖實習場設置ニ着手シ同年十二月竣工セ
リ
九月一日内閣總理大臣ヨリ本所ノ帝都復興ニ關スル功勞ニ對シ感謝狀並帝都復興記念
牌ヲ授與サル

九年

九月三十日御眞影ヲ拜受シ奉戴式ヲ舉行セリ
十二月一日日本所假舎新築落成式ヲ舉行シ引續キ二、三日兩日創立記念祭ヲ開催セリ
小田原實習場ハ製造實習ニ不適當トナリタルヲ以テ静岡縣沼津市本字千本ニ之ヲ移轉
スルニ決シ昭和八年十一月工事ニ着手シ本年三月竣工セリ
四月二十九日學生控所及道場竣工セリ
十月六日本所學生教練查閱御視察ノ爲メ近衛師團長朝香宮鳩彦王殿下臺臨遊サレタリ

第二節 官制、規程及規則

第一 水産講習所官制

明治三十年三月二十二日 勅令 第四十七號

(沿革) 明治三十一年一月勅令第二九八號、三十三年三月同第七二號、三十四年四月同第四二號、三十六年一月同第二三六號、四〇年四月同第一四七號、四一年一月同第二八五號、四二年三月同第七七號、四三年三月同第八四號、同年九月同第三五一號、大正二年六月同第二〇四號、七年四月同第一〇八號、八年四月同第一三六號、九年八月同第三三七號、一〇年五月同第二二〇號、一一年五月同第二四三號、同年一月同第五一〇號、一二年三月同第八八號、一三年二月同第二二二號、同年一月同第二五七號、同年一月同第三六九號、一四年三月同第四一號、昭和二年四月同第八三號、四年三月同第二二號、五年四月同第七七號、六年三月同第三〇號、七年三月同第四三號、八年四月同第五八號、九年十月同第三一七號改正

第一條 水産講習所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ水産ニ關スル學理及技術ノ教授及攻究ヲ掌ル

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 專任 三十人 奏任
- 技師 專任 三人 奏任
- 助教 專任 二十五人 判任
- 助教授 專任 八人 判任
- 屬員 判任

第三條 所長ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條 助教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助

第七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

附則 本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二 水産講習所名譽教授ニ關スル件

昭和六年九月五日 勅令 第二百三十四號

水産講習所ノ教育ニ付功勞顯著ナル者ニハ農林大臣ノ奏薦ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三 水産講習所規程

昭和四年三月 省令 第三號制定

第一條 水産講習所ハ水産ニ關スル學理及技術ヲ教授シ並其ノ蘊奥ヲ攻究シ兼テ徳性ノ涵養ニ努ム

第二條 水産講習所ニ本科、專攻科及遠洋漁業科ヲ置ク

第三條 本科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ニ關シ各必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

第四條 水産講習所ニ入學スル者ハ男子ニシテ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

- (イ) 中學校第四學年ヲ修了シタル者
- (ロ) 高等學校尋常科ヲ修了シタル者
- (ハ) 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

第五條 遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關シ必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

第六條 本科ノ學科目及其ノ程度左ノ如シ

第二節 學年、學期及休業日

第二條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日

ニ終ル

第三條 一學年ヲ分チテ二學期トス

第一學期ハ四月一日ニ始マリ十月三十一日ニ終リ

第二學期ハ十一月一日ニ始マリ翌年三月三十一日

ニ終ル

第四條 休業日左ノ如シ

一日 曜日

一 大祭祝日

一 記念日 三月二十二日

一 春季休業日 自四月一日起至四月七日

一 夏季休業日 自七月二十日起至八月三十一日

一 秋季休業日 自十月二十八日起至十一月二日

一 冬季休業日 自十二月二十五日起至翌年一月七日

實驗及實習ハ休業日ニ於テモ之ヲ課スルコトアルヘシ

第三節 入學、在學、退學及懲戒

第五條 入學期ハ學年ノ始トス

第六條 入學ヲ許可セラルヘキ者ハ男子ニシテ左ノ

各號ノ一ニ該當シ且學力試驗及體格検査ニ合格シ

タルモノニ付其ノ入學前ニ於ケル學業成績及性行

ヲ考查シ之ヲ決ス

一 中學校第四學年ヲ修了シタル者

二 高等學校尋常科ヲ修了シタル者

三 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合

格シタル者

五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ

指定シタル者

六 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ

中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第七條 學力試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依

リ左ニ掲ケル科目ニ付之ヲ行フ

一 國語漢文 二 英語 三 數學

四 物理學 五 化學

第八條 學力試験及體格検査ノ期日及場所ハ官報ヲ

以テ之ヲ公告ス

第九條 入學志願者ハ入學願書(様式第一號)ニ入學

檢定料及左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ所長ニ差出スヘシ

一 履歴書(様式第二號)

二 第六條各號ノ一ニ該當スル資格ヲ證スル證明

書又ハ其ノ資格ヲ取得スヘキ旨ヲ證スル當該學

校長ノ證明書

三 第六條第一號、第二號、第五號又ハ第六號ニ

該當スル者ニ在リテハ學校長ノ學業成績及性行

調査書(様式第三號)

四 六月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脱帽ノ手札

形寫真(裏面ニ第一志望學科名、氏名及生年月

日ヲ自署スヘシ)

入學志願者ハ第一條ニ掲ケル學科ニ付其ノ一ヲ選

ビ願書ニ記載スヘシ但シ志望ノ順位ヲ定メ爾餘ノ

學科ヲ併記スルコトヲ得

第一項ノ書類ノ外所長必要アリト認ムル書類ノ提

出ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 入學檢定料ハ金參圓トシ收入印紙ヲ以テ之

ヲ納ムヘシ

前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼付シテ差出ス

ヘシ

既納ノ入學檢定料ハ之ヲ還付セス

第十一條 入學ノ許可ヲ受ケタル後ニ於テハ他ノ學

科ニ轉スルコトヲ得ス但シ一學年以上在學ノ後特

別ノ事由ニ因リ轉科ヲ望ム者アルトキハ證衡ノ上

學年ノ始ニ於テ他ノ學科ノ第一學年ニ編入スルコ

トアルヘシ

第十二條 第二十一條ノ規定ニ依リ退學シタル者再

入學ヲ請フトキハ證衡ノ上學年ノ始ニ於テ入學ヲ

許可シ原級又ハ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ
第十三條 入學ヲ許可セラレタル者ハ許可ノ日ヨリ

十日以内ニ在學證書(様式第四號)及戶籍謄本ヲ差
出スヘシ正當ノ事由ナクシテ其ノ手續ヲ遅延シタ
ルトキハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條 在學證書ニ署名スヘキ保證人ハ二人トシ
内一人ハ入學者ノ父兄、親戚又ハ入學者ニ學資ヲ

支給スル者、他ノ一人ハ東京市又ハ其ノ附近ニ在
住スル年齢二十五年以上ノ男子タルコトヲ要ス

第十五條 保證人死亡シ又ハ保證人タル資格ヲ缺ク
ニ至リタルトキハ遲滞ナク別ニ保證人ヲ定ムヘシ
所長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之カ變
更ヲ命スルコトアルヘシ

前二項ノ規定ニ依リ保證人ヲ定メタルトキハ保證
人變更届書(様式第五號)ヲ差出スヘシ

第十六條 保證人轉籍、轉居、改姓、改名又ハ改印
シタルトキハ直ニ之ヲ届出ツヘシ

ル者ハ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ願出スヘシ疾
病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル學生ハ之ヲ除
籍スルコトアルヘシ

一 數々遅刻、缺課又ハ缺席スル者

二 一月以上無届缺席スル者

三 成業ノ見込ナキ者

四 二學年ヲ超ユルモ尙原級ニ止マル者但シ休學

期間ハ之ヲ除ク

第二十三條 學生ノ本分ニ背キタル行爲アルトキハ
其ノ輕重ニ依リ左ノ懲戒ニ附ス

戒飭、停學、退學

第四節 試驗、進級及卒業

第二十四條 各學年ノ課程修了ハ學業成績及平素ノ

勤惰ヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十五條 前條ノ考查ニ合格シタル者ハ之ヲ進級
セシメ、合格セサル者ハ次學年ノ始ヨリ原級ノ課

第十七條 學生ハ本所所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ

第十八條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ缺課又ハ缺席シ
タル者ハ其ノ事由ヲ具シ通學生ニ在リテハ保證人
ト連署ヲ以テ、寄宿舍生ニ在リテハ學生取締ノ證
明ヲ經テ速ニ之ヲ届出ツヘシ疾病ニ因リ引續キ一
週間以上缺席スル場合ハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添
附スヘシ

第十九條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ學年間休學
セムトスル者ハ事由ヲ具シ保證人ト連署ヲ以テ許
可ヲ受クヘシ疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添
附スヘシ

休學者ハ次學年ノ始ヨリ之ヲ原級ニ復學セシム
第二十條 兵役ニ服スル爲休學セムトスル者ニ對シ
テハ其ノ服役期間又ハ其ノ學年間休學ヲ許可ス

前項ノ者服役滿期後直ニ就學セムトスルトキハ其
ノ學年ニ於テ之ヲ原級ニ復學セシム

第二十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトス

程ヲ再修セシム

所長必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ進
級シタル者ニ對シ所外ニ於ケル實驗、實習又ハ調
査ニ限リ原級ノ課程ノ全部又ハ一部ヲ再修セシム
ルコトアルヘシ

第二十六條 試驗ハ各學科目ニ付每學期一回以上之
ヲ行フ但シ學科目ノ性質ニ依リ試驗ヲ省略スルコ
トアルヘシ

第二十七條 疾病其ノ他ノ已ムヲ得サル事故ニ因リ
試驗ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ事由
ノ明瞭ナル場合ニ限リ追試驗ヲ施行ス

第二十八條 全課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證書ヲ
授與ス

第二十九條 本節ニ規定スルモノノ外成績考查ニ關
スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五節 授業料

第三十條 授業料ハ一學年金六十五圓トス

授業料ハ左ノ二期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一期 自四月三十一日 金二十五圓
第二期 自十一月三十一日 金三十圓

授業料ハ第一期ニ在リテハ四月八日ヨリ同月十七日迄ニ、第二期ニ在リテハ十一月四日ヨリ同月十三日迄ニ之ヲ納付スヘシ

前項ノ期日後ニ入學又ハ復學シタル者ハ入學又ハ復學ノ際之ヲ納付スヘシ

第三十一條 既納ノ授業料ハ之ヲ還付セス

第三十二條 一期間ヲ通シテ休學シタルトキハ其ノ期ニ屬スル授業料ハ之ヲ徴收セス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ニ屬スル授業料ハ之ヲ徴收ス

第三十三條 授業料ヲ所定ノ期日ニ納付セサル者アルトキハ催告ヲ爲シ尙納付セサルトキハ之ヲ除籍スルコトアルヘシ

第三十三條ノ二 入學後學費ノ支辨著シク困難トナ

ノ如シ

略(本所規程第七條ノ通り)

第三十六條 隨意科目ノ種類及授業時間數ハ毎年之ヲ定ム

學生ハ所長ノ許可ヲ得テ他ノ學科ニ屬スル授業ヲ隨意科目トシテ履修スルコトヲ得

第二節 入學、在學及除籍

第三十七條 入學ヲ許可セラルヘキ者ハ男子ニシテ

左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付其ノ入學前ニ於ケル學業成績及性行ヲ考查シ之ヲ決ス

一 水産講習所本科ヲ卒業シタル者

二 實業專門學校タル水産學校ヲ卒業シタル者

三 前二號ノ外所長ニ於テ水産講習所本科ヲ卒業

シタル者ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者ト認ムル者

所長必要アリト認ムル場合ハ前項第三號ニ掲クル者ニ付其ノ資格ヲ試験スルコトアルヘシ

リタル學生ニハ其ノ學業成績、勤惰及性行ニ付調査ノ上授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第三十三條ノ三 授業料ノ免除ヲ受クヘキ學生ハ每學年ノ始ニ於テ之ヲ定ム

第三十三條ノ四 授業料ノ免除ヲ受クル學生ニシテ免除ヲ必要トスル事情止ミタリト認ムルトキ又ハ學業ヲ怠リ若ハ學生ノ本分ニ背キタル行爲アルトキハ其ノ免除ハ之ヲ取消ス

前項ノ取消アリタル場合ニ於テ徴收スヘキ其期ノ授業料ハ取消ノ翌月ヨリ月割計算ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 專攻科

第一節 學科及學科課程

第三十四條 專攻科ノ學科ヲ分チテ漁撈科、製造科及養殖科トス

第三十五條 學科目ヲ必修科目、選擇科目及隨意科目トス

各學科ニ於ケル必修科目及選擇科目並其ノ程度左

第三十八條 漁撈科ニ在リテハ水産講習所本科漁撈

科ヲ卒業シタル者、製造科ニ在リテハ水産講習所

本科製造科ヲ卒業シタル者、養殖科ニ在リテハ水産講習所本科養殖科ヲ卒業シタル者ハ他ノ入學志願者ニ先チ入學ヲ許可ス

第三十九條 前條ノ入學志願者ノ數各學科ノ收容豫定ノ人員ヲ超ユルトキハ選抜試験ヲ行ヒ入學ヲ許可スヘキ者ヲ定ム

第四十條 第三十八條ニ掲クル者ヲ入學セシメタル後尙闕員アル場合ハ其ノ他ノ本科卒業者ニ對シ先ツ入學ヲ許可シ尙闕員アル場合第三十七條第一項

第二號及第三號ニ該當スル者ニ對シ入學ヲ許可ス前條ノ規定ハ前項ノ入學志願者ノ數補闕豫定ノ人員ヲ越ユル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 左ニ揚クル者ハ前三條ノ規定ニ拘ラス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一 一ノ學科ヲ卒ヘタル者ニシテ更ニ他ノ學科ニ

一 入學ヲ志願スルモノ
二 退學シタル者ニシテ更ニ同一學科ニ入學ヲ志願スルモノ

第四十二條 選拔試験ノ科目、期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第四十三條 入學志願者ハ入學願書(様式第六號)ヲ所長ニ差出スヘシ

入學志願者ハ第三十四條ニ掲クル學科ニ付其ノ一ヲ選ビ願書ニ記載スヘシ但シ志願ノ順位ヲ定メ爾餘ノ學科ヲ併記スルコトヲ得

第三十七條第一項第二號及第三號ニ掲クル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第四十一條ニ掲クル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 履歷書(様式第二號)

二 六月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身服帽ノ手札形寫眞(裏面ニ第一志望學科名、氏名及生年月日ヲ自署スヘシ)

目ノ全部ニ付試験ニ合格シ且卒業論文ヲ提出シ其ノ考查ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ學科中實驗及實習ニ付テハ試験ニ代フルニ平素ノ成績ノ考查ヲ以テスルコトヲ得

第四十七條 隨意科目ハ學生ノ希望アル場合ニ限り試験ヲ行フ

第四十八條 試験ハ每學年一回學年末ニ於テ之ヲ行フ但シ時宜ニ依リ學年中之ヲ行フコトアルヘシ

學生前項ノ試験ヲ受クルコト能ハサリシトキ又ハ試験ヲ受ケテ合格セサリシトキハ其ノ試験ニ合格スルニ依リ專攻科ヲ卒業スルコトヲ得ヘキ者ニ限リ次學年ノ始ニ於テ更ニ試験ヲ受クルコトヲ得

試験ノ期日ハ二週間以前ニ之ヲ所内ニ揭示ス

第四十九條 第四十一條ニ掲クル者ハ從前在學中試験ニ合格シタル學科目ニ付更ニ試験ヲ受クルコトヲ要セス但シ所長ニ於テ其ノ履修ノ程度カ學科課程所要ノ程度ニ相當セスト認ムル場合ハ此ノ限ニ

三 體格検査書(様式第七號)
前項ノ書類ノ外所長必要アリト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四十四條 入學ヲ許可セラレタル者ハ許可ノ日ヨリ十五日以内ニ在學證書(様式第八號)ヲ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ其ノ手續ヲ遅延シタルトキハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル學生ハ之ヲ除籍スルコトアルヘシ

一 缺席久シキニ亘ル者

二 成業ノ見込ナキ者

三 在學四年ヲ超ユルモ尙卒業セサル者但シ休學期間ハ之ヲ除ク

第三節 試験及卒業

第四十六條 專攻科ヲ卒業スルニハ必修科目ノ全部及第三十五條第三項ノ規定ニ依リ選擇シタル學科

在ラス

第五十條 學生ハ本章第一節ノ規定ニ依リ第一學年

ニ於テ履修スヘキ學科中其ノ總數ノ三分ノ二以上ニ相當スルモノニ付試験又ハ之ニ代ハルヘキ成績考查ニ合格シタル後ニ非サレハ第二學年ニ於テ履修スヘキ學科目ニ付試験ヲ受ケ又ハ卒業論文ヲ提出シ其ノ考查ヲ受クルコトヲ得ス

第五十一條 卒業論文ハ學年ノ始ニ於テ其ノ題目ヲ定メ所長ノ承認ヲ經タル上指導教官ノ指導ヲ受ケテ之ヲ作成スヘシ

前項ノ卒業論文ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第五十二條 試験及之ニ代ハルヘキ成績考查ハ各學科目ニ付合格、不合格ヲ決ス

試験、之ニ代ハルヘキ成績考查及卒業論文成績考查ノ結果ハ優、良、可及不可ノ四等ニ分チ之ヲ評定シ優、良及可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第五十三條 前條ノ成績考査ノ結果ハ學生票ニ記入シテ之ヲ交付ス

第四節 授業料

第五十四條 授業料ハ一學年金六十五圓トス
 授業料ハ左ノ二期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一期 自四月三十一日 金三十五圓
 第二期 自十一月三十一日 金三十圓

第五節 雜 則

第五十五條 第二條乃至第五條、第十一條、第十九條乃至第二十一條、第二十三條、第二十八條、第三十條第三項、第四項及第三十一條乃至第三十三條ノ四ノ規定ハ專攻科ニ之ヲ準用ス

第三章 遠洋漁業科

第五十六條 遠洋漁業科ノ修業年限ハ二年トス但シ必要ニ依リ六月以内ニ限り之ヲ短縮スルコトアルヘシ

第五十七條 遠洋漁業科ノ學科目及其ノ程度左ノ如シ之ヲ決ス

- 一 水産講習所本科漁撈科ヲ卒業シタル者
- 二 所長ニ於テ前號ニ掲クル者ト同等以上ノ學術技能及乗船履歷ヲ有スル者ト認メタル者

所長必要アリト認ムル場合ハ前項第二號ニ掲クル者ニ付其ノ資格ヲ試験スルコトアルヘシ

第五十九條 入學志願者ハ入學願書(様式第九號)ニ履歷書(様式第二號)ヲ添ヘ之ヲ所長ニ差出スヘシ

前項ノ書類ノ外所長必要アリト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第六十條 入學志願者ノ數遠洋漁業科ノ收容豫定ノ人員ヲ超ユルトキハ水産講習所本科漁撈科卒業ノ程度ニ依リ選抜試験ヲ行ヒ入學ヲ許可スヘキ者ヲ定ム

前項ノ選抜試験ノ科目ハ其ノ都度之ヲ定ム
 第六十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ休學セムトス

第一學年(自四月一日至七月三十一日) 毎週授業時間數

學科	項目	第一學年	第二學年
航海學	一	二	三
運 用 學	八	八	八
遠 洋 漁 業 論	四	四	四
法	六	六	六
計	三〇	三〇	三〇
所 外 實 習	事 項	航海學、運用學、各種遠洋漁業及無線電信實習	右ニ同シ
第一學年	日 數	二四三日	三六五日
第二學年	日 數	二四三日	三六五日

一 所外實習ハ實習船其ノ他所長ノ指定スル船舶ニ於テ之ヲ行フ

二 授業學科目、授業時間數及所外實習ノ日數ハ時宜ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第五十八條 入學ヲ許可セラルヘキ者ハ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格檢査ニ合格シタルモノニ付其ノ入學前ニ於ケル學業成績及性行ヲ考査

ル者ハ事由ヲ具シ休學ノ期間ヲ定メテ其ノ許可ヲ受クヘシ疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第六十二條 遠洋漁業科ノ卒業ハ修業ノ成績、勤惰、實習報告書及漁撈日誌ヲ考査シ相當ト認メタル者ニ付試験ヲ行ヒ之ヲ定ム

第六十三條 第二條、第五條、第十七條、第十八條第二十一條乃至第二十三條、第二十八條及第四十四條ノ規定ハ遠洋漁業科ニ於テ之ヲ準用ス

第四章 選 科 生

第六十四條 本科又ハ專攻科ノ學科目中一科ハ又ハ數科目ヲ選擇シテ學修セムトスル者ハ教授會ノ議ヲ經テ選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第六十五條 選科生トシテ入學ヲ許可セラルヘキ者ハ男子ニシテ其ノ選擇スル學科目ヲ學修スルニ足ルヘキ學力アルモノニ限ル

前項ノ學力ハ入學試驗ヲ行ヒ之ヲ檢定スルコトアルヘシ

第六十六條 入學志願者ハ入學願書ニ選擇セムトスル學科目ヲ記載シ履歷書ヲ添ヘ之ヲ所長ニ差出スヘシ

第六十七條 選科生ノ入學ハ學生ノ修學ニ妨ケナキ限リ學年ノ始ニ於テ許可ス

第六十八條 選科生ハ其ノ學修シタル學科目ニ付試驗其ノ他成績考査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ成績考査ニ合格シタル者ニハ願ニ依リ證明書ヲ授與ス

第六十九條 本章ニ規定スルモノノ外本科選科生ニ在リテハ本科ノ學生ニ關スル規定ヲ、專攻科選科生ニ在リテハ專攻科ノ學生ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

本則ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ專攻科ニ關スル規定ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ本科ニ在學スル者ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ハ別表ニ依ル

前項ノ者ノ試驗、進級及卒業ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第一章第五節ノ規定ハ第二項ノ者ニ之ヲ適用セス本則施行ノ際現ニ別科ニ在學スル者ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十八條ノ規定ニ依ル入學ノ許可ニ關シテハ第一條第二項ノ學科課程ニ依リ本科漁撈科、製造科又ハ

養殖科ヲ卒業シタル者ハ從前ノ學科課程又ハ別表ノ學科課程ニ依リ本科漁撈科、製造科又ハ養殖科ヲ卒業シタル者ニ優先ス

略(別表)

收 入 印 紙 (參 照) 入 學 願 書 受 驗 地

志望學科 第一志望 第二志望 第三志望

様式第三號

學業成績及性行調査書

原 籍	入學年月	修了又ハ卒業年月	中途退學年月及學設	學業成績		性 質	操 行	特 技	備 考	所 見
				成績ハ百分比ヲ以テ表ハス	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					
				三ノ年	平均					
				最優ノ年	平均					

様式第四號

印紙入
(參錢)

在學證書

私儀今般某科へ入學許可相成候ニ付テハ規則規程等固ク遵守シ専心
勉勵可致ハ勿論中途退學致ス間敷候仍テ在學證書如斯候也

本籍 族稱
家業 戶主又ハ世帯主トノ關係
現住所

年 月 日 何 某◎

右某儀今般入學許可相成候ニ付テハ同人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ
於テ引受可申候也

本籍 族稱
職業 學生トノ關係 (學生ノ父兄、親戚又ハ學費支給
人タル關係ヲ記スヘシ)

現住所 保證人 何 某◎
何年何月何日生

本籍 族稱
職業 學生トノ關係
現住所 保證人 何 某◎
何年何月何日生

水産講習所長何某殿

様式第五號

保證人變更届書

科第

學年學生

三四

人證保新		
氏名	生年月日	現住所
學生ノ續柄		

儀今般 候ニ付テハ
ト協力シ本人一身上ニ就テハ一切引受可申仍テ新舊保
證人連署此段及御届候也

年 月 日 何 某◎
舊保證人 何 某◎
新保證人 何 某◎

様式第六號

入學願書

志望學科 第一 志望
第二 志望
第三 志望
私儀水産講習所専攻科へ入學致度左記書類相添へ此段相願候也

年 月 日 何 某◎

水産講習所長何某殿

左記

- 一 履歷書
- 一 寫眞
- 一 體格検査書

様式第七號

體格検査書

族稱 戶主又ハ世帯主トノ關係

何 某◎
何年何月何日生

體格 (甲、乙、丙) (最も強健ナル者ヲ甲トシ之ニ亞ク者
ヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナル者若ハ著シ
キ疾患ヲ有スル者ヲ丙トス)

一 身長 (何 尺)

一 體重 (何 石)

一 胸圍 (何 寸) 當時、充盈、空虚及其ノ差

一 視力 (何 々) スネルレン氏ノ檢視法ニ依リ左右共其ノ
中心視力ヲ檢シ辨色力眼疾ヲモ検査スヘシ

一 聴力 (通) (過) (鈍) 左右兩耳ニ就キ懷中時計ニテ可及的其
ノ聴取ノ最遠ヲ測定シ一センチメートル
ニテ肥人シ尙障害ノ有無耳疾ヲモ
検査スヘシ

一 神經系

一 呼吸器

様式第八號

在學證書

私儀今般専攻科某科へ入學許可相成候ニ付テハ規則規程等固ク遵守
シ専心勉勵可致ハ勿論中途退學致ス間敷候仍テ在學證書如斯候也

本籍 族稱
家業 戶主トノ關係
現住所 何 某◎
何年何月何日生

水産講習所長何某殿

様式第九號

入學願書

私儀水産講習所遠洋漁業科へ入學致度履歷書相添へ此段相願候也

年 月 日 何 某◎

三五

第五 水産講習所入學試業料 ニ關スル件

大正六年二月二十六日
農商務省令第四號

水産講習所入學試業料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ
前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼付シ消印ヲ爲サ
スシテ差出スヘシ水産講習所長ハ其ノ收受スルモノ
ナルヲ認メタル後願書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ
消印ヲ押捺スヘシ但志願者ニ於テ自己ノ便宜上消印
ヲ爲スハ之ヲ妨ケス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六 水産講習所處務規程

明治三十一年十一月二十八日
訓令第四十號
明治三十七年一月訓令第三號、同
四一年一月訓令第四〇號、同
正八年九月訓令第二〇號、昭和
四年四月訓令第二號改正

ムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 所長處務細則又ハ水産講習所規則ノ施行上

必要ナル細則ヲ設ケタルトキハ之ヲ農林大臣ニ報
告スヘシ

第六條 所長ハ毎年事業ノ成績ヲ農林大臣ニ報告ス
ヘシ

第七 水産講習所處務細則

明治三十一年十一月制定
明治三十七年一月、大正三
年三月、同八年一月、昭
和四年四月改正

第一章 總則

第一條 所長ハ所長ノ決裁ヲ經ルニ非サレハ之ヲ施行スルコトヲ得
ス但シ輕易ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 教務課ニ教務、學生、圖書及標本ノ四係ヲ置キ庶務課ニ文
書及會計ノ二係ヲ置ク

第三條 課ニ課長、係ニ主任ヲ置キ所管事務ヲ處理セシム
所屬職員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ニ従事スヘシ

第四條 分掌セル事務ノ相關聯スルモノハ合議スヘシ

第五條 所長ハ重要ナル事務ニ關シ必要アリト認ムルトキハ關係職

第一條 水産講習所ニ教務課及庶務課ヲ置ク

第二條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 入學、退學及試験ニ關スル事項

二 教授會ニ關スル事項

三 學生ノ訓育及取締ニ關スル事項

四 寄宿舎ノ取締ニ關スル事項

五 圖書及標本ニ關スル事項

六 其ノ他教務ニ關スル事項

第三條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官印ノ保管ニ關スル事項

二 所員ノ進退身分ニ關スル事項

三 所内取締ニ關スル事項

四 文書ノ接受、發送及保管ニ關スル事項

五 豫算、決算及會計ニ關スル事項

六 國有財産及物品ニ關スル事項

七 他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第四條 所長水産講習所規則ヲ定メ又ハ之ヲ變更セ

員ノ會議ヲ開クコトアルヘシ

第二章 事務分掌

第六條 教務課教務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 學生ノ募集、入學、退學及休學ニ關スル事項

二 學籍及學生ノ身上ニ關スル事項

三 學生ノ試験、成績考査、進級及卒業ニ關スル事項

四 漁撈、製造及養殖各學科間ノ連絡統一ニ關スル事項

五 學科課程及授業時間配當ニ關スル事項

六 學生ノ所外ニ於ケル實驗、實習及調査ニ關スル事項

七 卒業生ニ關スル事項

八 教授會ニ關スル事項

九 參觀人ニ關スル事項

一〇 講堂、教室、學生控所及教具ノ設備及整理ニ關スル事項

一一 教務ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項

一二 儀式ニ關スル事項

一三 其ノ他教務ニ關スル事項

第七條 教務課學生係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 學生ノ訓育及賞罰ニ關スル事項

二 學生ノ風紀取締ニ關スル事項

三 學生ノ衛生保健ニ關スル事項

四 學生ノ集會、揭示及印刷物ニ關スル事項

五 學生ノ勤惰ニ關スル事項

- 六 學生ノ願届ニ關スル事項
 - 七 學生ノ兵籍ニ關スル事項
 - 八 學生ノ寄宿舎入退ニ關スル事項
 - 九 寄宿舎ノ取締ニ關スル事項
 - 一〇 學生取締ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項
- 第八條 教務課圖書係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 圖書ノ出納、整理及保管ニ關スル事項
 - 二 研究報告及圖書目錄ノ編纂ニ關スル事項
 - 三 圖書ノ貸付ニ關スル事項
 - 四 書庫及閱覽室ノ整理取締ニ關スル事項
 - 五 圖書委員會ニ關スル事項
 - 六 圖書ノ交換及配付ニ關スル事項
 - 七 圖書ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項
 - 八 其ノ他圖書ニ關スル事項
- 第九條 教務課標本係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 標本ノ出納、整理及保管ニ關スル事項
 - 二 標本室ノ整理取締ニ關スル事項
 - 三 標本ノ貸付ニ關スル事項
 - 四 標本ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項
 - 五 其ノ他標本ニ關スル事項
- 第十條 庶務課文書係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 御眞影及勅語標本ノ保管ニ關スル事項

- 二 官印ノ保管ニ關スル事項
 - 三 所員ノ進退、身分ニ關スル事項
 - 四 所員ノ出勤簿管理ニ關スル事項
 - 五 所員ノ出張及諸願届ニ關スル事項
 - 六 公文書ノ接受及發送ニ關スル事項
 - 七 諸規則ノ制定及改廢ニ關スル事項
 - 八 庶務ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項
 - 九 他課ノ主掌ニ關セサル事項
- 第十一條 庶務課會計係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 歳入歳出ノ豫算及決算ニ關スル事項
 - 二 金錢ノ出納及保管ニ關スル事項
 - 三 物品ノ出納及保管ニ關スル事項
 - 四 國有財産ノ管理ニ關スル事項
 - 五 廳舎其ノ他ノ營繕ニ關スル事項
 - 六 會計ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項
 - 七 守衛、給仕、小使等ノ備罷、賞與及監督ニ關スル事項
 - 八 宿直ニ關スル事項
 - 九 所内取締ニ關スル事項
 - 一〇 其ノ他會計ニ關スル事項

第三章 文書取扱

第十二條 公文書ハ總テ庶務課文書係ニ於テ接受シ受付簿ニ接受ノ番號、年月日ヲ記入シ所長ノ檢印ヲ受ケ各主管ニ配付スヘシ但シ

- 親展文書ハ封緘ノ儘宛名ノ者ニ交付スヘシ
- 第十三條 前條ニ依リ配付ヲ受ケタル文書ハ各主管ニ於テ之ヲ成案ト爲シ庶務課長ヲ經テ所長ノ決裁ヲ受クヘシ但シ處分又ハ回答ノ要ナシト認ムルモノハ所長ノ閱覽ニ供スヘシ
- 第十四條 成案ニシテ他ノ主管ニ關係アルモノハ之ト合議スヘシ合議後成案ヲ改廢シタルトキハ更ニ合議ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十五條 文書ハ一事件毎ニ終始同一ノ番號ヲ付シ且ツ其起端ヨリ完結ニ至ル迄之ヲ一括シテ綴綴スヘシ
- 第十六條 決裁ヲ經タル文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ文書係主任ニ於テ淨書校合シ發送ノ手續ヲ爲スヘシ
- 前項ノ文書ニ添付スヘキ別紙及圖表等ハ各主管ニ於テ作成シ原案ニ添付シ置クヘシ
- 發送ヲ終リ又ハ發送ヲ要セサル成案文書ハ保存ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十七條 本所ノ主管ニ屬セサル文書ハ文書係ニ於テ轉送又ハ返戻ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十八條 接受シタル公文書ニ有價證券、印紙又ハ物品等ヲ添付シタルモノアルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記入シ文書ト共ニ主管ニ配付シテ受領者ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第十九條 所員名ヲ以テ發送スル文書ハ必ス封筒ニ官氏名ヲ記シ主任ノ檢印ヲ受クヘシ
- 市外通話料ヲ要スル電話通信ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ會計係主任ノ承認ヲ受クヘシ
- 第二十條 所員ノ進退及賞罰ニ關スル事項ハ之ヲ機密事務トシテ取

扱フヘシ

第二十一條 處分完結シタル文書ハ各主管ニ於テ左ノ類別ニ從ヒ保存スヘシ

- 一 永久保存
- 二 諸達及報告書類等ニシテ例規微證ニ供スヘキ重要文書
- 三 拾年保存
- 四 壹年以上拾年以内参照ノ必要アリト認ムル文書
- 五 一時ノ措辦ニ係ル文書

第四章 會計

第二十二條 物品ノ購入、修繕又ハ人夫ノ傭入ヲ要スルトキハ物品取扱主任ニ於テ請求書ニ必要ノ理由ヲ記シ當該課長又ハ主任ノ檢印ヲ受ケ庶務課會計係ニ回付スヘシ

第五章 雜則

- 第二十三條 所員ハ出勤時限迄ニ出頭シ自カラ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第二十四條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出勤スルコト能ハサルトキハ速ニ届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ及フトキハ療養期間ヲ記載シタル醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ
- 第二十五條 看護、歸省、墓參、轉地療養又ハ旅行ノ爲請暇セムトスルトキハ事由ヲ具シテ許可ヲ受クヘシ
- 第二十六條 出張ノ命ヲ受ケタル者ハ其ノ出發又ハ歸所ヲ届出テ遅

滞ナク復命書ヲ差出スヘシ但シ簡單ナル事項ニ關シテハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第二十七條 忌ニ服スル者ハ其ノ事由及死亡者トノ親族關係ヲ記載シタル届書ヲ差出スヘシ

第二十八條 父母ノ祭日ニ請假セムトスル者ハ豫メ届出ツヘシ

第二十九條 改名、轉籍、轉居、改印其ノ他身分ニ異動チ生シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三十條 官廳其ノ他ヨリ本所ヲ經由セスシテ辭令書ヲ受ケタルトキ其ノ事項ノ履歷上ニ關係アルモノハ其ノ寫ヲ添ヘ之ヲ届出ツヘシ

第三十一條 本所ニ本務ヲ奉スル者ハ所長ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ他ノ職務ニ從事スルコトヲ得ス

第三十二條 轉任、退官若ハ休職ヲ命セラレタルトキハ其ノ擔任事務ニ關シ説明書ヲ作り後任者若ハ所長ノ指定シタル所員ニ引繼キ授受者連署ヲ以テ届出ツヘシ

第三十三條 非常事變アルトキハ速ニ出頭シ直ニ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十四條 所員ニ傳達スヘキ事項ハ通知簿又ハ書面ヲ以テ課長及主任ニ通知ス、課長及主任ハ之ヲ所屬職員ニ傳達スヘシ

第八 水産講習所教育規程

(沿革) 昭和四年五月制定
昭和八年五月三日改正

- 第一部 漁法學ヲ主トスルモノ
 - 第二部 漁具材料學ヲ主トスルモノ
 - 第三部 漁具學ヲ主トスルモノ
 - 第四部 漁撈機械學ヲ主トスルモノ
 - 第五部 漁船學ヲ主トスルモノ
 - 第六部 水産法制及水産經濟學ヲ主トスルモノ
- 製造學科
- 第一部 水産製造學ヲ主トスルモノ
 - 第二部 水産製造原料學ヲ主トスルモノ
 - 第三部 水産商品學ヲ主トスルモノ
 - 第四部 水産製造機械學ヲ主トスルモノ
 - 第五部 水産法制及水産經濟學ヲ主トスルモノ
- 養殖學科
- 第一部 水産増殖論ヲ主トスルモノ
 - 第二部 種苗改良論ヲ主トスルモノ
 - 第三部 魚病學ヲ主トスルモノ
 - 第四部 水質學ヲ主トスルモノ
 - 第五部 餌料學ヲ主トスルモノ
 - 第六部 養殖土木學ヲ主トスルモノ
 - 第七部 水産法制及水産經濟學ヲ主トスルモノ
- 第六條 專攻科各部主任ハ當該部ニ屬スル學生ノ指導ニ當ルモノトス
- 第七條 遠洋漁業科ニ主任ヲ置ク

第一條 本所學生ノ教育ニ關シ教務課長ハ所長ノ指揮ヲ受ケ其ノ統

一ニ當ルモノトス

第二條 本科及專攻科ニ漁撈學科、製造學科及養殖學科ヲ置キ各學科ニ主任ヲ置ク

第三條 本所ニ左ノ教室ヲ置キ各教室ニ主任ヲ置ク

漁撈學教室 製造學教室 養殖學教室 物理學教室 化學教室
法製經濟學教室 語學教室 數學教室 機械學教室 海洋學教室
動物學教室 植物學教室 細菌學教室

航海學、運用品學、漁船學、及漁船設計論ハ漁撈學教室ニ、水産商
品學ハ製造學教室ニ、魚病學、土木學、地質學、養殖保護論、水
質學、餌料學、種苗改良論及養殖場設計法ハ養殖學教室ニ、氣象
學ハ物理學教室ニ、商業概論、漁業經營論、工場經營論、養殖經
營論、統計學、水産政策及水産史ハ法製經濟學教室ニ、機關學、
漁船機關學及工場設計法ハ機械學教室ニ、湖沼學及海洋漁場學ハ
海洋學教室ニ、浮游生物學、漁撈生物學、養殖生物學、水産生物
生理學、生物計測學及比較發生學ハ動物學教室ニ屬セシム

第四條 教室主任ハ當該教室ニ關シ左ノ事項ヲ掌ルモノトス

一 教授分擔ニ關スルコト
二 教授要旨及細目ノ作製ニ關スルコト
三 教科書及參考書ノ選擇並編纂ニ關スルコト

第五條 專攻科ノ各學科ヲ左ノ數部ニ分チ各主任ヲ置ク

漁撈學科

遠洋漁業科主任ハ其ノ科ノ統制並學生ノ指導ニ當ルモノトス

第八條 本所ニ學生取締若干名ヲ置キ内一名ヲ主任トス

學生取締ハ左ノ事項ヲ掌ルモノトス

一 學生ノ訓育ニ關スルコト
二 學生ノ風紀ニ關スルコト
三 寄宿舎ニ關スルコト

第九條 本科各學級ニ主任ヲ置ク

學級主任ハ當該學級ノ學生ニ關シ左ノ事項ヲ掌ルモノトス

一 所規命令ノ實行ニ關スルコト
二 學業ノ督勵並其ノ向上ニ關スルコト
三 操行、保健並思想ニ關スルコト
四 其ノ他學生ノ身上ニ關スルコト

第十條 各教官ハ左ノ事項ヲ擔任スルモノトス

前項ノ規定ハ專攻科各部主任及遠洋漁業科主任ニ之ヲ準用ス

一 學生ノ教授、指導及訓育ニ關スルコト
二 擔任學科目ノ教授要旨及細目ノ作製ニ關スルコト
三 學生ノ成績調査ニ關スルコト
四 入學試驗其ノ他臨時教務ノ事務ニ關スルコト
五 教科書及參考書ノ選擇及編纂ニ關スルコト

第九 水産講習所教授會規程

(沿革) 昭和四年五月制定
昭和四年一月二日、
同八年六月八日改正

- 第一條 本所ニ教授會ヲ置キ教授ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第二條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス
 - 一 學科課程並其ノ實施ニ關スル事項
 - 二 學生ノ入學試驗、進級及卒業並懲戒ニ關スル事項
 - 三 所長ノ諮問シタル事項
- 第三條 教授會ハ總會及部會トス
 - 總會ハ各科ニ關聯スル第二條ニ該當スル事項ヲ審議スル爲メ教授全員ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 部會ハ本科、專攻科及遠洋漁業科ノ各部會ニ分チ當該科ノミニ關スル第二條ニ該當スル事項ヲ審議スル爲メ當該科關係ノ教授ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第四條 所長ハ教授會ヲ召集シ其議長トナル但シ所長事故アルトキハ教務課長之ヲ代理ス
- 第五條 所長ハ必要アリト認ムルトキハ助教教授其ノ他ノ教官若クハ當該科ニ關係ナキ教授ヲ教授會ニ出席セシムルコトヲ得但シ評決ニハ之ヲ加ヘス
- 第六條 教授會ハ教授半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス、但シ在外研究員並公務出張中ノ者ハ其ノ留學期間又ハ出張期間之ヲ定員外ニ置クモノトス
- 第七條 教授會ノ決議ハ出席教授ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
- 第八條 教授會ニ附議セントスル事項アルトキハ教授ハ其ノ事由ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ所長ニ申請スルコトヲ得
- 第九條 緊急ノ必要アル場合ニ於テハ會議中出席教授過半數ノ同意ヲ得テ議案ヲ提出スルコトヲ得

第一〇 本科成績考查細則

昭和四年七月制定

- 第一條 學業成績ハ本所規則及本細則ニ依リ之ヲ考查ス
- 第二條 學業成績ノ考查ハ各學科目ト所外ニ於ケル實驗、實習及調査トニ分チ之ヲ行フ
- 第三條 各學科目ノ學業成績ハ每學期試驗ノ成績ト平常ノ成績トニ依リテ定メ之ヲ學期成績トシ學期成績平均シテ學年成績トス、但シ試驗ヲ省略シタル學科目ニ付テハ平常ノ成績ニ依リ之ヲ定ム
- 第四條 各學科目ノ學業成績ハ評點ヲ以テ之ヲ示シ一百ヲ以テ最高點トス
- 第五條 各學科目ノ學業成績六十點以上ヲ得タル者ハ當該學年ノ學科目ヲ修了シタルモノトス
- 前項ノ成績ヲ得サルモ各學科目ノ學年成績ノ總平均六十點以上ヲ得タル者ニシテ學年成績五十點未滿ノ學科目ナキモノハ教授會ノ議ヲ經テ當該學年ノ學科目ヲ修了シタルモノト認ムルコトアルヘシ

第一一 水産講習所入學志願者體格検査標準

- 第一條 身體強健ニシテ全身ノ發育完全ナル者ヲ合格トス
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ不合格トス
 - 一 身體虛弱ナル者、筋肉ノ發育軟弱ナル者、惡性若ハ腺病性體質ヲ具フル者
 - 二 漁撈科ニ在リテハ身長一・五五「メートル」(五尺)ニ達セサル者
 - 三 精神機能ニ障礙アル者及神經系ニ障害アル者(高度ノ神經衰弱又ハ知覺若ハ運動ノ痲痺又ハ異常アル者等)
 - 四 色盲及色神不完全ノ者
 - 五 中心視力カ左右共一・〇ニ達セサル者、一眼強度ノ近視アル者(漁撈科ニ在リテハ輕度ト雖モ左右共ニ近視又ハ遠視ナル者)、偏眼失明セル者、斜視傳染性又ハ慢性難治ノ眼疾アル者其ノ他學科ノ修業ニ堪ヘサル眼疾若ハ畸形アル者但シ製造科及養殖科ニ在リテハ近視共ニ六度ヨリ輕度ノ者或ハ正視視ニシテ矯正ノ上規定ノ視力ヲ回復シ得ル者或ハ偏眼正視ノ者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 六 左右又ハ一方ノ聽力三十種以内ニ於テ懷中時計ノ音ヲ聽取シ能ハサル者若ハ百種ニ於テ囁語試驗ニ合格セサル者及左右又ハ一方ノ鼓膜ニ穿孔アル者、中耳及内耳ノ疾病或ハ慢性外耳

- 第六條 追試験ノ成績ハ次學期授業開始ノ日ヨリ三週間以内ニ於テ施行シタルモノニ付之ヲ定ム
- 病氣其ノ他己ムヲ得サル事故ニ因リ前項ノ期間内ニ追試験ヲ受クルコト能ハサルモノニ付テハ教授會ノ議ヲ經テ認定點ヲ附スルコトアルヘシ
- 第七條 所外ニ於ケル實驗、實習及調査ノ成績ハ之ヲ優、良、可及不可ノ四ニ分チ學科課程ニ依ル各項毎ニ一科目トシテ評定シ不可ノ科目ハ次學年ニ於テ之ヲ再修セシム
- 次學年ニ於テ再修スルコト能ハサル場合ハ更ニ次學年ニ於テ之ヲ爲サシメ場合ニ依リテハ卒業ヲ延期シテ之ヲ爲サシム
- 再修セシメタル科目ニ付尙成績不可ナル者ハ教授會ノ議ヲ經テ本所規則第二十二條第三項ニ該當スルモノト認ムルコトアルヘシ
- 第八條 疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ニ因リ當該學年中ニ履習シ得サリシ所外ニ於ケル實驗、實習及調査ハ次學年ニ於テ之ヲ履習セシメ尙同學年ニ於テ履習シ得サルトキハ前條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

附 則

本細則ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

疾病アル者但シ製造科及養殖科ニ在リテハ鼓膜穿孔アルモ規定ノ聴力ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

七 聲音明晰ナラサル者、吃者、發音ニ障害アル者、大聲ヲ發シ得サル者

八 脊柱ニ高度ノ彎曲又ハ屈曲アル者、腐骨ノ疑ヲ認ムヘキ者、傷疾、疾病ニ起因スル畸形又ハ運動障碍アル者

九 心臟病、癩病、結核病、性病、腎臟病、糖尿病、惡性腫瘍、重症貧血、脫腸病、傳染性皮膚病其ノ他醫學上妨アル持久性疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病アル者

十 前各號中其ノ程度性狀ニ依リ醫學上差支ナキ者又ハ手術、加療等ニ據リ全治又ハ輕快ノ見込アル者ハ詮議ノ上合格トナスコトアルヘシ

第二二 水産講習所學生服裝規程

第一條 學生ハ左ノ服裝ヲ爲スヘシ

イ 帽

制式 圖ノ如シ

前章 金モール製圖ノ如シ

前庇 黒塗革

頸紐 黒塗革(幅一釐)

釦 金色金屬製圖ノ如シ

帶布 黑色綾織(幅四釐)
地質 濃紺絨

衣 制式 圖ノ如シ
本科及專攻科ハ金色金屬製胸釦徑二・二釐袖釦一・五釐

襟章 本科 金モール製各科ノ頭文字漁、製、養(徑一・二釐)ヲ左襟ニ附シ同シク學級ヲ示ス文字A、B、C、D(徑一・二釐)ヲ右襟ニ附ス

專攻科 銀臺七寶燒付(長サ二・七釐、幅〇・九釐)ノ中央ニ水産マーク(徑一・五釐)其ノ右ニ專(長サ〇・五釐、幅〇・三釐)左ニ各科ノ頭文字漁、製、養(長サ〇・五釐、巾〇・三釐)ヲ表シタルモノヲ左襟ニ附ス

遠洋漁業科 金モール製水産マーク(徑一・五釐)ヲ左襟ニ附ス

地質 濃紺絨

袴 制式 圖ノ如シ
地質 衣ニ同シ

靴 制式 編上ケ又ハ短靴
地質 黒革

體操、實習及實驗ニ従事スルトキハ左ノ實習服ヲ着用スヘシ

シ

制式 圖ノ如シ

地質 白色雲才織

第三條 實習船乗組中ハ「白カツラヤ」ノ略服ヲ用フルコトヲ得但シ制式釦及襟章ハ第一條ノ衣袴ニ同シ

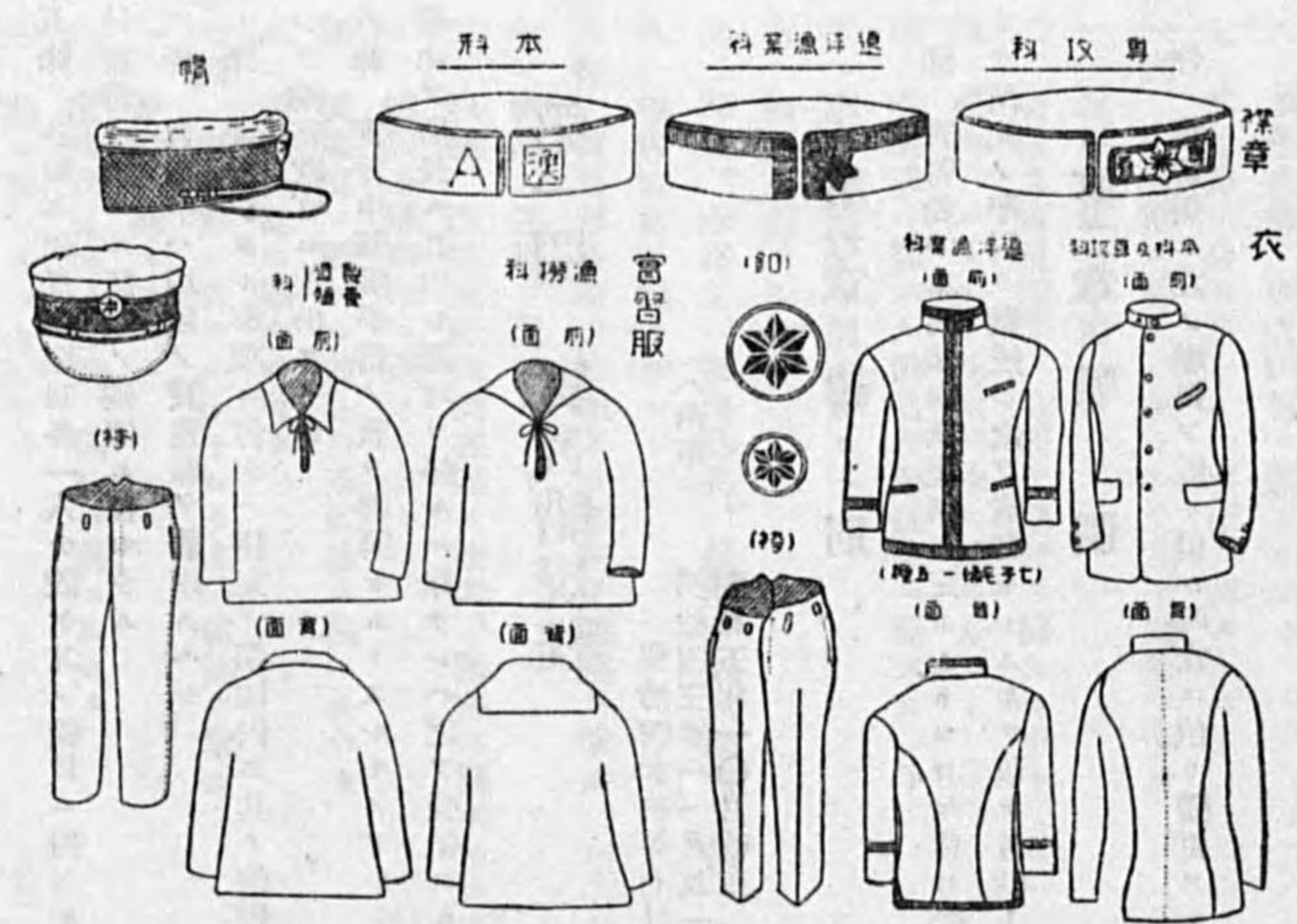
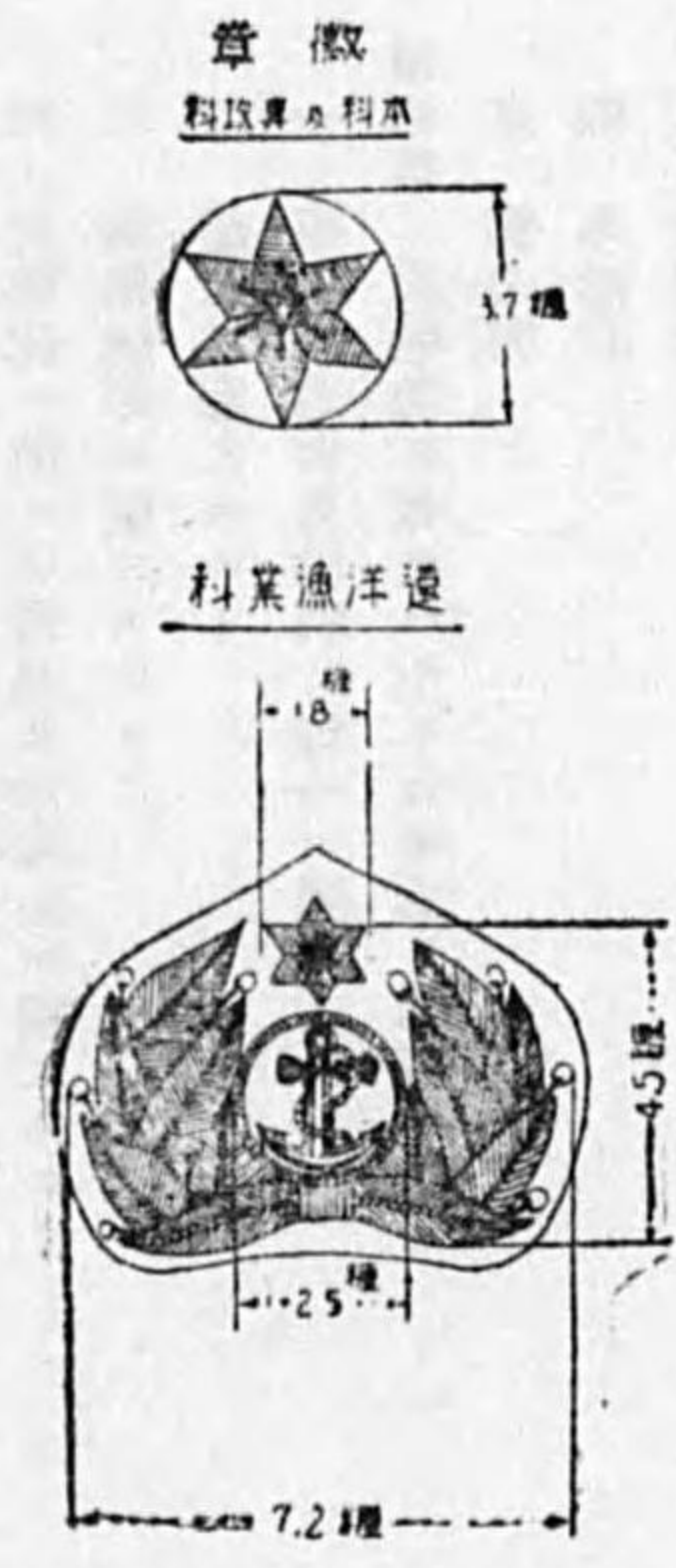
略服着用ノ場合ニハ帽ニ白色ノ被覆ヲ附スルモノトス

第四條 疾病其ノ他止ムラ得サル事故ニ因リ所定ノ服裝ヲ爲スコト能ハザルトキハ教務課ノ許可ヲ得テ所定外ノ服裝ヲ爲スコトヲ得但シ和服着用ノ場合ハ袴ヲ着用スヘシ

第五條 新ニ入學シタル者ハ其ノ年五月末日迄ニ所定ノ服裝ヲ調フヘシ

附 則

本則ハ昭和八年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス



- 其往復ノ旅費ヲ補給ス
- 第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クヘシ
- 第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組員ニ對スル通達其ノ他實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム
- 第六條 實習中ハ規程ノ實習服ヲ着用スヘシ
- 第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ擔當教官ニ差出スヘシ
- 第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セムトスルモノアルトキハ其ノ事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ受領スルヲ得ス

第一四 實習船規程

(沿革) 明治四十三年七月制定
 明治四三年一月及一二月
 昭和五年一〇月改正

第一章 總 則

第一條 實習船ハ本所規程及規則ノ定ムルトコロニ從ヒ學生ヲ收容シテ所定ノ學科ヲ教授シ之ヲ實習セシムルヲ以テ目的トス

第二章 職 制

第二條 實習船ニ左ノ職員ヲ置リ但シ時宜ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第一三 實習規程

(沿革) 明治三十年四月制定
 明治三二年三月、大正二年
 六月、昭和五年一〇月改正

- 第一條 實習ハ本所及實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テ從事セシム
- 第二條 實習ノ事項及實習ノ時期ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム
- 第三條 實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ水産講習所旅費規程ニ依

- 一 船長
 - 二 漁撈部長
 - 三 一等運轉士、二等運轉士、三等運轉士
 - 四 機關長、一等機關士、二等機關士、三等機關士
 - 五 製造主任
 - 六 生物主任
 - 七 事務長
 - 八 無線電信取扱主任
 - 九 船醫
 - 十 助手
- 第三條 實習船ニ左ノ五部ヲ置ク但シ職務執行ノ都合ニ依リ適宜併合スルコトヲ得
- 一 漁撈部
 - 二 甲板部
 - 三 機關部
 - 四 事務部
 - 五 衛生部
- 第四條 漁撈部ニ於テハ主トシテ左ノ職務ヲ掌ル
- 一 學生ノ教育及訓練ノ統一ニ關スルコト
 - 二 漁撈ニ關スルコト
 - 三 漁場調査ニ關スルコト
 - 四 漁撈部ニ屬スル備品及消耗品ニ關スルコト
 - 五 漁獲物處理ニ關スルコト

- 六 水産生物ノ調査研究ニ關スルコト
 - 七 其他特ニ命セラレタル事項ニ關スルコト
- 第五條 甲板部ニ於テハ主トシテ左ノ職務ヲ掌ル
- 一 運用、航海ニ關スルコト
 - 二 船體及艙裝物件ノ整理、保存ニ關スルコト
 - 三 荷物、パラスト及飲料水ニ關スルコト
 - 四 甲板部ニ屬スル備品及消耗品ニ關スルコト
 - 五 旗章及信號ニ關スルコト
 - 六 氣象ニ關スルコト
 - 七 海圖、水路誌、航海器具、航海日誌及圖書ニ關スルコト
 - 八 無線電信ニ關スルコト
- 第六條 機關部ニ於テハ主トシテ左ノ職務ヲ掌ル
- 一 機關ノ運轉ニ關スルコト
 - 二 汽機、汽罐及船内機械類ノ整理、保存ニ關スルコト
 - 三 燃料及罐用水ニ關スルコト
 - 四 機關部ニ屬スル備品及消耗品ニ關スルコト
 - 五 機關日誌ニ關スルコト
- 第七條 事務部ニ於テハ主トシテ左ノ職務ヲ掌ル
- 一 會計ニ關スルコト
 - 二 庶務及文書ノ發受、保存ニ關スルコト
 - 三 賄ニ關スルコト
 - 四 事務部ニ屬スル備品及消耗品ニ關スルコト
 - 五 其ノ他各部ニ屬セザル事項ニ關スルコト

第八條 衛生部ニ於テハ主トシテ左ノ職務ヲ掌ル

- 一 醫務室ニ關スルコト
- 二 衛生・保健ニ關スルコト
- 三 衛生部ニ屬スル備品及消耗品ニ關スルコト

第三章 職員

第九條 船長ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ實習船ノ運航ヲ掌リ乘組員ヲ指揮監督シ學生ノ教育其ノ他一切ノ船務ヲ統理ス

第十條 船長ハ每航海期ノ終ニ於テ其ノ航海並學業ニ關スル報告書ニ別表書式ノ考課表及衛生狀態調査書ヲ添ヘ所長ニ提出スヘシ但シ該報告書ハ其ノ航海期中便宜數回ニ分割シテ提出スルコトヲ得

第十一條 船長ハ所長ノ決裁ヲ經テ實習船内規ヲ定メ又ハ之ヲ改廢スルコトヲ得

第十二條 船長ハ船内ニ於ケル授業ノ配當ヲ爲シ之レカ教授又ハ指導ノ擔當ヲ定メ且ツ之ヲ統轄ス

第十三條 漁撈部長ハ船長ノ命ヲ承ケ學生ノ教育及漁撈部ノ業務ヲ掌理ス

第十四條 一等運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケ船務ヲ掌理シ甲板部及漁撈部ノ業務ニ従事ス

第十五條 漁撈部長事故アルトキハ船長又ハ一等運轉士之ヲ代理ス

第十六條 二、三等運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケ漁撈部長及一等運轉士ヲ補佐シ各擔當ノ業務ニ従事ス

第十七條 機關長ハ船長ノ命ヲ承ケ機關部ノ業務ヲ掌理シ部員ヲ指揮監督ス

第十八條 一、二、三等機關士ハ船長ノ命ヲ承ケ機關部ノ業務ニ従事ス

第十九條 製造主任ハ船長ノ命ヲ承ケ漁獲物處理ニ關スル業務ヲ掌理ス

第二十條 生物主任ハ船長ノ命ヲ承ケ水産生物ニ關スル業務ヲ掌理ス

第二十一條 事務長ハ船長ノ命ヲ承ケ事務部ノ業務ヲ掌理ス

第二十二條 無線電信取扱主任ハ船長ノ命ヲ承ケ無線電信ニ關スル業務ヲ掌理ス

第二十三條 船醫ハ船長ノ命ヲ承ケ衛生部ノ業務ヲ掌理ス

第二十四條 助手ハ船長ノ命ヲ承ケ各所屬部ノ業務ニ従事ス

第二十五條 職員ハ每航海期ノ終ニ各々其ノ擔任授業ニ付學生ノ學業成績表ヲ作成シ之ヲ船長ニ提出スヘシ

第四章 航海

第二十六條 航海ノ實施ニ關シテハ船長ハ其ノ都度漁撈學科主任ト協議シテ計畫ヲ立テ所長ノ決裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二十七條 航海實施中前條ノ計畫ヲ變更スルノ必要生シタルトキハ船長ハ理由ヲ具シテ所長ノ指揮ヲ受クヘシ但シ緊急又ハ已ムヲ得サル場合ハ變更後直チニ所長ニ報告スヘシ

第二十八條 航海期間ハ一學年ヲ二期ニ分テ各六ヶ月ヲ以テ一期トス、但シ時宜ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第二十九條 船長ハ碇泊中學生ヲシテ當該地方水産業ノ狀況ヲ調査シ又ハ觀察セシムルコトヲ得

第三十條 船長ハ一航海期内ニ於テ實習上必要ト認ムル場合ハ學生ヲシテ他ノ漁船ニ便乗セシムルコトヲ得、此場合ニ於テ便乗セシメタル趣旨、人員數、便乗船ノ種類、船名、當該漁船ノ所有主、其ノ他必要ト認ムル事項ニツキ遲滞ナク所長ニ報告スヘシ

第三十一條 各職員ハ其ノ擔當授業ニ付豫メ協議ノ上天候其ノ他ノ事情ヲ參酌シ適宜實施スヘシ

第三十二條 風紀、衛生及上陸ニ關シテハ本規程及實習船内規ノ定ムルトコロニ依ルヘシ

第三十三條 船長ハ船務ニ差支ナク且ツ衛生上其ノ他ノ故障ナキヲ認メタルトキハ相當ノ時間職員、學生ノ上陸ヲ許可スルコトヲ得

第三十四條 船内ニ於ケル運動、遊戯ハ健康ヲ増進シ士氣ヲ鼓舞シ又ハ嗜好ヲ高尚ナラシムルニ足ルモノタルヘシ

第三十五條 船醫ハ衛生日誌ヲ調製シ且ツ毎月一回學生ノ衛生狀態ヲ調査シ之ヲ船長ニ報告スヘシ

第五章 風紀、衛生及上陸

第三十六條 職員學生カ疾病、傷痍ニ罹リタルトキハ船長ハ所長ニ經何シテ相當ノ期間特ニ公暇又ハ下船療養ヲ許可スルコトヲ得、但シ交通不便其ノ他ノ事情ニ因リ豫メ經何スルコトヲ得サルトキハ事後其ノ旨所長ニ報告スヘシ

第三十七條 職員、學生上陸中疾病傷痍ニ罹リ若ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ定期ニ歸船シ能ハサルトキハ醫師ノ診斷書又ハ證明書ヲ添ヘ船長ニ届出ツヘシ

第三十八條 船長ハ品行方正ニシテ實習ノ成績良好ナル學生ニ對シ碇泊中一定ノ期間特別公暇ヲ與フルコトヲ得

第三十九條 船長ハ本規程及諸規則心得等ニ背戾シタル學生ニ對シ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第四十條 懲戒ハ上陸禁止及加役ノ二種トス

上陸禁止ハ七日以内トス

加役ハ七日以内トシ常務時間外一日二時間以内役務ニ服セシム

第四十一條 學生ニシテ犯罪則度ヲ重ネ又ハ重大ナル不都合ノ所爲アリタルトキハ船長ハ所長ニ其ノ處分ヲ申請スヘシ

第四十二條 本章ノ規定ハ水火夫、漁夫、給仕其ノ他ノ乗組員、便乗者及特ニ乗組ヲ命セラレタル者ニ之ヲ準用ス

但シ職員囑託員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム

第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名、部門、番號、冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺印ノ上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル規定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ

第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各科、掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承認檢閲ヲ受クヘシ

第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置クヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出シ六箇月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得

第五條 前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サス但シ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部、科、掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第七條 貴重ノ圖書辭書類ハ閱覽室外ニ携出ヲ許サス但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 他處ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ稟議ノ上許可ヲ定ムヘシ

第九條 他處ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ稟議ノ上借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻スヘシ

第十一條 借用ノ圖書ヲ汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ

第六條 學資金ハ最初ノ在留地到着ノ翌日ヨリ歸朝ノ途ニ就ク前日迄月割及日割ヲ以テ之ヲ支給ス

在留國間移轉ノ場合ニ於テハ前在留地ヲ出發シタル日ノ翌日ヨリ後在留地ニ付定メタル學資金ヲ支給ス

第七條 各地ヲ巡歴研究スル場合ニ於テハ旅費ヲ支給セシ巡歴手當ヲ支給ス

第八條 旅費ハ本邦在留國間往返ノ場合又ハ在留國間移轉ノ場合ニ於テ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及支度料ヲ支給ス

第九條 外國在留中特別ノ任務ニ從事スル場合ニ於テハ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十條 前項ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ學資金及巡歴手當ハ之ヲ支給セシ

第十一條 外國旅費規則中死亡手當ニ關スル規定ハ在外研究員ニ付之ヲ準用ス

第十二條 學資金及巡歴手當ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得但シ學資金ニ付テハ六月分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

第十四條 前項ノ規定ニ依リ定員外トナリタル者ニハ俸給ヲ支給セシ但シ時宜ニ依リ其ノ俸給ノ三分ノ二以内ヲ支給スルコトヲ得

同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若クハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果ササル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サス

第一六 在外研究員ニ關スル規程及勅令

一 在外研究員規程

大正十一年一月二十一日 勅令 第六號

第一條 主管大臣ハ其ノ主管事項ニ關シ須要ノ學術技藝ヲ研究セシムル爲ニ在外研究員ヲ外國ニ派遣スルコトヲ得

第二條 在外研究員ハ選拔ニ依リ主管大臣之ヲ命ス

第三條 在外研究員ノ研究事項、在留國、在留期間、其他必要ナル事項ハ主管大臣之ヲ指定ス

第四條 在外研究員ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ學資金巡歴手當及旅費ヲ支給ス

特別ノ事由アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ前項ニ定ムルモノノ外特別手當ヲ支給スルコトヲ得

第五條 學資金及巡歴手當ハ別表ニ依ル但シ官吏ニ非サル者ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別表ニ準シテ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ定員外トナリタル在外研究員ニ之ヲ準用ス但シ同條第二項ノ規定ニ依リ受クル金額ト家族手當ノ額ト合シテ俸給ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 在外研究員ハ歸朝ノ日ヨリ外國在留期間ノ二倍ニ相當スル期間主管大臣ノ指定シタル職務ニ從事スル義務ヲ負フモノトス但シ歸朝チナサシメシテ直ニ外國ニ在勤チ命シタル場合ニ於テハ其ノ期間ハ在勤チ命シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十五條 在外研究員主管大臣ノ命ニ違背シタルトキ又ハ成業ノ目途ナキニ至リタルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

第十六條 第十四條ノ義務ヲ履行セシ又ハ前條ノ規定ニ依リ研究員ヲ免セラレタル者ノ受ケタル學資金巡歴手當特別手當及旅費ハ之ヲ償還セシム但シ特別ノ事情アルトキハ其全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ學資金及巡歴手當ニ關シ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(以下略ス)

二 戰時事變ノ際ニ於ケル文部省海外留學生等定員ニ關スル勅令

大正三年十月七日勅令第二百三十號

在官者ニシテ文部省外國留學生又ハ水産講習所在外研究生ヲ命セラレタルモノ戰時事變ノ爲留學國ニ在留スルコト能ハスシテ歸朝シタルトキ又ハ本邦ヲ出發スルコト能ハサル場合ニ於テ定員ヲ超過スルトキハ其ノ留學殘期間又ハ留學期間ニ相當スル期間之ヲ定員外ニ置クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定員外ニ置キタル者ハ本務ニ從事セシメ學術技藝ヲ研究セシムルコトヲ得

第一七 學藝技術獎勵金品寄附取扱規程

昭和八年十一月四日農林省告示第四百十號

學藝技術獎勵金品寄附取扱規程ノ通定ム

學藝技術獎勵金品寄附取扱規程

第一條 學藝技術獎勵ノ爲農事試驗場、茶業試驗場、園藝試驗場、林業試驗場、水産講習所、水産試驗場、畜産試驗場、獸疫調査所、蠶業試驗場又ハ生絲検査所ニ金銀、有價證券又ハ物品(以下單ニ寄附金品ト稱ス)ヲ寄附セントスル者ハ其ノ目的ヲ明示シ様式第一號ニ依リ寄附申出書ヲ當該場所長ニ提出スベシ但シ寄附金品ヲ分

第一八 寄宿舍規定

明治三十年四月(沿革) 明治三十三年三月、大正一三年四月改正

- 第一條 寄宿舍ハ學生取締ノ監督ヲ受クヘシ
第二條 寄宿舍ハ本規程ニ基キ規律衛生及食事等ニ關スル規約ヲ設ク所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ
第三條 本規定及ヒ規約ノ實踐ヲ期スルタメ寄宿舍ニ委員及室長若干名ヲ置ク
前項ノ委員ハ寄宿舍生中各科各學年等數ヲ室長ハ各室ニ於テ之ヲ互選シ所長ニ届出ツヘシ
第四條 寄宿舍ハ毎年夏期休業中ハ之レヲ閉ツルモノトス但シ閉舍期間ハ時宜ニヨリ之レヲ伸縮スルコトアルヘシ
第五條 寄宿舍生ハ定期或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ
第六條 寄宿舍生ニシテ時限外ニ外出セントスルモノハ許可ヲ受クヘシ
前項外出時限ハ規約ヲ以テ之レヲ定メシム
第七條 外泊又ハ時限内ニ歸舍シ得サルモノハ其事由ヲ詳記シ前者ハ保證人連署ヲ以テ後者ハ委員ノ連署ヲ以テ届出ツヘシ
第八條 入舍又ハ退舍ヲ爲サントスルモノハ三日以前ニ保證人連署ノ上願出ツヘシ
第九條 物品ヲ毀損若クハ亡失タルトキハ其情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ弁償セシム
第十條 寄宿舍費及食費ハ時價ニヨリ之ヲ定ム
前項ノ舍費及食費ハ毎月五日迄ニ納付スヘシ
第十一條 寄宿舍生ニシテ本規程又ハ規約ニ違背シ其他寄宿舍生タル本分ヲ守ラサルモノハ其情狀ニヨリ退舍ヲ命ス

第一號 様式

學藝技術獎勵ニ關スル寄附申出書

- 一 寄附金品
金 錢 (金額ヲ記載スルコト)
有價證券 (種類、數量及價額ヲ記載スルコト)
物品 (種類、數量及價額ヲ記載スルコト)
二 寄附ノ目的
右何々場(所)ニ於ケル學藝技術獎勵ノ爲寄附致度候條御承認相成度此段申出候也
年 月 日

農林大臣 氏 名 爵位勳等 何 某 某

備考 團體又ハ數人共同シテ寄附ヲ爲サントスル場合ハ代表者ノ名ニ於テ寄附申出書ヲ作成スベシ但シ寄附者ノ住所及氏名ハ別紙ニ明記シ同時ニ規約趣意書等アル場合ハ之ヲ添付スベシ

第二號 學藝技術獎勵ニ關スル寄附承認書

- 一 寄附金品
金 錢 (金額ヲ記載スルコト)
有價證券 (種類、數量及價額ヲ記載スルコト)
物品 (種類、數量及價額ヲ記載スルコト)
二 寄附ノ目的
右何々場(所)ニ於ケル學藝技術獎勵ノ爲寄附申出ノ趣承認候也
年 月 日

農林大臣 氏 名 何 某 殿

第三節 職員

所長

名譽教授

教授

兼教農林技師 杉浦保吉

(昭和九年十二月末日現在)

五六

理學博士 岡村金太郎

農學博士 山川洵

理學博士 寺尾新

理學博士 田內森三郎

農學博士 東道太郎

水產學博士 大谷武夫

工學士 富栴建造友

生物化學、同實驗、食品化學、同實驗、榮養化學、同實驗
專攻科製造科第二部主任、化學教室主任
製造科第四學年學級主任

普通動物學、同實驗
動物學教室主任

物理學、同實驗、漁具學、同實驗、漁撈物理學、同實驗
專攻科漁撈科第三部主任
物理學教室主任、數學教室主任

普通植物學、同實驗、水產植物學、鹹水養殖論
植物學教室主任、標本系主任
養殖科第四學年學級主任

無機化學、有機化學、餌料學
專攻科養殖科第五部主任

機械學、機械設計實習
機械學教室主任

漁具材料學、同實驗、漁具構成學、同實驗
本科及專攻科漁撈學科主任、漁撈學教室主任、學生係主任、學生取締主任、漁撈科第一、二學年學級主任

製造化學、同實驗、水產製造學
本科及專攻科製造學科主任、製造學教室主任、學生取締、製造科第一學年學級主任

水產法制、法學通論
庶務課長、文書係主任、圖書係主任、專攻科養殖科第七部主任、學生取締
遠洋漁業科主任

航海學、通用學、同實習

水產經濟學、經濟原論
專攻科製造科第一部主任
專攻科養殖科第四部主任

無機化學、物理化學、同實驗、製造物理化學、同實驗
法制經濟學教室主任

海法、水產法制
法政經濟學系主任

海洋及湖沼學、製造物理學、同實驗、數學、氣象學
教務系主任、學生取締

水產通論、水產史

水產經濟學
本科及專攻科養殖學科主任、養殖學教室主任、養殖科第一學年學級主任、專攻科養殖科第三部主任、學生取締

淡水養殖論、魚病學、水產植物學、同實驗
在外研究員

英語、經濟原論、商業概論、水產金融論
法學通論、民法、水產法制

深山義道

安心中耕之助

田原又吉

羽原義勝

松生省一

寺田光世

岡田光世

三浦正晃

倉上晃

中井信隆

植田三郎

庵原順一郎

橋本鐘一

片山房吉

五七

無機化學實驗、有機化學實驗、水產製造學、水產製造原料學實驗

製造科第三學年學級主任

海水養殖論
海法

學生取締

遠洋漁業論
土木學

技師

航海學、同實習
氣象學、同實習
機關學、同實習
遠洋漁業論

白鷹丸船長、同漁撈部長
漁撈科第四學年學級主任
白鷹丸機關長

遠洋漁業論
體操、兵式教練

配屬將校

近衛步兵第四聯隊附

漁撈論

助教

學生取締、漁撈科第三學年學級主任

水產動物學、同實驗

學生取締、養殖科第三學年學級主任

機械學、機關學、機械設計實習

製造化學、水產製造學、同實驗、水產商品學實驗

製造科第二學年學級主任

製造化學、同實驗、水產製造學、同實驗、無機化學實驗、有機化學實驗

養殖科第二學年學級主任

組織發生學、同實驗、動物生理學、同實驗

水產製造學、同實驗、水產商品學、同實驗

漁船論、同實習

浮游生物學、同實驗、養殖生物學、同實驗

學生取締

在外研究員

農學士清水巨

農林技師小堀重藏

農林技師越田德次郎

農林技師小田賢郎

農林技師村山敏三

農林技師今村與作

農林技師柴田島達之輔

農林技師下田真清

陸軍步兵中佐師橋渡

篠山武次郎

工學士海老名謙一

工學士大森節夫

農學士川口武男

農學士岩本正一

農學士岡田郁之助

農學士三村卓雄

農學士小谷和夫

農學士高木淳

農學士稻葉傳三郎

農學士富山哲夫

農學士新野弘

農學士吉田秀一

農學士猿谷九萬

農學士鳥飼敬義

普通動物學、同實驗

白鷹丸三等運轉士

屬

會計係主任

技

白鷹丸一等機關士

白鷹丸無線電信電話取扱主任兼事務長

白鷹丸一等運轉士

白鷹丸二等運轉士

白鷹丸二等運轉士

囑

託

修身

海洋漁場學

細菌學、同實驗

英語

英語、獨逸語

水產動物學、同實驗、

蕃殖保護論

救急療法

普通植物學、同實驗

獨逸語

細菌學、同實驗

英語、獨逸語

數學、統計學

數學、物理學

數學、物理學

養蠶實習

體操

柔道

劍道

海洋學教室主任

白鷹丸船醫
白鷹丸二等機關士

語學教室主任
細菌學教室主任

六〇

兼

技手

田村喜代馬

松原竹治

山崎清旭

三善清旭

石塩甚二

平田馬郎

土屋孝武

酒井孝武

齋藤治郎

加藤欽吾

尾島勸次郎

新野二郎

安原良男

熊凝武晴

岡村金太郎

東京帝國大學教授
深作安文

名譽教授
岡村金太郎

水產試驗場技師
九川久俊

農學博士
遠山祐三

農學博士
山内爲之輔

文士
山村三郎

文士
妹尾秀實

理士
加藤仁爾

飛田仁助

恩田經介

相原一郎

後藤幸男

金山龍重

神谷鐘吉

竹内能忠

奧野能忠

宮崎儀一

飯塚三郎

檜山義三

石塚源健

村瀬健夫

中川健夫

六一

第二章 敷地、建物及諸設備

第一節 敷地及建物

創設以來新築増築及び改築等幾多ノ變遷ヲ經テ大正十二年度ニハ建坪五千六百六十餘坪ナリシカ同年九月一日ノ大震大火ノ災害ニ罹リ完備セル諸建物ノ大部分ヲ烏有ニ歸シタルヲ以テ直チニ應急ノ建物ヲ建設シ復舊工事ニ就テハ大正十四年昭和元年ノ兩年度ニ於テ敷地ノ盛土ヲ完了シ建築物ハ昭和四年度ニ於テ漁撈、製造實習場一棟並附屬建物、昭和七年度ヨリ同八年度ニ亙リ廳舎、教室、實驗室、講堂並附屬建物、昭和九年度ニ於テ學生控所、道場及守衛所ノ建設ヲナシ尙引續キ圖書標本室、艇庫、冷蔵庫等ノ設計中ナリ

第二節 諸設備

一 船 舶

白鷹丸

本船ハ實習船雲鷹丸ノ代船トシテ建造セルモノニシテ鋼製二層重甲板ウエルエンドロングブープ型總噸數一、三二七噸七八神鋼製四衝程無空氣噴油式ディーゼル機關七〇馬力二臺付速力十三節半ノ雙螺旋機船ニシテ神戸川崎造船所ニ於テ昭和三年十二月十五日起工シ同四年八月六日進水同十月試運轉ヲナシ十一月八日東京ニ廻航シ學生ノ實習ニ供セリ

其構造大要ハ船橋ハ操舵室、海圖室、航具室トシ船橋樓ハ船長室、無線電信電話室、準器室トシ船首樓ハ水夫室、厨夫室、水夫食堂、水夫浴室等トシ長船尾樓ハ士官室、應接室、士官食堂、醫務室、病室、研究室、標本室、網具貯藏室、貯室、暗室、浴室等トシ、第二甲板上ハ船首ヨリ水夫室、漁獲物製造室、漁具庫、魚糞機室、冷凍機室、學生室、學生食堂兼教室、學生讀書室等トシ第二層甲板下ハ船首ヨリ儲藏庫、冷藏庫、漁獲物倉庫、燃料油槽、淡水槽、機關室、食料品庫、學生荷物庫等トシ船底ハ二重底トシテ之ヲ淡水槽、燃料油槽トシ學生ノ實習上遺漏ナキナリ今其重要設備ノ種類、能力、容量等ヲ列舉セハ大要左ノ如シ

漁機艇	長三十二呎、幅九呎半、五〇馬力發動機付	二隻
同	長二十三呎、幅六呎半、二〇馬力發動機付	二隻
旋網	浮子行三百二十五間	一統
流網		約二百反
貯延繩		約二百鉢
蟹刺網		約三千反
發電機		五〇キロ二臺 一〇キロ一臺

雲鷹丸

本船ハ鋼製二層重甲板三橋「パーク」型帆船ニシテ總噸數四百四十四噸二二アリ船尾樓及船首樓ヲ有シ三聯成表面冷氣機ノ補助機關ヲ備ヘ汽力平均速力九哩ナリ

本船ハ明治四十一年五月大阪鐵工所ニ於テ建造ニ著手シ同四十二年二月進水シ三月試運轉ヲナシ五月東京ニ廻航シ同月三十日ヨリ學生ノ實習、漁業試驗ノ外、漁場及海洋調査等ニ使用シ來リタルモ老齡航海ニ堪ヘサルニ依リ昭和三年度ニ於テ當所構外ニ繋船シ陸上橋ノ代用トシテ學生ノ實習用ニ供セリ

青鵬丸

本船ハ大正十四年六月九日陸軍省運輸部ヨリ保管轉換ヲ受ケタルモノニシテ大正十年六月三重縣度會郡大湊市川造船所ニ於テ進水シタル二橋ケツチ型帆船ニシテ補助機關トシテ五十馬力ディーゼル發動機ヲ有シ長六十四呎幅十五呎五深六呎二總噸數三十二噸九八、登録噸數九噸〇ナリ

昭和七年七月第三回特別検査ノ際、船體ノ改造及機關ノ据替ヲ行ヒ船ノ長サヲ七十二呎ニ延長シテ、總噸數五五噸二八トシ機關ヲ無注水式百〇五馬力ト据替ヘ冷蔵庫ヲ設ケ、撒水裝置ヲ付セリ

本船ハ學生實習並ニ漁業研究ノ用ニ供セリ

電動揚揚機	七噸 一臺	水夫夫裝臺	四二個
電動揚貨機	五噸 一臺	支水隔壁	九ヶ所
同	一噸五 二臺		
罐詰機械 真空式	一臺		
冷凍機 炭酸瓦斯復効式	製氷 五噸		
魚糞機 大野式熱風型十時間製品	約二噸		
音響測深機 アドミラルタイプ型深海用(四五〇〇尋)	一臺		
電動測深機 ケルヒン式(五〇〇尋)	一臺		
サル測深機	一臺		
電導測程機	一臺		
無電方向探知機(テレフンケン型)	四臺		
同 (敷島電機型)	一組		
グアイロコンパス(ブラウン式A型)	一臺		
自動交換電話 十三箇所用	一臺		
無線電信電話裝置(真空バルブ式)	一臺		
操舵裝置(ヘルシヨウ式テレモーター)	一臺		
活動寫眞機(高速度用撮影及映寫)	一臺		
海洋調査及生物學實驗器具	一式		
淡水槽	容量約 一八〇噸		
燃料油槽	容量約 四〇〇噸		
活魚槽	容量約 七噸		
士官寢臺	一八個		
學生寢臺	五〇個		

二 實習場及實驗場

館山實習場

館山實習場ハ實習船ノ繫泊及出入ニ便ナル千葉縣安房郡館山ニ設ケ一般漁具、船具等ヲ備ヘ漁撈實習、氣象觀測及漁具ノ製作、設計修理等ノ實習ニ供ス本實習場ハ敷地、建物共從來借入レ使用セツモノナリシモ大正十一年度ニ於テ之ヲ買收シ尙別ニ實習室及寄宿舎等ノ新營ヲナシ、又昭和五年度ニ於テハ高島實驗場ノ移轉ニ伴ヒ水泳、操艇並ニ鹹水魚族ノ實驗、實習ノ爲メ實驗室ノ増築、寄宿舎ノ改増築ヲナシタリ、昭和八年度ニ於テ新ニ敷地四九九坪ヲ買收シ實驗室及倉庫等ノ増築ヲ爲ス

沼津實習場

製造實習場ハ明治三十三年八月神奈川縣小田原町ニ建設セシモ近年魚族ノ減少ト敷地ノ狹隘トヲ感スルニ至リシ爲メ靜岡縣沼津市本字千本ニ沼津市有地ヲ借受ケ昭和八年十一月起工同年三月竣工シ小田原實習場ノ設備ヲ移轉シ尙設備ノ充實ヲ計リ昭和九年七月ヨリ實驗實習ヲ開始ス即チ製造科學生ヲシテ水産製造ノ技術實習ノ傍ラ自ラ經濟ヲ擔當シ企業ノ實際的訓練ヲ積マシメツ、アリ

小湊實習場

元千葉縣館山高島實驗場ハ海軍航空隊ノ設置ニヨリ設備一切ヲ海軍

省ニ移管シ之レカ代價トシテ鹹水産生物ニ就キテ其生理、發生、蕃殖ノ方法、人工孵化等ノ實驗並ニ海洋、氣象觀測及浮游生物ノ研究ヲナサシメンカ爲メ千葉縣安房郡小湊町ニ本所實驗場ヲ設立スルコト、シ昭和五年十一月一日水族槽、實驗室、貯水槽、活洲、寄宿舎及汽罐室等ノ建設ニ着手シ同六年五月十日ヲ以テ竣工セリ

金澤實習場

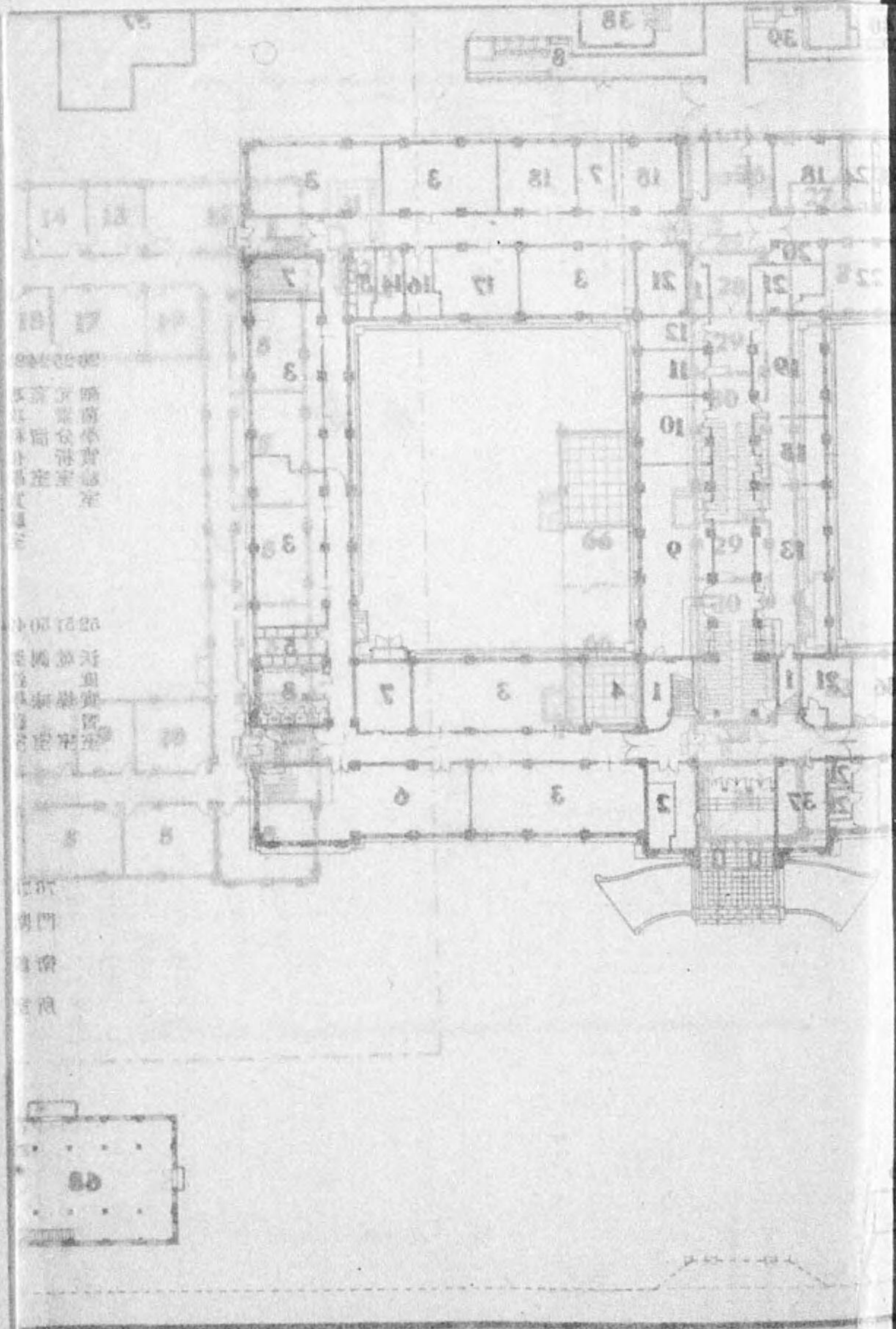
明治四十二年以來神奈川縣久良岐郡金澤灣内ニ牡蠣種付場ヲ設ケ牡蠣養殖實習ヲ爲シ大正二年及三年ニ於テ更ニ夏島及金澤灣内ニ養殖場、實入場ヲ増設シテ牡蠣養殖ノ實習ニ供シ尙昭和二年三月二十三日敷地一三一坪ヲ買收シ昭和八年度ニ於テ實驗室ヲ改築シ學生寄宿舎ノ新築ヲナス

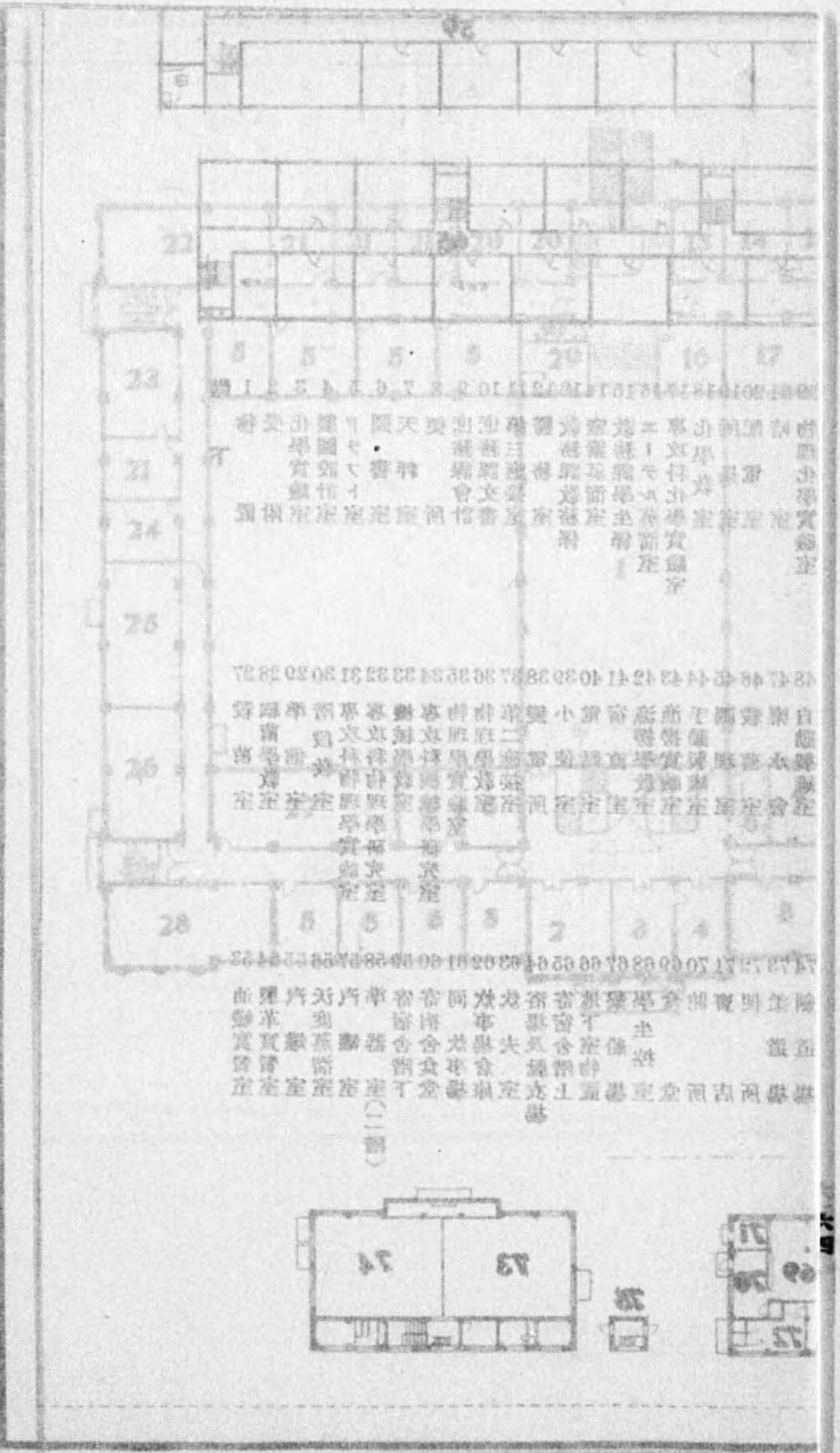
吉田實習場

溫水性魚類ノ養魚實習ヲナサシメンガ爲メ靜岡縣榛原郡吉田村川尻ニ實習場ヲ設置スルコト、シ昭和七年八月十九日起工、翌八年三月三十一日竣工セリ。敷地總面積四、五二四坪、養魚池面積一、七五八坪四ニテ實驗室、飼餌室、溫室、寄宿舎、倉庫等ノ設備アリ

大泉實習場

大泉實習場ハ冷水性魚類ノ養魚實習並ニ研究ヲ爲スヲ目的トシ山梨縣北巨摩郡大泉村ニ設ケ昭和八年八月起工同年十二月竣工セリ養魚池ノ面積一、〇九五坪ヲ有シ實驗室、飼餌室、孵化室、寄宿舎等ノ設備ヲナス





水産講習所敷地及建物坪数比較表

所名	敷地		建物
	所有地	借入地	
本所	一七、三九〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	四、四三〇・〇〇坪
館山實習場	三、五五九・〇〇	—	六、六〇〇
沼津實習場	—	二、九九九・四五	四、七〇五
小湊實習場	一五、一三三・〇〇	—	二、九〇〇
金澤實習場	二、二〇〇	—	九、九〇〇
吉田實習場	四、五五〇・〇〇	—	三、五〇〇
大泉實習場	六、三三〇・〇〇	五、四七〇・〇〇	一、七〇〇
總坪數	四六、八五五・三六	三、八四九・四五	延坪 六、三三〇・七〇

第三章 研究成績

明治三十年三月本所創立以來試験部及海洋調査部ニ於ケル試験調査ノ成績ハ總テ水産講習所試験報告漁業基本調査報告、海洋調査彙報及海洋調査要報ト

シテ發表セルガ、昭和四年三月本所組織改正ノ結果從來ノ試験部及海洋調査部ニ屬スル事務ハ舉ケテ新設ノ水産試験場ニ移セルヲ以テ爾後本所ハ各教室ニ於ケル研究ノ成績ヲ水産講習所研究報告トシテ發表スルコトトセリ、而シテ昭和九年ニ於テハ研究報告第二十九卷第一冊及第二冊第三十卷第一冊乃至第三冊ヲ以テ發表セリ

以上ノ外本所ニ於テ隨時發表刊行セルモノ及本所ノ報告類ト交換ヲ爲シツアル外國雜誌報告類ヲ最後ニ掲ク

(イ) 水産講習所試験報告

第一卷

第一册(明治三十二年三月)

浮子材料試験第一回報告

各種鮫肝油採取試験第一回報告

海豚皮製革試験第一回報告

普通製鹽ト洗取製鹽トノ成分ノ比較

鯉魚温室及普通孵化試験

鯉卵孵化水質適否試験

神奈川県下牡蠣飼育試験

いたばかき蕃殖方法調査報告

多摩川香魚人工孵化試験第一回報告

武川 藤合 禮角 二也

伊谷 以知 二 信郎

石谷 田中 鐵知 郎

谷 中 知 信

小塚 野本 辰道 郎

藤 藤 正 信

日 藤 田 經 忠 信

藤 藤 田 正 信

大藤 石田 芳正 三勝助

龍蝦孵化試験第一回報告

ウロスリツクスノ結實作用ニ關スル研究

第二册(明治三十二年七月)

罐詰試験報告

第二卷 (明治三十四年八月)

纖維試験成績報告(第一回)

天蠶糸製造試験第一回報告

牡蠣養殖試験第一回報告 附東京灣海水觀測表

鮫卵温室孵化並ニ養育試験第一回報告

わかめ蕃殖豫備試験報告

あさくさのりニ關スル研究 多摩川香魚人工孵化試験第二回報告

大服 石部 芳他 三助

岡村 金太郎

平 野 川 茂 吉温

内 村 達次 禮 二 郎

武 藤 哲 太 郎

吉 岡 哲 太 郎

須 田 經 信

今 服 野 部 虎 他 吉 助

オプアール 岡村 金太郎

大服 石部 芳他 三助

鱈肝油採取試験報告

第二册(明治四十二年三月)

漁業用鹽試験報告第一

第三册(明治四十二年三月)

貝殻利用試験

第四册(明治四十二年三月)

鯉漁場調査報告

第五册(明治四十二年三月)

鯉流網漁業試験

細糸ノ單寧染劑ニ(自其一) 依ル防腐染色試験(至其三)

冷蔵貨車鮮魚輸送試験(自第一回) 至第三回)

鯉節製造改良試験

魚類寒天包藏試験

菊 池 健

小 市 野 野 金 一 郎

吉 岡 哲 太 郎

岡村 金太郎

丸 川 金 太 郎

鐵 田 武 造

木 村 金 太 郎

崎 橋 元 次 郎

小 谷 以 知 二 郎

伊 谷 以 知 二 郎

木 村 金 太 郎

龍蝦孵化試験第二回報告

第三卷 (明治三十八年五月)

漁網絲試驗第二回報告

ひらめ人工孵化試験報告

あさくさのり移殖試験報告

てんぐさノ構造ヲ論ジテ 寒天質ノ所在ニ及ブ

第四卷 (明治四十一年一月)

本邦産浮游生物ノ一部(伊豆沖ニ於ケル鰻脚類)(和英兩文)

日本産鰻ニ就テ

多摩川産あゆ一尾ノ消化器官ヨリ得タル硅藻ノ一部(和英兩文)

オプアール 大服 石部 芳他 三助

日 内 村 高 達 次 精 郎

今 大 藤 野 石 田 虎 芳 經 吉 三 信

岡 村 金 太 郎

大 岡 村 金 太 郎

理 學 博 士 大 岡 村 金 太 郎

丸 川 久 俊

谷 口 利 三 郎

德 久 三 種

第五卷

第一册(明治四十一年六月)

第六册(大正元年十二月)

たらばがに調査 理學士 中澤 毅 一
たらばがに製造調査 農學士 松井 秀三 郎

附録「ろぶすた」保護ニ就キテ 法學士 水野 武太郎 譯
(一八九八年ヘリツク博士講演)

「ろぶすた」漁業最近ノ趨勢 法學士 水野 武太郎 譯
(一九〇八年米國統計局 漁業報告)

米國諸州ニ於ケル取締ノ方法 法學士 水野 武太郎 譯
及附則ノ大要竝ニ法規例

第七册(大正二年三月)

沃度灰製造改良試驗報告 阪 元 清

第八册(大正二年三月)

鱈乾燥試驗報告 理學士 安津 藤 井田 章 弘 一 平

第九册(大正二年三月)

冬木町養魚場試驗報告(大正元年度) 川 鐘 日 村 久 治 郎 作 忠

第十册(大正二年三月)

重要蝦蟹類調査第一報

第三册(大正二年十一月)

心太ノ凍凝状態ニ就テ 工學士 星 野 三 郎 吉 郎

冷蔵魚肉ノ研究(第一報) 工學士 星 野 三 郎 吉 郎

ヘシダーソン式冷凍試驗 工學士 星 野 三 郎 吉 郎

肝油分離試驗 農學士 松 井 秀 三 郎 吉 郎

寒天及原藻ノ凝固ニ測定ニ關スル研究 農學士 西 村 寅 三

第四册(大正二年十月)

海苔鑛立粗密試驗 理學博士 岡 村 金 太郎 郎

海苔附着條件試驗 理學士 東 野 道 治 郎 房

秋季海苔附着盛期試驗 理學士 東 野 道 治 郎 房

第五册(大正三年二月)

海苔肥料試驗(第一報) 理學士 東 野 道 治 郎 房

附かほのり調査

雌雄肉ノ優劣ニ就キテ 農學士 松 井 秀 三 郎

雌雄肉ノ優劣ニ就キテ 農學士 松 井 秀 三 郎

鮑中ノ硫黃化合物中ニ就キテ 農學士 山 本 川 祥 吉 洵

介類ノ汁液中ニ於ケル「グリコ」ニ就キテ 農學士 山 本 川 祥 吉 洵

魚介類ノ「エキス」ニ就テ三重、岡山、廣島、福岡及佐賀ノ五縣出張報告 農學士 山 本 川 祥 吉 洵

經節研究、經節製造中ニ於ケル化學變化ニ就テ(第一報) 農學士 山 本 川 祥 吉 洵

第九卷

第一册(大正二年五月)

油漬鱈詰用油ノ檢定 小 野 根 辰 次 郎 豐

たらばがにに羅詰原料刺肉處理時間ノ長短ノ肉質ニ及ボス影響 農學士 深 井 秀 三 郎 道

第二册(大正二年六月)

たらばがにに甲殼肥料ノ化學的成分 農學士 松 井 秀 三 郎

雌雄ニ依ル相異

雌雄ニ依ル相異 理學士 中澤 毅 一

捲締機械ニ就テ 工學士 星 野 三 郎 吉 郎

捲締罐ト普通罐トノ經濟上ノ比較 工學士 星 野 三 郎 吉 郎

第六册(大正三年三月)

網類腐敗ニ關スル試驗 理學博士 寺 野 布 川 合 角 也

各種網絲類ノ腐朽ニ就テ 理學博士 寺 野 布 川 合 角 也

網絲腐敗ニ關スル研究 農學士 山 西 添 村 兵 寅 造 三

纖維腐敗ニ關スル試驗 農學士 川 合 角 也

網糸染色防腐試驗 農學士 山 西 添 村 兵 寅 造 三

第一、二回報告 農學士 山 西 添 村 兵 寅 造 三

網皮固形率卓越幾斯ニ關スル試驗 農學士 山 西 添 村 兵 寅 造 三

第七册(大正三年三月) 中宮祠湖産鹹寄生條蟲調査 理學士 石 井 重 美

金魚虱「てう」ノ研究

理學士 中澤 毅 一

第十卷

第一册(大正三年六月)

鯨族養殖試驗報告

子爵 田中 阿歌 忠

菅沼、丸沼、大尻沼水温調査

魚種改良試驗第一報

附錄

魚籠運搬試驗報告

活鱧運搬試驗

獨逸ニ本邦産生鱧ノ輸送試験

第二册(大正三年八月)

鱧種精製製造ニ際シテ得ラ

ルル煮熟汁液ノ成分並並折

クシテ廢棄セララルル窒素

ノ價格及其利用法

鱧種精製渣利用ニ關スル調査

水膠製造試驗報告

烏賊墨汁利用試驗

海鱧皮製試驗報告

第五册(大正四年三月)

網ニ對スル水ノ抵抗ノ研究

第一次報告

第六册(大正四年三月)

養殖魚類利用試驗第一回報告

第十一卷

第一册(大正四年七月)

布良鮪延繩漁船設計

ソコロフ式乾燥機試驗

新式卷締機械及液狀護膜試驗

自肥乾燥計

第二册(大正四年十二月)

駿河灣産櫻蝦報告

重要蝦蟹類第二報告

瀬戸内海蝦調査

海藻養殖用岩掃除器

第三册(大正五年二月)

養魚餌料試驗報告

大正二、三年度冬木町養魚試驗池

鯉産卵孵化成績

丸沼養魚試驗池水质調査報告

附錄

ソソツ氏魚類呼吸作用實驗器説明書

第四册(大正五年三月)

鱧ノ研究

「シラス」鱧運搬試驗

第五册(大正五年三月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚兒

第六册(大正五年三月)

鱧結核熱試驗報告

七二

製革上石灰屑劑トシテ鱧内臟ノ利用試驗豫報

石灰屑劑トシテ柔魚内臟ノ利用

第三册(大正三年十二月)

鱧研究第四回一第十回

「ヒスチジン」ニ就テ(第一報)

海産動物ノ腐葉ニ就テ(第一報)

鱧節製造法ニ就テ東北五

縣出張報告

附 介類煮汁報告

第四册(大正四年三月)

鱧詰内容物ニ於ケル熱傳導ノ狀態試驗

鱧詰内熱傳導ノ理論

適度ニ充填セル鱧詰ノ熱ノ傳導狀態ト加熱セル鱧詰ノ熱ノ遞減セル狀態

飲食物被掩材料ノ性質ト

黴菌侵害ノ關係

重要蝦蟹類第二報告

瀬戸内海蝦調査

海藻養殖用岩掃除器

第三册(大正五年二月)

養魚餌料試驗報告

大正二、三年度冬木町養魚試驗池

鯉産卵孵化成績

丸沼養魚試驗池水质調査報告

附錄

ソソツ氏魚類呼吸作用實驗器説明書

第四册(大正五年三月)

鱧ノ研究

「シラス」鱧運搬試驗

第五册(大正五年三月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚兒

第六册(大正五年三月)

鱧結核熱試驗報告

重要蝦蟹類第二報告

瀬戸内海蝦調査

海藻養殖用岩掃除器

第三册(大正五年二月)

養魚餌料試驗報告

大正二、三年度冬木町養魚試驗池

鯉産卵孵化成績

丸沼養魚試驗池水质調査報告

附錄

ソソツ氏魚類呼吸作用實驗器説明書

第四册(大正五年三月)

鱧ノ研究

「シラス」鱧運搬試驗

第五册(大正五年三月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚兒

第六册(大正五年三月)

鱧結核熱試驗報告

谷菊池 重 忠

谷菊池 重 忠

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

七三

第十二卷

第一册(大正五年六月)

新シキ「プロタミン」ニ就キテ

農學士 山本川 朝倉 唯祥 一吉 洵

第二册(大正五年七月)

網ノ染法、網糸ノ腐敗、網糸ノ材料ニ就テノ研究及試験報告

野川 崎合 知角 之也

第三册(大正五年八月)

柔魚鹽辛ノ成熟並ニ貯藏中ニ於ケル窒素化合物ノ分解及ヒ之ニ對スル食鹽ノ影響ニ就キテ

農學士 深松 井秀三 道郎

乾海苔ノ價格及ヒ淺草海苔ノ品質ト成分ニ就キテ

農學士 深松 井秀三 道郎

東京灣ニ於ケル海苔揚ノ海水ノ窒素及ヒ其他ノ成分ニ就キテ

農學士 松井 秀三 郎

魚肉ニ關スル研究

農學士 深松 井秀三 道郎

寒天ニ混入セル砂土ノ鑑別ニ就キテ

農學士 松井 秀三 郎

寒天原料ノ成分ニ就キテ 第一報

農學士 松井 秀三 郎

鱈ノ精肉 眼鑑定ノ標準ノ化學的解釋

農學士 松井 秀三 郎

煉假漬ノ際得ラルル廢物ニ就キテ

農學士 松井 秀三 郎

罐詰トセルたらばがに肉ノ「黒髮」含硫黃物ノ分解ニ就キテ(第一報)

農學士 松井 秀三 郎

罐詰トセル蝦肉ノ「軟化」ニ就キテ(第一報)

農學士 松井 秀三 郎

まがきトいたばがきノ成分ノ比較

農學士 松井 秀三 郎

臘腸ノ研究 第一報

農學士 松井 秀三 郎

小蝦罐詰製造法調査及ヒ軟化ノ原因及防止策

農學士 松井 秀三 郎

第四册(大正五年九月)

鱈油漬試驗報告

小野 辰次 辰郎

第五册(大正五年十二月)

淡水飼養魚類ノ白點病調査報告

理學士 石井 重美

本邦産鯉ノ「ふいらりあ」病觀察

理學士 石井 重美

第十三卷

第一册(大正六年十月)

鱈油漬試驗報告

小野 辰次 辰郎

第二册(大正六年十二月)

海苔色素試驗第一報告

東野 道治 郎

第三册(大正六年十二月)

てんぐさ成長試験

岡村 金太 郎

第四册(大正七年三月)

鱈肉ノ研究

農學士 山本 秀三 郎

鱈節研究(第十一回)

農學士 松井 秀三 郎

同 (第十二回)

農學士 山本 秀三 郎

第五册(大正七年三月)

罐詰トセル蝦肉ノ軟化ニ就キテ(第三報)

農學士 松井 秀三 郎

罐詰蝦肉ノ雌雄ニ於ケル成分ノ相違

農學士 松井 秀三 郎

魚膠及ビ食用「ゼラチン」中ノ無機鹽ニ就キテ

農學士 松井 秀三 郎

腐敗セルあげまきヨリ「アトレンシン」ノ分離

農學士 松井 秀三 郎

九州製紙會社排水中ノ亞硫酸含量並ヒニ其致廣川ニ及ボス影響

農學士 松井 秀三 郎

第六册(大正七年三月)

養鱈試驗報告(第一報)

日暮 忠

菅沼、丸沼、大尻沼水温調査報告(第二報)

子爵 田中 阿歌 磨

第十四卷

第一册(大正七年五月)

發動機甲板操縱裝置

工學士 星春日信郎

第二册(大正七年十月)

水産講習所高島實驗場蕃殖保護試驗成績第一次報告

理學博士 岡村金太 信實郎

第三册(大正八年三月)

ほんだわら類ノ成長年限ニ就テ

理學博士 岡村金太郎

第四册(大正八年三月)

養蠶場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査

木村金太郎

第五册(大正八年三月)

伊勢蝦ノ發生ニ就テ(和英兩文)

理學士 寺尾新

第十五卷

第一册(大正八年七月)

干蟬蟲害豫防ニ關スル研究(其一)

高木村金太郎 晴郎

第二册(大正九年三月)

海産動物油ノ性状 附海産動物油ノ發熱力及引火點

谷村重忠

第三册(大正九年三月)

水産物ヲ基トスル調味料ノ研究

小野辰次 輔郎

第四册(大正九年三月)

水産講習所蕃殖保護試驗成績第二次報告 高島實驗場

鮑ノ成長度ニ就テ

理學博士 岡村金太 信實郎

第五册(大正九年三月)

壓搾鹽藏魚ニ就テ

鈴木武

第十六卷

第一册(大正九年十月)

動物ノ肉蛋白ニ就テ

農學士 關根秀三 浩悦郎

第十七卷

館山灣調査報告

館山灣ノ形態、並ニ深度、底質及岩礁ノ調査(明治四十二年ヨリ明治四十四年ニ至ル)

理學士 長尾棟秀 友實

館山灣ニ於ケル海洋並ニ氣象ノ觀測(明治四十五年大正元年以降大正五年ニ至ル五ヶ年間)

神谷尙志

第三册(大正十一年十月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚仔(第二報)

神谷尙志

瀬戸内海ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚仔

神谷尙志

第四册(大正十二年一月)

鮮魚冷蔵試驗報告(第一報)

小川五清 名一

第十九卷

第一册(大正十二年六月)

第二回「プロタミン」ノ研究(新シキ「プロタミン」ニ就テ(第二報))

農學博士 山方不二 維洵

第一册(大正十年十一月)

魚肉成分ト其呈味關係(第一回)

山本祥吉

鰹肉ノ研究(第二回)

山本祥吉

第二册(大正十年十二月)

魚類ノ脂肪ニ存スル一種ノ「ピタミン」(脂溶性A)ニ就テ

農學博士 關根秀三郎

動物肉ノ蛋白ニ就テ(第二報) 魚類ノ雌雄肉蛋白ノ相違

農學博士 關根秀三郎

鮭卵ヨリ稚鮭ニ至ル發育期間中ニ起ル生物化學的變化ニ就テ(第一報)

農學博士 關根秀三郎

第三册(大正十一年三月)

「イリスト」ニユークレイツク「酸」ニ就テ

農學士 山川洵

第十八卷

第一册(大正十一年七月)

△このり蕃殖試驗報告

理學博士 岡村金太郎

第二册(大正十一年八月)

第二回「ニュークレイツク」
酸ノ研究
「イースト、ニュークレイツク」
酸ニ就テ(第二報)

農學博士 西山村 庄
水産學士 大谷武 清夫

魚類ノ齒門垂ノ蛋白分解酵
素ニ就テ(第一報)

水産學士 大谷武 清夫

「タウリン」ノ沃化「カルシウム」
鹽及「タウリン」ノ銅鹽ニ就テ
(第一報)

角 英 悦

第二册(大正十二年六月)
冷蔵セル原料ニテ鯉節
製造試験報告(第一)

小 鈴木 直清 辰一

第三册(大正十二年八月)
魚肉ノ自家消化ニ就キテ
(第一報)

水産學士 大谷武 清夫

第三回「プロタミン」ノ研究
新シキ「プロタミン」ニ就キ
テ(第三報)

農學博士 山田 武 清夫

第四册(大正十二年七月)
水産調味料並ニ復的味ノ研
究(第二報)

小 野 辰 次 毅 郎

第五册(大正十二年十一月)

工學士 星野 正次 巳郎

理學士 妹尾 秀 三 郎

同時ニ數個ノ恆溫度ヲ得ル
裝置(和英兩文)

理學士 妹尾 秀 三 郎

冷凍肉中裂頭線蟲ノ幼蟲ハ
生活力アリヤ(第一研究報告)
(和英兩文)

理學士 北川 正 次 郎

鮎卵孵化適温試驗

理學士 日 暮 忠 一郎

牡蠣ノ卵初期ニ及ボ
ス「ウラニウム」ノ影響
(和英兩文)

理學士 寺 尾 新

第二十一卷

第一册(大正十四年八月)

工學士 星野 善 三 郎

理學士 日 暮 忠 一郎

魚卵ノ孵化日數ト温
度トノ關係(和英兩文)

鯉節ノ研究(第十三回)
鹿兒島及沖繩縣下ニ於
ケル鯉節類調査報告

山 本 祥 吉

第六册(大正十三年四月)
大長養魚試驗場施設

理學士 梶 山 英 二

第七册(大正十三年三月)
冷蔵セル原料ニテ鯉節
製造試験報告(第二)

小 鈴木 直清 辰一

第一册(大正十三年七月)
木崎養魚試驗場施設報告(第一報)

外 野 四 宗 名 治

第二册(大正十三年十一月)
主トシテ冷蔵庫ニ使用スル
絕緣材料ノ熱傳導率ニ就テ
(和英兩文)

工學士 星野 善 三 郎

第三册(大正十三年十一月)
ふのりノ發生ニ就テ
(和英兩文)

宮 崎 廣 三

おのりの養殖ニ就テ
(和英兩文)

理學博士 岡村 金 太 郎

第二册(大正十四年十一月)
網地ノ水中ニ於ケル抵抗ニ就テ
(和英兩文)

理學士 三 浦 定 三 郎

鯉卵孵化適温試驗

中 日 非 信 隆 忠

鯉ノ卵及精子ノ活力試驗

野 中 野 宗 隆 治

鯉稚魚最初ノ人工餌
料ニ就テ(豫報)

中 野 宗 隆 治

鯉卵及稚魚ノ酸素消費量ニ
關スル試驗

川 尻 稔

みつししこんぶトながこん
ぶトニ就テ(第一圖版)

農學博士 岡村 金 太 郎

第三册(大正十四年十二月)
館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ
其稚仔(第三報)(第二圖版)

神 谷 尙 志

北陸沿海ニ於ケル浮性魚卵
並ニ其稚仔(第三、四圖版)

神 谷 尙 志

たらばがに雌雄原料トシテ堅
甲蟹肉及軟甲蟹肉ノ優劣ニ就
テ(附肩肉及脚肉ノ比較)

煮熱用水ノ蟹肉ニ及ボス影
響

燈火ニ集ル魚群ニ就テ

「けいごろも(いはがき)ノ受
濟素ニ就テ

ふなむし(漢名、海蛆)ノ生
殖腺原基ニ就テ

「ぶだひ」卵ノ孵化ト温度及
比重トノ關係

第五册(大正十五年三月)

魚肉ノ自家消化ニ就テ
(第二報)

第六册(大正十五年三月)

低温度ノ鮎卵發育ニ及ボス
影響

寫眞器ヲ用ヒテ船體ノ動搖
ヲ記録スル新法

温度トしるむし

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三
農學博士 柿關根三

あさくさのりノ霧害試験

附著時期ニ違セルまがきノ
仔蟲及其稚貝ニ就テ

鯉ノ寄生スル一新粘液
胞子蟲(Cyrtobolus koi nov.
sp.)ニ就テ

魚肉ノ自家消化ニ就テ「ア
ンモニア」ノ生成(第三報)

魚肉中ノ「カリコゲナーゼ」
ニ就テ(第一報)

魚類ノ胸門垂ノ「アミラー
ゼ」ニ就テ

動物肉蛋白質ニ就テ(第三報)
魚類ノ雌雄並ニ筋肉ノ種類
ニヨル肉蛋白質ノ相違

動物肉蛋白質ニ就テ(第四報)
魚介肉蛋白質ノ比較

動物肉蛋白質ニ就テ(第五報)
肉蛋白質ノ生長助成能力ト其
Lysine含有量トノ關係

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎
農學博士 岡村金太郎

第二册(大正十五年十月)

水産食料品ノ化學的研究
(第一回)

石灰及苦土ノ新陳代謝ニ就テ

水産哺乳動物ノ化學的研究
(第二回)

鯨ノ副腎ニ於ケル
Adrenalineニ就テ(第一報)

水産哺乳動物ノ化學的研究
(第二回)

鯨ノ長續肉蛋白質ノ加水分解
(第一報)

水産食料品ノ化學的研究
(第二回)

蝦蛄ノ蛋白質ニ就テ

水産哺乳動物ノ化學的研究
(第三回)

鯨ノ肝臟ニ就テ(第一報)

「プロタミン」ノ研究(第四回)

二三「プロタミン」ト「ヒス
トン」トニ就テ(第一報)

水産動物ノ精子ノ化學的研
究(第一回)

魚類ノ白子ノ化學的研究(第一報)

水産動物ノ精子ノ化學的研
究(第二回)

鯨精子ノ「ニユークレイツ
ク」酸ニ就テ

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

農學博士 山川

第二十二卷

第一册(大正十五年七月)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

魚肉ノ乾燥中ニ於ケル化學
的變化ニ就テ(第一報)(モ
ノ「アミノ」酸ニ關スルモノ)
ニ就テ

鹽藏中ニ於ケル魚肉ノ變化
ニ就テ

簡易船體動搖自記器ニ就テ
(第二報)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

魚肉ノ乾燥中ニ於ケル化學
的變化ニ就テ(第一報)(モ
ノ「アミノ」酸ニ關スルモノ)
ニ就テ

鹽藏中ニ於ケル魚肉ノ變化
ニ就テ

簡易船體動搖自記器ニ就テ
(第二報)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

魚肉ノ乾燥中ニ於ケル化學
的變化ニ就テ(第一報)(モ
ノ「アミノ」酸ニ關スルモノ)
ニ就テ

鹽藏中ニ於ケル魚肉ノ變化
ニ就テ

簡易船體動搖自記器ニ就テ
(第二報)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

魚肉ノ乾燥中ニ於ケル化學
的變化ニ就テ(第一報)(モ
ノ「アミノ」酸ニ關スルモノ)
ニ就テ

鹽藏中ニ於ケル魚肉ノ變化
ニ就テ

簡易船體動搖自記器ニ就テ
(第二報)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

魚肉ノ乾燥中ニ於ケル化學
的變化ニ就テ(第一報)(モ
ノ「アミノ」酸ニ關スルモノ)
ニ就テ

鹽藏中ニ於ケル魚肉ノ變化
ニ就テ

簡易船體動搖自記器ニ就テ
(第二報)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

魚肉ノ乾燥中ニ於ケル化學
的變化ニ就テ(第一報)(モ
ノ「アミノ」酸ニ關スルモノ)
ニ就テ

鹽藏中ニ於ケル魚肉ノ變化
ニ就テ

簡易船體動搖自記器ニ就テ
(第二報)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

魚肉ノ乾燥中ニ於ケル化學
的變化ニ就テ(第一報)(モ
ノ「アミノ」酸ニ關スルモノ)
ニ就テ

鹽藏中ニ於ケル魚肉ノ變化
ニ就テ

簡易船體動搖自記器ニ就テ
(第二報)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

魚肉ノ乾燥中ニ於ケル化學
的變化ニ就テ(第一報)(モ
ノ「アミノ」酸ニ關スルモノ)
ニ就テ

鹽藏中ニ於ケル魚肉ノ變化
ニ就テ

簡易船體動搖自記器ニ就テ
(第二報)

「まがき」仔蟲ノ發生ト温度及
比重トノ關係

「まがき」仔蟲ノ人工飼育及
「天然」仔蟲ノ飼育及
害敵ニ就テ

公魚卵孵化適温試験

第四册(昭和二年二月)

垂下式養鱒試験報告	理學士	堀妹尾重秀	中日井信隆
Leuciscus hakensis (Günther) 卵ノ孵化適温ニ就テ(第五圖版)	農學博士	中山村庄松洵	
第五回水産動物ノ精子ノ化學的研究	農學博士	中山村庄松洵	
第三回水産食品ノ化學的研究	農學博士	中山村庄松洵	
鱒ノ肉蛋白ノ加水分解	農學博士	中山村庄松洵	
雲丹鹽辛醱酵ノ原因及ヒ其豫防ニ關スル研究(第一報)	農學博士	中山村庄松洵	
第五册(昭和二年三月)			
魚體ノ真空乾燥ノ物理的研究	理學博士	田内森三郎	
網絲腐朽ノ物理	理學博士	田内森三郎	
魚肉ノ自家消化ニ就テ(第四報)	水産學士	大角武英	
鱒ノ肝臟ノ消化酵素ニ就テ Amylase ニ就テ	水産學士	大角武英	

鮭ノ胸門垂ニ於ケル蛋白質ニ就テ

水産學士 大谷武計

第二十三卷

第一册(昭和二年八月)

魚肉中ノ Cytochrome II 就テ(第二報)	水産學士	大谷武計	
生海苔冷蔵試験(圖版I)	農學士	殖田三郎	
魚體ノ熱風乾燥ノ物理的研究	理學博士	田内森三郎	
網絲ノ研究(I)	理學博士	田内森三郎	
衝撃ニ對スル網絲ノ強サ(I)	理學博士	田内森三郎	
第五册(昭和二年十月)			
鱒ノ卵及精子ノ貯藏試験	川尻稔		
鱒(Onchobranchius Masoni Gaud locked) 卵ノ孵化適温ニ就テ	川尻稔		
あなみどろノ生活力ト水温トノ關係	川尻稔		
網地ノ研究(I)、水中ニ於ケル網地ノ抵抗(第一報)	三宅豊		
温度及ヒ鹹度ト魚卵ノ孵化率トノ關係	理學博士	田内森三郎	

第三册(昭和二年十二月)

鯉ニ寄生スル Leishmania (Leishman) 發育ニ就テ	中井信隆		
紅鱒(Salmo trutta) 卵ノ孵化適温ニ就テ	川尻稔		
魚卵孵化用水ノ温度ノ變化ガ孵化ニ及ボス影響ニ就テ	川尻稔		
鱒卵ニ及ボス四種ノ振動ノ影響ニ就テ	畑久三		
かきノ Spelled-larva ノ餌料タル綠藻ノ研究	農學士	殖田三郎	
まがき仔蟲ノ人工飼育(第二報)	堀下部重次郎		
氣象要素ト漁獲トノ關係(第一報) 低氣壓ノ運動ノ漁獲ノ上ニ及ボス影響ニ就テノ統計的研究	理學士	宇田道隆	
網糸ノ研究II 網糸ノ荷重ト伸ヒトノ關係	理學博士	田内森三郎	
第四册(昭和三年二月) 豊橋養魚試験場報告集			
魚病ニ關スル研究(第一報) 鱒ニ寄生スル新撓脚類「イカリムシ」ニ就テ	熊松田井朝佳男一		

養魚場ノ水質並ニ底質ニ關スル研究(第一報)

酸性土壤ニヨル養魚被害ノ一例ニ就テ 山井德二

養魚場ノ水質並ニ底質ニ關スル研究(第二報) 大正十五年度ニ蒐集セル水質及底質分析表 山井德二

蠶蛹ノ化學的研究(第一報) 種類ニヨル成分ノ相違ニ就テ 大島信夫

蠶蛹ノ化學的研究(第二報) 蠶蛹ノ消化ニ就テ(豫報) 大島信夫

蠶蛹ノ化學的研究(第三報) 貯藏中ニ於ケル化學的變化ニ就テ 大島信夫

鱒ノ季節的肉质變化ニ就テ 大島信夫

生込中體成分ノ化學的變化ニ就テ(第一報) 大島信夫

第五册(昭和三年三月)

罐詰ノ真空度ヲ測定スル一新法	石井一美		
「かき」Hypomesus olidus Pallas 卵ノ孵化適温試験 III	中井信隆		
「まがき」ノ空中活力ト温度	堀重藏		
網糸ノ研究 III 衝撃ニ對スル網糸ノ強サ(2)	理學博士	田内森三郎	

第二十四卷

第一册(昭和三年十月)

魚卵ノ孵化用水ノ温度ノ變化ガ 孵化ニ及ホス影響ニ就テ	川 辰
飼養ヲ有スル鱒種魚ノ發育並ニ 餓死ト温度トノ關係	川 辰
養魚密度ノ研究 I 放養密度ガ歩止リ及成長ニ及 ホス影響(1)	川 辰
あさくさノ冷蔵試験ト其製 品ニ就テ	農學士 殖田三郎
あさくさノ真空乾燥試験	農學士 三善清旭郎
孵化用水ノ温度ト變化ガ魚卵 ノ孵化日數ト孵化率トニ及ホ ス影響	理學博士 田内森三郎
有毒物質ノ致死作用ニ就テ	理學博士 田内森三郎
鮎(Phlegosus albaeus) 卵ノ孵化適温試験 III	中井信隆
たまみちんノ群衆増大	理學博士 田寺中尾友三新
たまみちんノ蕃殖率ニ及ホ ス温度ノ影響	理學博士 田寺中尾友三新

第二册(昭和四年二月)

たまみちんノ蕃殖ニ及ホス 群衆密度ノ影響	理學博士 田寺中尾友三新
めだかノ産卵ニ及ホス群衆密 度ノ影響	理學博士 田寺中尾友三新
音響装置ニヨル魚群檢出法	理學士 木村喜之助
鹽水冷凍ノ物理的研究	理學士 岡田光世
電流ノ魚類ニ及ホス作用ニ就 テ(第一報)	理學士 岡田光世
魚群ノ運動 I 障壁ヲ沿ヒテ進行セシ魚群 カ壁端ヲ過キタル後ニトル 方向ニ就テ	理學博士 三内善清旭郎
魚群ノ運動 II 障壁ヲ以テ通路ヲ妨害シタ ル場合ノ魚群ノ運動ニ就テ	理學博士 藤野内森三郎
魚群ノ運動 III 網壁ニ遭遇セシ魚群ノ運動	理學博士 安田内森三郎
漁船型試驗第一回報告 鐵漁船型試驗及船型試驗	工學博士 山源佐藤本武藏郎

第四册(昭和四年三月)

手續網漁船ノ抵抗試験	工學士 佐藤江武
眞鯛卵ノ孵化ニ及ホス海水ノ 温度ノ影響ニ就テ	理學士 梶山英二
眞鯛卵ノ孵化ニ及ホス海水ノ 比重ノ影響ニ就テ	理學士 梶山英二
眞鯛ら1匹ノ發育ニ及ホス海 水ノ温度及比重ノ影響ニ就テ	理學士 梶山英二
魚卵ニ及ホス振動時間ノ影響 ニ就テ	畑久三
電流ニ依ル魚群ノ指導	理學士 岡田光世
板甫牡蠣ノ發生	理學士 妹尾秀實
生物ノ群衆増大ニ於ケル一相 トシテノ相對的蕃殖率	理學博士 寺尾新
ほそめこんボノ發生ト温度ト ノ關係ニ就テ	農學士 殖田三郎
あさくさノ生活史ニ就テ	農學士 殖田三郎

水産講習所研究報告(水産講習所試験報告改題)

第二十五卷

第一册(昭和四年八月)

電流ノ魚類ニ及ボス作用ニ就テ(第二報)
魚群ノ進行ヲ阻止スル作用

岡田光世

たまみちんノ麻醉ト年齢トニ就テ

寺中友三

第二册(昭和四年十一月)

海底ノ硬度ニ就テ

三浦定之助

あさくさのリノ養殖ニ就テ

日下部臺次郎

鮎ノ追星ニ就テ

海老名謙一

網絲ノ研究 IV
燃焼ト抗張力トノ關係

田内森三郎

第三册(昭和五年三月)

魚群ノ運動 IV
網口ノ形状ト魚群ノ出入

田内森三郎

星鮫科ニ屬スル五種ノ鮫ノ插鱗ニ就テ

坂本喜代松

窒素定量ニ關スル二三ノ研究
網絲ノ研究 V 結節ニ於
ケル網絲抗張力ノ減少

清水互

第二册(昭和六年三月)

日本海ヨリ得タル魚ノ一新科新屬新種

阪本喜代松

あこや貝ニ於ケル珍珠
袋形成ノ一徑路ニ就テ

田中友三

市販罐詰ノ上部空隙ト
真空度トノ關係ニ就テ

和田英夫

冷蔵庫内ノ氣流 I 低温ノ天井
ト高温ノ床トノ間ノ對流ニ關ス
ル實驗ノ結果ニ就テ

岡田光世

魚ノ鮮度ヲ判定スル一方法

和田英夫

第二十七卷

第一册(昭和七年三月)

かじかノ二新屬二新種

阪本喜代松

房州沿岸ノ「たいどぶ」ノ魚類
及ヒ其ノ一新種ニ就テ

阪本喜代松

うまづらはぎノ雌雄別ニ就テ

海老名謙一

れんぶつ(たひ) Apogon semilineatus
トタビノ口内孵化ニ就テ

海老名謙一

第二十六卷

第一册(昭和六年一月)

たまみちんニ於ケル麻醉感度
ノ年齢ニヨル指數函數的減少

寺中友三

たまみちんノ群衆増大ト
培養液量トノ關係

寺中友三

たまみちんノ壽命ト温度
トノ關係

寺中友三

鮎ノ生理學的研究 III
血液ノ顯微鏡的觀察(第一圖版)

川本信之

さんまノ雌雄別ニ關スル
生物計測學的研究

安成一二

てんちく(たひ)ノ口内孵化ニ就テ

阪本喜代松

館山灣生物調査(第一報)
へらノ一新種ノ記載

阪本喜代松

日本海ヨリ得タル魚類ノ二新種

阪本喜代松

鮎ノ雌ニ於ケル追星ニ就テ

海老名謙一

單爲生殖ニテ蕃殖セル
たまみちんノ生涯

寺中友三

ふくろのり科植物ノ所謂種子囊ニ發生ス
ル Schwammer 性状及ヒ越冬状態ニ就テ
(第二、三圖版)

植田三郎

淡水産シヅメノ一新種ニ就テ
(第一圖版)

植田三郎

低温ニ於ケル鮎ノ肉質ノ變化ト
細菌ノ發育状態

猿谷九万

Electric Fish Screen ノ一型式

田内森三郎

魚肉ノ分解ニ伴フ魚體硬度ノ變化

山村彌六郎

Electric Fish Screen ニ斷續電流ヲ
用フルト

田内森三郎

たまみちんノ壽命ト蕃殖率トヲ生
活率ニ關シテ論ス

寺尾新

第二十八卷

第一册(昭和七年十二月)

日本産あまのり屬ノ分類學的研究
(圖版一—二十四)

植田三郎

日本及ヒ其ノ近海産ほうぼう科魚
類ノ分類學的研究

松原喜代松

まぐろ油ノ「グリセライド」分離ニ就テ

岡田郁之助

本邦及ヒ其ノ近海産ひげだひ屬ノ
分類學的研究

松原喜代松

鮎鱗ノ蛋白質素ニ就テ

横大田谷繁夫

第二十九卷

第一册(昭和八年十二月)

- 鯨油漬罐詰ニ關スル研究(第一報)
- 一、油脂ノ加熱、貯藏、混合ニ關スル化學的研究
- 二、鯨油漬罐詰ノ貯藏中ニ於ケル油ノ酸價及ピ沃素價
- 模型ニ依ル近海ノ海潮流ノ實驗 I
- 相模灣ノ潮汐及ビ潮流(圖版1—15)
- 水素「イオン」濃度測定用棒狀「アンチモン」電極ノ研究(第一報)
- 第二册(昭和九年三月)
- 本邦産てんぐさ屬及おびくさ屬ニ就テ(圖版16—33)
- 駿河灣「瀬ノ海」ノ底質(圖版34—36)

第二十卷

第一册(昭和九年四月)

- 日本産金魚ノ遺傳學的研究
- 第一報 金魚ノ品種ト其外部特性變異ニ就テ
- 第二報 金魚ノ出自性ノ遺傳ニ就テ
- 第三報 金魚ノ透明鱗性ノ遺傳ニ就テ
- 第四報 金魚ノ尾鰭ト管鰭ノ遺傳ニ就テ(圖版1—13)
- 第二册(昭和九年八月)
- 第六回「プロタミン」ノ研究
- 一 Salmine ニ就テ
- 海底ヨリ得々凝結物ト低凝結物ニ就テ(圖版13—16)

第三册(昭和九年十二月)

- 北千島ニ産スルちりもニ就テ(圖版17—31)
- 本邦産かさこ科魚頭ノ研究 第一報 一新屬 五新種ノ記載
- 小浜産漁類ニ新種
- 小浜近傍産稚魚
- 第一報 いだてんかじか

Articles in Foreign Language.

- Marukawa, H.: Plankton-Organisms (Copepoda Collected off the Coasts of Provs. Bōshū, Izu and Suruga.) of Japan. (Vol. IV. Jan. 1908)
- Tokuhisa, M.: Examination of some Diatoms found in the digestive Organ of a Smelt (*Plecoglossus altivelis*.) from the Tama River. (Vol. IV. Jan. 1908)
- Okamura, K.: Some Littoral Diatoms of Japan. (Vol. VII. No. 4. Oct 1911)
- Terao, A.: On the Development of *Panulirus japonicus*. (V. Siebold) (Vol. XIV. No. 5. Mar. 1919)
- Hoshino, S., Tauri, M., Miyake, Y.: Thermal Conductivity of Cold Storage Insulators. (Vol. XX. 2. Nov. 1924)
- Miyazaki, H.: On the Development of Glotopelitis. (Vol. XX. No. 3. Nov. 1924)
- Hoshino, S., Ose, J., Hujita, M.: The Line Hauler. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)
- Seno, H., Tauri, M.: Apparatus for Maintaining a Series of Constant Temperatures. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)
- Seno, H., Kitagawa, M., Iwamoto, S.: The Effect of Continued Cold on the Viability of the Pteropod of *Diothricphalus latus* L. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)

- Higurashi, T.: Optimum Water Temperature for hatching of the Eggs of *Plecoglossus altivelis* T. & S. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)
- Terao, A.: The effects of Uranium Irradiation on the early Cleavage Stages of Oysters. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)
- Hoshino, S., Tauri, M., Miyosi, K.: On the Absorption of Water by Water-Proof Mortars. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)
- Higurashi, T.: Optimum Temperature for hatching the Eggs of *Hypomesus oltus pallas*. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)
- Higurashi, T., and Tauri, M.: On the Relation between Temperature and the Rate of Development of Fish-eggs. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)
- Okamura, K.: On the Culture of *Gracilaria confervoides*. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)
- Tauri, M., Miura, T., and Sugii, K.: Resistance of Plane Nets in Water. (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Higurashi, T. and Nakai, N.: Optimum water Temperature for hatching the Eggs of Carp. (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Nakano, S. and Nozawa, A.: On the Vitality of the Eggs and Sperm of *Oncorhynchus masou* (Land-locked). (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Nakano, S.: An Experiment on the artificial food of the young Fry of *Oncorhynchus Masou* (Land-locked.) A preliminary report. (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)

- Kawajiri, M.: On the Oxygen Consumption during Development of the Eggs and Fry of the Oncorhynchus Masou (Landlocked). (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Okamura, K. and Uyeda, S.: On *Laminaria angustata* Kjellm and *L. longissima* Miyabe. (Pl. I) (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Kamiya, T.: The Pelagic Eggs and Larvae of Fishes in the Tateyama Bay. (Pref. Chiba). 3rd Report (Pl. II) (Vol. XXI. No. 3. Dec. 1925)
- Kamiya, T.: The Pelagic Eggs and Larvae of Fishes on the Coast of "Hokuriku" (Northwestern Part of Japan Proper). (Pls. III, IV.) (Vol. XXI. No. 3. Dec. 1925)
- Sekine, H. and Kakizaki, Y.: Comparison of the meats of harder and softer Shell Crabs - *Paralithodes cambrichtica* (Thomson). (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Sekine, H. and Kakizaki, Y.: Influence of cooking Water on Crab Meat. (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Tauti, M. and Ilayashi, H.: On the Survival of Fishes crowding toward a Lamp. (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Terso, A.: On the Fertilizin of *Ostrea circumscissata* Pilsbry. (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Terso, A. and Tsung-zeu-cheng.: On the Rudiments of Gonad of *Ligula exotica* (Roux). (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Seno, H., Ehira, K. and Okada, T.: Effects of Temperature and Salinity on the Development of the Ova of a marine fish, *Calotomus japonicus*. (G. & V.) (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Ōya, T., Sumi, E. and Shimada, K.: On the Autolysis of Fish Muscle. II. (Vol. XXI. No. 5. Mar. 1926)
- Higurashi, T. and Nakai, N.: Influence of the lower temperature on the development of the Eggs of *Plecoglossus altivelis* T. & S. (Vol. XXI. No. 6. Mar. 1926)
- Terso, A. and Hiruma, T.: Temperature and Enchytrae or white Worms, *Enchytraeus* sp. (Vol. XXI. No. 6. Mar. 1926)
- Sato, N.: A new method of recording the Rolling and Pitching of ships. (Vol. XXI. No. 6. Mar. 1926)
- Okamura, K., Ueda, S. and Miyake, Y.: On the harmful Action of Deep-fog on *Torphyra tenara* Kjellm. (Vol. XXI. No. 6. Mar. 1926)
- Hori, J.: Notes on the full grown Larva and Spat of the Japanese common Oyster, *Ostrea Gigas* Thunberg. (Pl. I.) (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Nakai, N.: Eine neue Myxosporidien art aus Kiemen der Karpfens, Pl. II III. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Ōya, T. and Sumi, E.: On the Autolysis of fish muscle. III. Formation of Ammonia. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Ōya, T. and Shimada, K.: On Glycogenase in the fish muscle. I. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Ito, T.: Chemical study on the Marine Food. II. The nitrogen distribution and percentage of some Amino acid in the Muscle of the Shako, *Squilla oratoria* de Haan. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Nakanura, N.: Chemical study on the Marine Mammal. III. 1. On the Pancreas of the whale. Insulin. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Yoshimoto, M.: Chemical study on Protamine IV. 1. On the Protamines and Histones. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yamagawa, M., Mikawa, H. and Tomiyama, T.: Chemical study on the sperm of the Marine Animal. I. 1. On the Fish-Testis (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Ito, T.: Chemical study on the sperm of the Marine Animal. II. On the nucleic acid in Bonito Testis. (Vol. XXII. No. 2. 1926)
- Yamagawa, M. and Iouka, B.: Chemical study on the sperm of the Marine Animal. III. I. On the Sperm of the Sardinia, *Amblygaster immaculatus*. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yamagawa, M., and Yasaka, S.: Chemical study on the Marine Mammal. IV. 1. On the inner organs of the whale. a. Spleen and Pancreas of *Iwahikujira*, *Balaenoptera borealis* (Lesson). (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Ōya, T. and Harada, K.: On Amylase in Pyloric coeca of Seriola quinqueradiata. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Sekine, H. and Akiyama, S.: On the Muscle Protein. III. Differences between the Muscle Protein of Male and Female Fishes and deferent kinds of muscle of them. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Sekine, H.: On the Muscle Protein. IV. The nutritive value of the muscle Protein. 1. Comparison of fishes and mollusks. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Sekine, H.: On the muscle Protein. V. The nutritive value of the muscle Protein. II. The amount of lysine in the muscle protein and its effect on the growth of young rats. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Yamagawa, M.: Chemical study on the Marine Food. I. On the Metabolism of Calcium and Magnesium of the Dog fed on Fish. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Nishimura, S.: Chemical study on the Marine Mammal. I. 1. On the Adrenal of the whale Adrenaline (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Shibuya, Y.: Chemical study on the Marine Mammal. II. Hydrolysis of the muscular Protein of the whale, *Nagasukujira*, *Balaenoptera Physalus* (Linnaeus). (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)

- Yanagawa, M., Nishimura, S. and Horiuchi, S.: Chemical study on the Sperm of the Marine Animal IV. 1, On the Sperm of "Bachi," *Ceratocephale Osawai* Iizuka. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Yanagawa, M. and Nogata, F.: Chemical study on Protamine. V. 4. On the new Protamines. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- Seno, H., Hori, J. and Kusakabe, D.: Effects of Temperature and Salinity on the development of the Eggs of the Common Japanese Oyster *Ostrea gigas*, Thunberg. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
- Hori, J. and Kusakabe, D.: Preliminary experiments of the artificial Culture of Oyster larvae. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
- Yanamoto, S. and Masuda, S.: On the chemical Change in the heat-drying of fish-muscle. I. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
- Monoki, Y.: On the Decomposition of salted Fish muscle. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
- Yanamoto, T. and Sato, N.: A Simple Rolling Recorder and an Example of its use. (2nd Report on "Rolling Recorder.") (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
- Higurashi, T. and Nakai, N.: On the Influence of lower Temperature upon the development of the Eggs of *Hypomesus olistratus* Pallas. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
- Sano, H. and Hori, J.: A new method for the fattening of Oyster. (Vol. XXII. No. 4. Feb. 1927)
- Nakai, N.: On the Influence of water temperature upon the Development of the Eggs of *Leuciscus hakuenis* Günther. Plate. V. (Vol. XXII. No. 4. Feb. 1927)
- Yanagawa, M. and Nishimura, S.: Chemical study on the Sperm of the marine Animal V. On the Hydrolysis of Testis of Herring *Clupea pollasi* (C. and V.) (Vol. XXII. No. 4. 1926)
- Yanagawa, M. and Shibuya, Y.: Chemical study on the marine Food. III On the Hydrolysis of Muscle-protein of *Suzuki*, *Iatrolabrax Japonicus*. (Vol. XXII. No. 4 Feb. 1927)
- Kimura, K. and Kotani, K.: Ueber die Ursachen der Gaehrung des Uni-no-Shiwokan und deren Verbeugung. (Vol. XXII. No. 4. 1927)
- Tauti, M.: On the Vacuum Drying of Fishes. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)
- Tauti, M.: On the weakening of the Strength of Netting Cords in water. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)
- Ōya, T. and Sumi, E.: On Autolysis of Fish muscle IV. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)
- Ōya, T., Kawakami, M. and Suzuki, S.: On the digestive Ferment in the Pancreas of *anguililla japonica*. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)
- Ōya, T. and Hatanaka, S.: On the proteolytic Enzyme in the

- pyloric Coeca of Soonerb Japanese (Vol. XXII. No. 5. 1927)
- Ōya, T. and Shimada, K.: On (Glycogenase in the fish-muscle. II. (Vol. XXII. No. 5. 1927)
- Uyeda, S.: On the cold storage of the living fronds of "Asakusenoiri" PL. I. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)
- Tauti, M.: On the heated-wind-drying of fishes. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)
- Tauti, M.: A study on netting cords. I. The strength of the netting cords against the repeated blow. I. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)
- Kawajiri, M.: On the preservation of the egg and sperm of *Oncorhynchus masou* (Walbaum) (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Kawajiri, M.: The Optimum temperature of water for the hatching of the eggs of trout, *Oncorhynchus masou* (Walbaum) (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Kawajiri, M.: On the relation between the temperature and the vitality of *Spizogryra* sp. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Miyake, Y.: On the plane nets. I. Resistance of plane nets in water. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Tauti, M.: On the influence of temperature and salinity upon the rate of development of fish-eggs. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Nakai, N.: On the development of a parasitic Copepod, *Lernaea elegans* Leigh-sharpe, infesting on *Cyprinus carpio* L. (With 7 Text figures and Plate II-IV) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Kawajiri, M.: On the optimum temperature of water for hatching the eggs of Rainbow trout (*Salmo trutta* (Gibbons)) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Kawajiri, M.: The influence of variation of temperature of water on the development of fish-eggs (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Hata, K.: On the influence of four kinds of vibration upon the eggs of *Oncorhynchus Masou* (Drevoort). (Vol. XXIII, No. 3. Dec. 1927)
- Uyeda, S.: Neue grüne Algen als Nahrung für die Schalenlarven der Auster. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Hori, T. and Kusakabe, D.: On the artificial culture of oyster larvae. (II) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Uda, M.: Relation between the daily catch of fish and the meteorological elements—Part. I. Statistical Studies in the influence of the motion of cyclone upon the fishing. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Tauti, M.: Studies of netting cords. II. Relation between the load and the Elongation of netting cords. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)

- Matsui, Y. and Kumada, A.: Studies on Fish-disease. I. Ikari-mushi (*Lernaea elegans* Leigh-Sharpe), A new parasitic Copepod of Japanese Eel. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Matsui, Y. and Yamada, T.: On Nature of Water and Bottom of Fish-rearing-ponds I: On a case of Damage done to the cultivated fish by Acid-Soil. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Yamada, T.: On Nature of Water and Bottom of Fish-rearing-ponds II. Analytical Table compiled up to the fiscal year 1926. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: Chemical Studies on the Silkworm-pupa as Fish-food I. The difference of Chemical constitution of Pupa on the sort of Silkworm. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: Chemical Studies on the Silkworm-pupa as Fish-food. II. The Digestion of Silkworm-pupa with Protease of Eels. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: Chemical Studies on the Silkworm-pupa as Fish-food. III. A Chemical change of Stored Pupae. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: On the seasonal change of the chemical constitution of muscle of Carps. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: On the chemical change of the Eels in the course of Fasting. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Isii K.: A new method of measuring the degree of vacuum in Packed can. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Nakai, N.: On the influence of the water temperature upon the hatching of eggs of *Hypomesus olistus* Pallas.—III. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Hori, J.: On the relation between the temperature and the vitality of the oyster preserved in the air. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Tanui, M.: Studies of Netting cords. III. The strength of netting cords against the Repeated Blow. (2) (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Kawajiri, M.: The Influence of Variation of Temperature of Water on the Development of Fish-eggs. II. (Vol. XXIV. No. 1, Oct. 1928)
- Kawajiri, M.: On the Relation of Growth and Death from Starvation of the Trout Fry to Temperature. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Kawajiri, M.: On the studies of the Population-density of Cultured Fishes. I. On the Influence of population-density of Fishes upon the Survival-rate and the Rate of Growth. (I) (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Ueda, S.: On the Preparation of "Asakusanori" from the Cold Storage Material. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Ueda, S. and Miyori, K.: On the Preparation of "Asakusanori" by

- Vacuum Drying. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Tanui, M.: On the Influence of the Variation of Temperature of water upon the Hatch-rate and the Hatching-days of Fish eggs. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Tanui, M. and Yasuda, H.: On the Action of Toxic Substances. Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928
- Nakai, N.: On the Influence of the Temperature upon the Hatching of eggs of *Pteroglossus Alticivis* T. & S. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Terao, A. and Tanaka, T.: Population Growth of the Water-flea' *Moina Macrochloa* Strauss. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Terao, A. and Tanaka, T.: Influence of Temperature upon the Rate of Reproduction in the Water-Flea, *Moina Macrochloa* Strauss. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Terao, A. and Tanaka, T.: Influence of Population Density upon the Rate of Reproduction in the water-flea, *Moina Macrochloa* Strauss. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Terao, A. and Tanaka, T.: Influence of Population Density upon the Egg-laying on the Fish, *Oryzias Latipes* T. & S. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Kimura, K.: On the Detection of Fish-groups by an Acoustic Method. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Okada, M.: A Study on Brine Freezing of Fishes. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Okada, M.: On the Action of electric Current on Fishes. I. Excitation and Narcosis. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Tanui, M. and Miyosi, K.: On the Movement of a Fish-group. I. On the Direction of a Fish-group on passing the End of a Wall along which it has moved. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Tanui, M. and Hudino, T.: On the Movement of a Fish-group. II. The Case when Fishes were barred from their progress by a Wall. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Tanui, M. and Yanda, H.: On the Movement of a Fish-group. III. The Case when Fishes were barred from their Progress by a Net. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Horie, T, Sato, N., Genshō I. and Yamamoto, T.: On the Resistance of Boni o Fishing Boat. (Vol. XXIV. 3. Mar. 1929)
- Horie, T. Sato and N.: On the Resistance of Teguriami Fishing Vessels. (Vol. XXIV. No. 4. Mar. 1929)
- Kajiyama, E.: On the Influence of Temperature upon the Development of Eggs of *Pagrus major* (Temminck & Schlegel). (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)
- Kajiyama, F.: On the Influence of specific Gravity of Sea Water upon the Development of Eggs of *Pagrus major* (Temminck & Schlegel). (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)
- Kajiyama, E.: On the Influence of the Temperature and specific

Gravity of Sea water upon the Development of Larvae of *Pagrus auratus* Major (Tamminck & Schlegel) (Vol. XXIV. No. 5 Mar. 1929)
 Hata K.: On the Influence of the Duration of Time of Vibration upon the Development of Fish-eggs. (Vol. XXIV. No. 5, Mar. 1929)
 Okada, M.: Note on leading the Movement of Fish-groups by electric Current. (Vol. XXIV. No. 5 Mar 1929)
 Seno, H.: A Contribution to the Knowledge of the Development of *Ostrea denselamellata* Isehke. (Vol. XXIV. No. 5, Mar. 1929)
 Terao, A.: Relative rate of Reproduction as a Phase of Population Growth of Organism. (Vol. XXIV. No. 5, Mar. 1929)
 Ueda, S.: On the Temperature in Relation to the Development of the Gametophyte of *Laminaria religiosa Miyake*. (Vol. XXIV. No. 5, Mar. 1929)
 Ueda, S.: On the Life-history of *Porphyra tenra* Kjellm. (Vol. XXIV. No. 5, Mar. 1929)

Okada, M.: On the Action of Electric Current on Fishes. II Electrophoretaxis of Fishes in a Group. (Vol. XXV. No. 1. Aug. 1929)
 Terao, A. and Tanaka, T.: Anesthesia of the Water-flea, *Moina macrocephala* Strauss, in Relation to Age. (Vol. XXV. No. 1. Aug. 1929)
 Miura, T. (Transl. by Terao, A. & Okada, M.): Distribution of Benthonic Organisms and Hardness of Sea-bottom. (Vol. XXV. No. 2 Nov. 1929)
 Kusakabe, D.: On the Biology and Culture of the Marine Alga *Porphyra tenra* Kjellm. (*Asakusano*) (Vol. XXV. No. 2. Nov. 1929)
 Ebina, K.: Nuptial Organ of the Salmonoid Fish, *Plecoglossus altivelis* T. & S. (Vol. XXV. No. 2. Nov. 1929)
 Tauti, M.: Studies of Netting Cords. IV. Strength of Cord in Relation to the Twist. (Vol. XXV. 2, Nov. 1929)
 Tauti, M. and Yasuda, H.: On the Movement of a Fish-group. IV. The Shape of the Entrance of Fishing-net and the Fish-group Moving in and out. (Vol. XXV. No. 3. Mar. 1930)
 Sakamoto, K.: Placoid Scales of Five Species of Selachians belonging to Carchariidae. (Vol. XXV. No. 3. Mar. 1930)
 Terao, A. and Tanaka, T.: Exponential Decrease of Susceptibility to Anesthesia with Age in the Water-flea, *Moina macro-*

cephala Strauss. (Vol. XXV. No. 3. Mar. 1930)
 Terao, A. and Tanaka, T.: Population Growth of the water-flea, *Moina macrocephala* Strauss, in Relation to the Amount of Culture-medium. (Vol. XXV. No. 3. Mar. 1930)
 Terao, A. and Tanaka, T.: Duration of Life of the water-flea, *Moina macrocephala* Strauss, in Relation to Temperature. (Vol. XXV. No. 3. Mar. 1930)
 Kawamoto, N.: Physiological Studies on the Eel. III. Microscopical Observations of the Blood. (Plate I) (Vol. XXVI. No. 1. Dec. 1930)
 Yasunari, I.: A Biometric Study of Sexual Dimorphism in a Teleost, *Coladalis sata*. (Brewort) (Vol. XXVI. No. 1. Dec. 1930)
 Sakamoto, K.: Buccal Incubation in the Percoid Fish, *Apogon lineatus* T. & S. (Vol. XXVI. No. 1. Dec. 1930)
 Sakamoto, K.: Report of the Biological Survey of the Tateyama Bay. I. Description of a New Wrasse-Fish, *Gynolites tateyamensis*, n. sp. (Vol. XXVI. No. 1. Dec. 1930)
 Sakamoto, K.: Two New Species of Fishes from the Japan Sea. (Vol. XXVI. No. 1. Dec. 1930)
 Ebina, K.: Occurrence of the Nuptial Organ in the Female of the Salmonoid Fish, *Plecoglossus altivelis* T. & S. (Vol. XXVI. No. 1. Dec. 1930)

- Tateo, A. and Tanaka, T.: Life-History of the Water-flea, *Mesocyclops macrocypa* Strauss, Reproducing Parthenogenetically. (Vol. XXVI No. 1. Dec. 1930)
- Ueda, S.: Beitrage zur Entwicklungsgeschichte von Eucolpiceen. (Taf. II. u. III.) (Vol. XXVI No. 1. Dec. 1930)
- Shimizu, W.: A Few Studies on Determination of Nitrogen. (Vol. XXVI No. 1. Dec. 1930)
- Tauti, M.: Studies of Netting Cords. V. The Decrease of the Strength of Cords at the Knot. (Vol. XXVI No. 1. Dec. 1930)
- Sakamoto, K.: Tyre of a New Family of Males-Cheek Fish from the Japan Sea, *Marrakateichthys ambulatrix*, n. g. n. sp. (Vol. XXVI No. 2. Mar. 1931)
- Tanaka, T.: Pearl-sac Formation in the Pearl Oyster, *Margaritifera muriei* Dunker. (Vol. XXVI No. 2. Mar. 1931)
- Wada, H.: On the Relation between the Vacuum and Head Space in Canned Foods. (Vol. XXVI No. 2. Mar. 1931)
- Okada, M.: Circulation of Air in a Cold-Storage Warehouse. I. Preliminary Experiments on Convection Current in a Rectangular Chamber Cooled above and Heated below. (Vol. XXVI No. 2. Mar. 1931)
- Tauti, M.: Hirose, I. and Wada, H.: A Physical Method of Testing the Freshness of a Raw Fish. (Vol. XXVI No. 2. Mar. 1931)
- Ueda, S.: A Systematic Study of Genus *Forphyra* found on the Japanese Coasts. (Vol. XXVIII No. 1. Dec. 1932)
- Matsubara K. (Formerly Sakamoto) and Hirayama Y.: A Review of Triglidæ, a Family of mail-checked Fishes, found in the Waters around Japan. (Vol. XXVIII No. 1. Dec. 1932)
- Okada I.: On the Separation of Glycerides of Tuna (*Thunnus* sp.) Oil. (Vol. XXVIII No. 1. Dec. 1932)
- Matsubara K.: Review of *Hypodogomyx*, a Genus of Perculike Fishes, from Japan and Adjacent Region. (Vol. XXVIII No. 2. Mar. 1933)
- Oya F. and Yokota. S.: On Pancreatic Proenzyme of Cat-fish. (Vol. XXVIII No. 2. Mar. 1933)
- Vol. XXIX.
- No. 1. (Dec. 1933) Studies on Canned Tuna in Oils. I. Chemical Studies on heating, storing and Mixing of Oils. 2. Acid Values and Iodine Values of Oils in Canned Tuna in Oils. —Miyama, Y. and Saruya, K.
- Experimental Studies of the Water Movement in Coastal Regions of the Sea. I. Tidal Oscillations in Sagami Bay. (Pls. 1~15) —Okada, M. and Miyoshi, K.
- On the Slick Antimony Electrode for the Determination of Ph. I. —Tomiyama, T.
- No. 2. (Mar. 1934) On Gelidium and Pterocladia of Japan. (Pls. 16~33) —Okamura, K.
- Sakamoto, K.: Two New Genera and Species of Cottoid Fishes from Japan. (Vol. XXVII No. 1. Mar. 1932)
- Sakamoto, K.: On a Collection of Tide-Pool Fishes from Prov. Boshu, with a Description of One New Species. (Vol. XXVII No. 1. Mar. 1932)
- Ebina, K.: Sexual Dimorphism in a File Fish, *Centurus modestus* (Günther) (Vol. XXVII No. 1. Mar. 1932)
- Ebina, K.: Buccal Incubation in the Two Sexes of a Percoid Fish, *Apogon semilineatus* T. & S. (Vol. XXVII No. 1. Mar. 1932)
- Ueda, S.: New Freshwater Species of Chaetomorpha. (with Pl. I.) (Vol. XXVII No. 1. Mar. 1932)
- Saruya, K.: Relation between the Growth of Bacteria and the Change of Quality of Seemher Flesh at Low Temperatures. (Vol. XXVII No. 1. Mar. 1932)
- Tauti, M.: A New Form of Electric Fish Screen. (Vol. XXVII No. 2. Mar. 1932)
- Yamamura, Y.: Change of Rigidity of Fish Body during Decomposition. (Vol. XXVII No. 2. Mar. 1932)
- Tauti, M. & Yasuda, H.: Supplying of Intermittent Current to Electric Fish Screen. (Vol. XXVII No. 2. Mar. 1932)
- Terao, A.: Duration of Life and Rate of Reproduction of the Water-flea, *Mesocyclops* Strauss, with Special Reference to Rate of Living. (Vol. XXVII No. 2. Mar. 1932)
- On the Soundings from the Banks of Suonumi in the Bay of Suruga, Japan. (Pls. 34~6) —Nishio, H.
- Vol. XXX.
- No. 1. (Jul. 1934) Geneal Studies on Gold-fish of Japan. 1. On the Varieties of Gold-fish and the Variations in their External Characteristics. 2. On the Mendelian Inheritance of the Telescope Eyes of Gold-fish. 3. On the Inheritance of the Scale Transparency of Gold-fish. 4. On the Inheritance of Caudal and Anal Fins of Gold-fish. —Matsui, Y. (Pls. 1~12)
- No. 2. (Aug. 1934) Chemical study on Prolamine. VI. 1. Acid hydrolysis of Salmine. —Yamagawa, M. & Nishizawa, T.
- Concretion and Pseudoncretions dredged from the Sea Bottom around Japan. (Pls. 1~16) —Nino, H.
- No. 3. (Dec. 1934) The Desmilloflora of the Northern Kurile Islands. —Okawa, Y.
- Studies on the Scorpaenoid Fishes of Japan. I. Descriptions of One New Genus and Five New Species. —Matsubara, K.
- Descriptions of Two New Fishes from Kominato, Prov. Bōsya. Larvae and Young of Fishes found in the Vicinity of Ebina, K. Kominato. I. *Ocyneutes maschalis* Jordan & Sars. —Nakamura, S.

(口) 漁業基本調査報告

(第一、二、三冊、水産局刊行)

- 第四冊 (大正四年三月)
- 第五冊 (大正七年三月)
- 第六冊 (大正七年九月)
- 第七冊ノ一 (大正八年一月)
- 第七冊ノ二 (大正八年二月)
- 第八冊ノ一 (大正八年三月)
- 第八冊ノ二 (大正八年三月)

(イ) 海洋調査彙報

- 第一卷第一冊 (大正十五年三月)
- 同 英文 (大正十五年九月)
- 第二卷第一冊 (昭和三年三月)
- 同 英文 (昭和三年三月)
- 第三卷第一冊 (昭和四年一月)
- 同 英文 (昭和四年一月)
- 第三卷第二冊 (昭和四年三月)
- 同 英文 (昭和四年三月)

(ニ) 海洋調査要報

- 第一報 (大正七年十月)

- 第二十五報 (大正十三年十月)
- 第二十六報 (大正十三年十二月)
- 第二十七報 (大正十四年三月)
- 第二十八報 (大正十四年六月)
- 第二十九報 (大正十四年十月)
- 第三十報 (大正十四年十二月)
- 第三十一報 (大正十五年三月)
- 第三十二報 (大正十五年七月)
- 第三十三報 (大正十五年九月)
- 第三十四報 (大正十五年十二月)
- 第三十五報 (昭和二年三月)
- 第三十六報 (昭和二年六月)
- 第三十七報 (昭和二年十月)
- 第三十八報 (昭和二年十二月)
- 第三十九報 (昭和三年三月)
- 第四十報 (昭和三年六月)
- 第四十一報 (昭和三年十月)
- 第四十二報 (昭和四年一月)
- 第四十三報 (昭和四年三月)

(ホ) 其ノ他ノ刊行物

- 獨伊塊淡水養魚觀察報告
- 日本鮭鱒養殖誌

日 暮 松 原 新 之 助

- 第二報 (大正七年十二月)
- 第三報 (大正八年三月)
- 第四報 (大正八年六月)
- 第五報 (大正八年十月)
- 第六報 (大正八年十一月)
- 第七報 (大正九年三月)
- 第八報 (大正九年六月)
- 第九報 (大正九年十月)
- 第十報 (大正九年十二月)
- 第十一報 (大正十年三月)
- 第十二報 (大正十年七月)
- 第十三報 (大正十年十月)
- 第十四報 (大正十年十二月)
- 第十五報 (大正十一年三月)
- 第十六報 (大正十一年六月)
- 第十七報 (大正十一年十月)
- 第十八報 (大正十一年十二月)
- 第十九報 (大正十二年三月)
- 第二十報 (大正十二年六月)
- 第二十一報 (大正十三年三月)
- 第二十二報 (大正十三年三月)
- 第二十三報 (大正十三年三月)
- 第二十四報 (大正十三年六月)

- 水産講習所圖書目錄 (明治四十五年二月) 農學博士 鈴木梅太郎
- 海産物ノ化學的研究(代贈寫) 理學博士 石川千代松
- 原種改良論(代贈寫) 矢野 實
- 魚類冷蔵法 谷村 重忠
- 海獸魚皮製法
- 浮游生物檢索圖解 理學士 妹尾 秀實
- 歐米鹹水養殖觀察報告 (大正七年五月)
- 海洋調査ト魚族ノ回游 (大正七年五月)
- 加奈陀太平洋岸鍊大鮭漁業調査報告 (大正八年三月)
- 水産製造ニ關スル調査試驗研究項目及内容目錄並ニ抄録集 (大正八年三月)
- 朝鮮天日製鹽調査報告書 (大正八年三月)
- 浮游生物檢索圖說 第二冊 (大正十年三月)
- 魚團製造法 (大正十年四月)
- 激震地方ニ於ケル海洋ト漁業 其一 (大正十二年十二月)
- 激震地方ニ於ケル東京海灣ノ海洋並ニ漁業狀態調査概況
- 激震地方ニ於ケル海洋ト漁業 其二 (大正十三年三月)
- 震災後ニ於ケル相模灣及房總沿岸海洋調査概況
- 國際水産統計資料 (大正十三年三月)
- 英文水産講習所一覽 (大正十五年八月)
- 和文水産講習所圖書目錄 (昭和三年七月)
- 水産講習所要覽(昭和八年十一月)
- 英文水産講習所一覽(昭和八年十二月)

交換外國雜誌報告類

- Administration Report of the Madras Fisheries Department.
 Annalen des Naturhistorischen Museum in Wien.
 Annual Report of the Director of the Museum of Comparative Zoology at the Harvard College.
 Annual Report of the Fan Memorial Institute of Biology Peking.
 Annual Report of the Smithsonian Institution.
 Annual Report on the Fisheries of New South Wales, Australia.
 Anzeiger der Akademie der Wissenschaften in Wien.
 Anzeiger der Akademie der Wissenschaften in Wien.
 Arbeiten der Biologischen Station zu Kopsino (bei Moskau).
 Arbeiten aus der Biologischen Versuchsanstalt München.
 Arkiv for Zoologi.
 Aus dem Archiv der Deutschen Seewarte.
 Bergens Museum Aorhok.
 Bergens Museum Aorberening.
 Bibliographia Oceanographica.
 Biological Bulletin of the Marine Biological Laboratory.
 Boletim do Museu Nacional do Rio de Janeiro.
 Bolletino di Pesca, di Piscicoltura e di Ittobiologia, Roma.
 Biological Board of Canada.—
 Annual Report.
- Bulletin.
 Contributions to Canadian Biology & Fisheries
 Progress Reports of Atlantic Biological Station & Fisheries Expt. Station.
 Bulletin de la Societe Centrale d'Agriculture et de Pêche.
 Bulletin de l'Institut des Recherches Biologiques de Perm.
 Bulletin du Museum National d'Histoire Naturelle, Paris.
 Bulletin of the Arctic Institute, Leningrad.
 Bulletin of the Boston Society of Natural History.
 Bulletin of the Fan Memorial Institute of Biology.
 Bulletin of the Institute of Freshwater Fisheries.
 Bulletin of the Museum of Comparative Zoology at Harvard College.
 Bulletin of the Permanent International Association of Navigation Congresses.
 Bulletin of the Scripps Institution of Oceanography.
 Bulletin of the Pacific Scientific Fisheries Institute, Vladivostok.
 Bulletin of the Vanierholt Marine Museum.
 Bureau Central d'Océanographie, Venise.—Bulletin.
 Bulletin Suisse de Pêche et Pisciculture.
 California Fish & Game.
 California Academy of Sciences.—

Occasional Papers.

- Proceedings.
 California State Fisheries Laboratory.—Fish Bulletin.
 Conseil Permanent International Pour l'exploration de la Mer.—
 Bulletin Statistique des Pêches Maritimes.
 Faune Ichthyologique de l'Atlantique Nord.
 Rapports et Procès-Verbaux des Reunions.
 Ceylon Journal of Science.
 Deutsche Fischwirtschaft.
 Fisherhote.
 Fischmarkt.
 Fishery Investigations of the Ministry of Agriculture & Fisheries.
 Fishing Gazette.
 Fishery Board for Scotland:—
 Salmon Fisheries.
 Scientific Investigations.
 Sea Fisheries.
 Hydrographic Review.
 Illinois Health Messenger.
 Institut Océanographique de l'Indochine (Formerly Service Océanographique des Pêches de l'Indochine):—
 International Review of Agriculture.
 Jahrsbericht der Deutsche Fischerei.
- Journal of the Elsha Mitchell Scientific Society.
 Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom, Plymouth.
 Memoirs of the Indian Museum.
 Memorial del R. Comitato Talassografico Italiano.
 Memorias del Instituto Espanol de Oceanografia.
 Mitteilungen aus dem Zoologischen Museum in Berlin.
 Norsk Fiskeritidende.
 Naturkundig Tijdschrift voor Nederlandsche-Indie.
 Notices of Judgment under the Food & Drugs Act.
 La Pêche Maritime, la Pêche fluviale et la Pisciculture.
 Peking Natural History Bulletin.
 Philippine Journal of Science.
 Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia.
 Proceedings of the Royal Irish Academy.
 Proceedings of the Royal Society of Edinburgh.
 Proceedings of the Royal Society of Victoria.
 Publikationer fra Universitetets Zoologiske Museum, København.
 Reports of the Scientific Institute of Fisheries, Moscow.
 Report of the Danish Biological Station.
 Report of the Newfoundland Fishery Research Commission.
 Report of the State Oceanographical Institute.
 Scientific Proceedings of the Royal Dublin Society.

上野忠次 千葉岡部五郎 茨城
岡本武男 和歌山矢崎春雄 長野
馬杉欣一 千葉藤村健二 東京
青野宏市 愛媛淺井正夫 東京
佐藤武久 福島木野武敏 靜岡
菊田祐太郎 福島宮崎千博 愛知
關野政夫 神奈川菅谷敬三 埼玉
鈴木正一 福島鈴木重一 愛知
大學 登崎玉

第二學年 (二十七名)

萩尾堅熊 熊本橋本孝 神奈川
橋本源八 福岡仁保清 山口
堀江禮助 埼玉渡邊元 千葉
加藤幸夫 岐阜上西太郎 大分
神原英三 香川玉木博 大阪
瀧口佐左衛門 靜岡佃三郎 兵庫

第一學年 (三十五名)

岩下盛大 宮崎家久 了愛媛
西本新山 山口千北 仟司長崎
折笠明 東京小川友彌 靜岡
小副川十郎 佐賀永田賤生 福井
白井岩雄 靜岡居城力 新潟
山口董平 千葉米谷哲夫 宮城
松本仙一 山口眞野俊雄 東京

製造科 (百十七名)
牧野六郎 東京藤井重雄 福岡
古川東助 熊本古屋昌雄 東京
船越忠佐 賀福田義夫 山口
小林博夫 東京近藤武芳 宮城
有泉要藏 神奈川芦澤千秋 山梨
猿田雄達 長野左近司彰 男 東京
佐々木幸康 廣島南四郎 東京
白川九內 新潟平見良平 東京
元木久二 千葉森松隆 京都
關政夫 秋田關口祿郎 兵庫
鈴木英雄 茨城

第四學年 (二十七名)

長谷部明石 埼玉長谷川漸成 大阪
星正二 福島川本一義 大阪
吉原友吉 東京谷正二 東京

第三學年 (三十名)

高橋豐雄 東京高橋利一 東京
田中得三 兵庫津田眞平 福井
中井善治 福岡野中巖夫 長崎
野澤元長 長野矢作清司 東京
松島重藏 岡山古賀勝見 福岡
會田時夫 秋田熱田察 宮崎
尼崎保 大阪木村稔 東京
由井十七三 香川宮川正孝 長野
本橋邦郎 東京妹尾滿喜夫 岡山
千田鎌三 東京田上輝一 千葉
家田潔 東京堀口秀雄 東京
本間節郎 神奈川富永正 茨城
土信田秀夫 東京吉澤滿 神奈川
田中健二 靜岡武井友七 埼玉
棟久芳祐 山口大川俊平 三重

第二學年 (三十名)

金田	敬	東京	久保清左衛門	三重
紅林	浩	東京	熊野秀德	廣島
山崎	力	東京	山本篤一	和歌山
增野	博	山口	小林浩之	兵庫
小島東三郎	三郎	東京	足立武	茨城
秋澤不二雄	高知	彌勒四郎	宮田真三	東京
三橋賢二	鳥取	神藤正	愛知	廣島
白鳥昌	東京	關貞雄	東京	東京
平山榮男	茨城	長谷部義定	東京	東京
杉藤四郎	福岡	濱地寬夫	和歌山	和歌山
伊集院兼清	鹿兒島	河合八壽夫	鹿兒島	鹿兒島
大塚敏夫	茨城	吉本三郎	山形	山形
吉田議士郎	熊本	高田功	栃木	栃木
高橋公正	神奈川	田中文三	千葉	千葉
高木正司	静岡			

第一學年 (三十名)

田村龜太郎	北海道	中春重夫	大分
内田正次	埼玉	野中順三	香川
保田正己	岡山	松本政典	香川
小林隆太郎	東京	小林泰	北海道
青柳正二	栃木	秋間重雄	東京
安齊清	埼玉	木村孝三郎	群馬
光岡良典	岡山	重原靜一	廣島
樋口善之助	大阪	森和夫	静岡
關口善一郎	東京	鈴木良平	福島
鈴木四郎	東京	須田敦	千葉
池田壘一	東京	石井教景	東京
埴幹二	茨城	林嚴	東京
長谷川治郎	静岡	大森敏夫	千葉
加藤章三	島根	香川敏郎	島根
高田三郎	東京	武波愛三	山口

養殖科 (七十四名)

第四學年 (十八名)

竹内邦博	静岡	中島周三	東京
黒崎朗	茨城	山田忠男	福井
山崎喜助	東京	八尋大吉郎	有朋 東京
國分秀男	福島	小菅隆郎	群馬
照山守三	茨城	阿部敏郎	北海道
阿部睦雄	福島	安藤貞	東京
坂本東太郎	青森	三原眞佐男	東京
三好禮治	岡山	三澤師	大分
鹿内徳保	北海道	重富功	山口
平野武	東京	須賀芳郎	東京

第三學年 (十八名)

藤井銀造	大阪	深津吉郎	静岡
淺野長雄	茨城	佐藤鉦一	東京
柴田玉城	福岡	庄悦二	兵庫
清水二郎	長野	菅原兼男	宮城
末次傳	福岡	鈴木善幸	岩手
猪野峻	東京	西村祥一	富山
土井増造	大阪	岡本善夫	高知
河上一雄	岐阜	吉田保司	福島
竹内秀男	東京	中村守純	東京
野本一郎	東京	黒田竹彌	東京
木暮岳彦	群馬	宮内敬三	千葉
清水定明	東京	廣澤裕	東京
鈴木健吉	東京	石川策	栃木

第二學年 (十八名)

早野力	埼玉	太田繁	島根
-----	----	-----	----

渡邊 實 新潟 金子啓作 東京
 田中清治 長野 瀧田 登崎玉
 中山太郎 京都 柳瀬 眞 東京
 山田正二郎 東京 松野三郎 山口
 増田守夫 愛知 藤本常彦 大阪
 青山志麻次 佐賀 相良治雄 長崎
 喜多村 勇 島根 島田精一 愛媛
 末富 壽樹 山口 小野崎仙介 東京
 兒玉太郎 愛媛

第一學年 (二十名)

石橋都郎 東京 石栗俊良 東京
 入澤武夫 東京 井上明 廣島
 堀内吟三 東京 細川榮三郎 神奈川
 戸田雄平 東京 小宅好次 栃木
 葛西 襄 北海道 内田守雄 東京
 植村宗三郎 東京 黒木榮一 福井

山下正夫 東京 山本 忠 廣島
 牧村 弘 大阪 古川一郎 愛知
 古川 實 廣島 小島林平 愛知
 佐々木 瑛 東京 鈴木忠雄 愛知

二 專攻科 (十五名)

漁撈科 (四名)

第二學年 (二名)
 宇野道夫 福岡 宮本秀明 徳島

第一學年 (二名)
 家久 博 愛媛 菅野 進 京都

製造科 (四名)

第二學年 (二名)
 川上太左英 新潟 白石友義 山口

第一學年 (二名)
 寺瀬 經夫 奈良 宮越 惣治 新潟

養殖科 (七名)

第二學年 (四名)
 瀧川 悟 山口 山村彌六郎 福島
 前畑 繁春 鹿児島 杉田隆治 東京

第一學年 (二名)
 鈴木 順 東京

三 遠洋漁業科 (六名)

第二學年 (二名)

安藤 清 東京 水谷 碧 群馬

第一學年 (四名)
 伴 三綱 静岡 根本 嘉博 福島
 山口 芳男 東京 藤本 毅 山口

四 本科選科生 (七名)

漁撈科 (六名)

昭和八年度入學 (四名)
 上野 八郎 富山 曹 泰 煥 朝鮮

昭和九年度入學 (二名)
 ゴンザロ・ジー・フェレル 比律賓 比律賓

養殖科 (一名)
 昭和九年度入學 王 貽 觀 中華民國

野村 進 東京

第二節 在學生府縣別

道府縣別	學生				種別
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
北海道	八	六	五	七	本 科
東北府	一	一	一	一	
京都府	一	一	一	一	
大阪府	一	一	一	一	
神奈川縣	一	一	一	一	科
兵庫縣	一	一	一	一	
長崎縣	一	一	一	一	
新潟縣	一	一	一	一	
群馬縣	一	一	一	一	專 攻 科
埼玉縣	一	一	一	一	
千葉縣	一	一	一	一	
茨城縣	一	一	一	一	
栃木縣	一	一	一	一	科
群馬縣	一	一	一	一	
愛知縣	一	一	一	一	
三重縣	一	一	一	一	
靜岡縣	一	一	一	一	漁 撈 科
山梨縣	一	一	一	一	
滋賀縣	一	一	一	一	
岐阜縣	一	一	一	一	
長野縣	一	一	一	一	選 科
山梨縣	一	一	一	一	
靜岡縣	一	一	一	一	
愛知縣	一	一	一	一	
三重縣	一	一	一	一	計 總
滋賀縣	一	一	一	一	
岐阜縣	一	一	一	一	
長野縣	一	一	一	一	
合計	九	五	六	二	

道府縣別	學生				種別
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
北海道	一	一	一	一	本 科
東北府	一	一	一	一	
京都府	一	一	一	一	
大阪府	一	一	一	一	
神奈川縣	一	一	一	一	科
兵庫縣	一	一	一	一	
長崎縣	一	一	一	一	
新潟縣	一	一	一	一	
群馬縣	一	一	一	一	專 攻 科
埼玉縣	一	一	一	一	
千葉縣	一	一	一	一	
茨城縣	一	一	一	一	
栃木縣	一	一	一	一	科
群馬縣	一	一	一	一	
愛知縣	一	一	一	一	
三重縣	一	一	一	一	
靜岡縣	一	一	一	一	漁 撈 科
山梨縣	一	一	一	一	
滋賀縣	一	一	一	一	
岐阜縣	一	一	一	一	
長野縣	一	一	一	一	選 科
山梨縣	一	一	一	一	
靜岡縣	一	一	一	一	
愛知縣	一	一	一	一	
三重縣	一	一	一	一	計 總
滋賀縣	一	一	一	一	
岐阜縣	一	一	一	一	
長野縣	一	一	一	一	
合計	二	四	三	七	

第五章 卒業生

第一節 卒業生氏名 (○ハ優等卒業生又ハ賞品受領者×ハ死亡者)

一本科

(一) 漁撈科

明治三十一年第一回卒業

四月(十三名)

家入 四直 福岡
橋本 猪太郎 熊本
加藤 勢三 三重
南摩 紀麿 東京
長友 茂三郎 宮崎

(舊名小市)

龜井 願一 山口

武藤 禮二 宮城

内田 治三郎 山口

村田 乙三郎 東京

× 福田 久橋 長崎

木村 廣三郎 石川

庄司 與一郎 石川

× 菅谷 毅 茨城

明治三十二年第二回卒業

四月(十五名)

石野 敬之 千葉
大庭 弘雅 福岡
大谷 正猛 高知
高橋 潤二 岡山
× 山下 節治 長崎
矢野 新吉郎 熊本
松崎 彌一 鹿兒島

古田 正知 岐阜

小林 香八 新潟

○ 坂本 庄太郎 佐賀

(舊名一郎) 佐々木 孝太郎 廣島

× 宮下 知一 東京

× 下國 沖助 北海道

× 樋口 律太郎 長崎

(舊名茂文) 森田 忠三 秋田

四月(十二名)

× 吉永 貴八郎 長崎
田中 仁吉 島根
田谷 英石 川

明治三十三年第三回卒業

津田 美津彦 福岡

○ 中村 嘉壽 鹿兒島

× 久保 澤 青森

× 松田 林 宮崎

小金丸 増次郎 福岡
小島 才一 神奈川

× 小木原 元吉 鹿兒島
森 藏助 鹿兒島

× 須田 正治 山形

四月(八名)

石川 伸治 石川
○ 本間 平八 山形
長内 泰助 岩手
大川 辰藏 兵庫
松尾 秀夫 長崎

明治三十四年第四回卒業

前田 春水 宮城

荒 卯忠 福島

喜多山 昇來 愛媛

四月(五名)

額田 喜一 香川
小島 省吾 石川
佐藤 正孝 山形

明治三十五年第五回卒業

日高 靖 宮崎

元木 淑人 徳島

七月(七名)

稻見 彌一郎 北海道
× 岩田 雄 京都
内田 四郎七 福井

明治三十七年第七回卒業

黒木 圓太 福岡

× 山田 廣次 福岡

宮田 光 京都

關根 磯吉 東京

七月(十二名)

× 堀 宏 新潟
渡邊 定助 愛知
× (舊姓朝長) 渡邊 理一 東京
× 寛多 記 茨城
× (舊名榮定) 田中 智慶 長崎
中島 昌二 廣島
中島 秀男 島根

明治三十八年第八回卒業

長井 貫吾 新潟
× (舊姓鈴木) 山岸 留之助 北海道
× (舊名重利) 小松 重春 高知
美代 清信 鹿兒島

× 杉江 謙治 石川

七月(十三名)

伊藤 朗 愛知
(舊姓福井)
岩本千代馬 高知
×林田 甚八 長崎

堀江 英一 廣島
×川口 録一 岐阜
×川添 友志 鹿兒島
南部 寛 福井

×村上 素 宮城
上枝平五郎 香川
久保雷之助 愛媛
山根左中 島根

木暮 彌七 群馬
水間 泰吉 徳島

七月(十二名)

登坂 高三 山形
×和田 美穂 宮崎
鎌田 武造 青森

笠松 彌一 東京
河野 光三 山口
×田中 登三 三重
×中村源一郎 鹿兒島

奥津 興美 群馬
山田純太郎 東京
橋川 章 宮城
榎本 彌正 香川

杉浦 保吉 埼玉

七月(十五名)

○芳賀 奈七郎 岩手
秦 半兵衛 東京
東郷 保一 宮城
小川幸之進 岡山

長田 景貞 鹿兒島
×川島 信一 廣島
中北 静 岐阜
村山 吉助 山形
村田 貫一 山口

×野間口 兼美 鹿兒島
國司 浩助 山口
熊田 頭四郎 栃木
×小崎 彰 宮城
安達 誠三 石川

木津和秀 男 廣島
九月(三名)
長友 寛 宮崎
×柳 悦多 東京
秋山 實 千葉

十月(十七名)

馬場 駒雄 岡山
×新宅 定一 廣島
×飛山 信治 新潟

×渡邊 康介 愛知
×河村 常一 廣島
金子 常太郎 岩手
吉田 義勇 長崎

高山 伊太郎 大分
竹内 仲治 長野
村上 寅一 愛媛
植木 憲吉 兵庫

(舊姓石井)
松金 梯治 茨城
福野 久松 石川
天野 壯助 愛知
木下 信資 鳥取

×宮脇 伊太郎 鹿兒島

×溝上 二州 兵庫

七月(九名)

奥村 伊三郎 滋賀
金刺 琢磨 香川
横田 壯 福島
×吉田 定次郎 鹿兒島
武富 榮一 佐賀

辻 志郎 栃木
明山 保次郎 兵庫
木下 辰雄 熊本
三浦 定之助 山形
九月(十二名)
岩本 清太郎 鳥取

×市川 峰吉 三重
×飯尾 公壽 福岡
○與儀 喜宜 沖繩
谷本 坂惠 岡山
後藤 節藏 大分
古閑 義康 熊本

新井 藤一郎 茨城
×齋藤 齊 福島
○荻田 静夫 鹿兒島
白井 勝三郎 茨城
日比 義三 岐阜

七月(十四名)

伊吹 群作 福井
濱田 五六 廣島
新國 逸夫 新潟
細川 可也 栃木
富永 盛治郎 福島

棟本 曉 山口
横山 將來 石川
竹本 正文 東京
竹田 重雄 静岡
長棟 暉友 鳥取
能美 猪勇武 福岡

黒田 藤五郎 愛媛
柴戸 雅一 長崎
(舊姓秋山)
白石 立見 香川
八月(六名)
伊東 猪六 佐賀

加藤 平吉 山形
後藤 榮助 香川
秋田 榮治 東京
木村 榮 鳥取
木村 成松 福井

七月(十五名)

石原 重郎 熊本
布目 夜石 川
大塚 三平 茨城

高橋 照文 千葉
×高木 繁春 東京
×牛山 美廣 長野
山田 植一 愛媛

山根 揆一 埼玉
矢吹 正夫 岡山
藤川 若松 廣島
×吉川 隆治 秋田

水戸川 運一 廣島
×宮崎 盛長 崎
三浦 正秋 田
清水 隆道 山口

明治四十四年第十四回卒業

明治四十三年第十三回卒業

明治四十二年第十二回卒業

明治四十一年第十一回卒業

明治四十年第十回卒業

明治三十九年第九回卒業

九月(十二名)

林 卯吉 大阪
越智 章 静岡
田中耕之助 東京

明治四十五年、大正元年第十五回卒業

辻 知一 長崎

上野 省三 山梨
×黒野 元憲 東京
山本 静一 愛媛

松本 修二 兵庫
小林 章之 埼玉
青木 貞治 北海道
佐藤 敬吉 山形

御厨保太郎 長崎

七月(十二名)

石井 文吉 東京
(舊姓大場)
飯塚 哲夫 宮城
○戸井田 二郎 熊本
×神山 捨吉 岐阜
八木 三千彦 鹿兒島

大正二年第十六回卒業

松尾 政次郎 佐賀

(舊姓白崎)
淵邊 知之 千葉
(舊姓伊澤)
佐々木 三治 富山
霜村 兵七 佐賀
×平 彌 博 兵庫
清 藤太郎 静岡

(舊姓山本)
須藤 三策 新潟
九月(九名)
飯田 與兵衛 東京
丹羽 六一 岐阜
葛城 忠男 石川
國分 友海 鹿兒島

小塚 銀八 愛知
×照井 賢三 岩手
水野 均治 愛知
×島田 喜一 静岡
×莊 司 勇 山形

七月(十名)

○飯山 太平 茨城
濱崎 末長 高知
吉安 新次 兵庫
田面 欽次 兵庫
(舊姓鈴木)
○村山 敏三 福島
松田 鶴次郎 福岡

大正三年第十七回卒業

小安 正三 東京

小林 敏行 東京
宮本 義永 茨城
島田 儀三郎 熊本
九月(十一名)
本田 光吉 愛媛
岡本 重治 愛知

高柳 繁次郎 群馬
塚崎 謙吉 秋田
中川 甚藏 東京
山口 慶四郎 群馬
馬上 福壽 福島
松尾 我何人 長崎
永福 虎 鹿兒島

三輪 源造 岡山
久富 元長 崎
十月(一名)
小河 範太郎 福岡

七月(九名)

○服部 愛之助 大阪
原田 健兒 熊本
本間 久四郎 新潟
德光 外治 石川
梅本 儀助 福岡
野崎 民平 三重

大正四年第十八回卒業

山田 勝衛 長野

前田 英二 新潟
莊 得一 岡山
九月(九名)
飯沼 壽 東京
林 準 二 東京
大村 道一 兵庫

谷口 武三 岐阜
邸井 捨吉 東京
×佐藤 成美 和歌山
佐々木 孝造 京城
○桐本 富次 和歌山
岸田 十雄 岡山
十月(一名)

沼野 御吉 新潟
十一月(二名)
中村 吉治 長野
重田 瑞穂 兵庫

七月(十六名)

石崎 實三郎 愛媛
(舊姓白石)
林 賢三郎 埼玉
岡本 正一 静岡
渡邊 六造 山形
龜田 精一 鳥根
吉田 秀一 東京
田代 正治 新潟
津田 守規 福岡

大正五年第十九回卒業

中山 琢三 福島

栗田 要吉 京都
○山田 盛雄 福岡
山本 德一 愛媛
合原 一 福岡
小松 和勝 熊本
旭 陽三 石川
齋藤 陽三 東京
九月(十名)

家坂 孝平 新潟
高橋 千里 長崎
×浦山 精一 静岡
日下部 彦次郎 兵庫
山井 隆亮 栃木
峰 辰三 長崎
×森村 共正 石川
桃田 利惣 新潟
仙波 平馬 栃木

×逸 肇 福岡
十月(二名)
三宅 好美 岩手
十二月(二名)
村上 正男 愛媛
淵山 貞長 崎

七月(九名)

岡島 清廣 島
尾藤 信正 熊本

金村 正巳 山形

雁部 松三郎 宮城
×谷村 豊吉 高知

根岸 勝三 福島
秋山 俊一郎 高知
北野 退藏 宮城

須具 實山 山形
九月(三名)
×坂部 明七 栃木

吉田 春吉 東京
田原 精夫 東京
十一月(二名)
岩崎 狷二 島根
行川 清千葉
十二月(二名)
佐々木政之助 宮城
關口 壽之助 東京

三月(十六名)

×市川 友賀 神奈川
今村 龍雄 三重
岡田 正人 兵庫
和田 秀政 兵庫
川添 爲一 香川
中島 正一 東京
柳川 和民 島根

×正木 一作 千葉
郷 朔雄 東京
甘利 集基 長野
天野 郡治 千葉
澤池 一雄 京都
佐々木 武雄 宮城
人見 秀四郎 東京
平山 繁 鹿兒島

四月(三名)

菅 三郎 岩手
堀井 恒次郎 廣島
鎌田 穰 福岡
日置 德太郎 岡山
五月(四名)
今岡 源一 廣島

九月(一名)

飯野 良佐 埼玉
大津 清福 岡
青木 京一郎 岩手
近藤 止三 愛媛
十一月(二名)
岩尾 正人 三重
山下 彌三 左衛門 鹿兒島

三月(十七名)

井上 常吉 佐賀
神田 貞治 山形
谷島 馬太郎 大阪
高橋 幸三郎 宮城
副田 德平 佐賀

○十川 正夫 徳島
中谷 熊楠 和歌山
山口 喜太八 兵庫
伏本 政樹 廣島
小笠原 秀雄 群馬
鯉沼 英吉 栃木

四月(二名)

海老塚 健一 神奈川
佐藤 清治 宮城
酒卷 義司 千葉
×菊池 忠造 宮城
鹽澤 虎馬 山梨
×久野 好 福岡

四月(二名)

近藤 重虎 高知
×坂倉 今次郎 静岡
篠山 武次郎 岡山
秀島 魁 佐賀
森下 伊三郎 和歌山
伊賀 敏郎 兵庫

三月(二十三名)

池田 文爾 富山
×池田 信也 廣島
石田 壽之 群馬
戸川 千藏 鳥取
小濱 氏清 鹿兒島

大西 清忠 奈良
小俣 信親 東京
×横手 武熊 鹿兒島
高久 彭 福岡
竹井 增一 岡山

三月(二十名)

石田 稜威雄 群馬
飯塚 喜一 東京
馬場 政二 福岡
太田 久隆 群馬
梶島 年安 福岡

×高橋 亮吉 東京
永井 福三郎 岡山
中田 賢吉 長野
×中目 協 宮城
碓井 秋雄 静岡
×野口 乾 福岡

國井 林 栃木
久保 慶男 長野
後藤 豪 岡山
小島 信司 新潟
赤星 家雄 大分
佐藤 正夫 大分

北島 正長 崎

×白石 平七 福岡
袋 佐賀

三月(二十七名)

×井垣 喜作 兵庫
伴 善居 福井
濱邊 清藏 鹿兒島
本間 豊 茨城
大村 三樹之助 兵庫
岡屋 慶光 山口

(舊姓原田)
渡邊 直人 東京
×川原 七郎 鹿兒島
川原 太郎 愛知
横井 太郎 高知
谷田 顯作 福岡
寶田 富三 大阪
中江 富三 大阪

野本市次郎 愛知
黒田 徳次郎 北海道
工藤 辰雄 静岡
×矢部 武三 新潟
山口 虎雄 佐賀
山口 保三郎 茨城
×古谷 代吉 福岡

岸川 由太郎 佐賀
溝口 浩司 群馬
×三浦 政美 山形
新湯 二郎 宮城
廣瀬 恒美 高知
日高 久彌 宮崎
鈴木 操 福岡

大正十一年第二十五回卒業

三月(二十二名)

花本哲之助 愛知
長谷川金衛 新潟
奥田憲太郎 鳥取
奥津三郎 神奈川
渡邊東雄 宮城
加藤利夫 大分

甲藤健夫 高知
X吉澤晴一 埼玉
武井政雄 北海道
綱井櫻井 千葉
堤正夫 静岡
永田徳太郎 兵庫
松島平次郎 三重

小林世紀 新潟
近藤鋼一 愛知
近藤道之助 東京
海老原忍 千葉
安達新 茨城
里内晋 東京
清瀧千代夫 和歌山

木村宗太郎 福井
X(舊姓金子) 關根武吉 埼玉
四月(一名) 池邊謙三 熊本

三月(十七名)

長谷川正一 愛知
X(舊姓松浦) 堀野信雄 東京
星野豊 千葉
外岡元雄 岩手

X(舊姓横山) 柿元一等 滋賀
高本秀一 廣島
比村秀一 京都
中村國一 東京
村瀬二郎 東京

松岡嘉三郎 熊本
松本利一 大阪
酒井森三郎 栃木
眞後外見 新潟
檜山鐵造 茨城

X菅原三朗 秋田
杉孝政 兵庫
鈴木徳三 宮城
後藤林英 新潟

三月(二十五名)

石原政男 福岡
春木初夫 三重
西川定一 栃木
仁平宣威 茨城
本田三郎 茨城
利行正雄 東京
大石宰平 静岡

大庭重行 福岡
X(舊姓吉澤) 岡田仁弘 徳島
城山正三 富山
田中道知 静岡
立石巖 熊本
村井政雄 東京
村岡壽朗 東京
久保要 香川

安原良男 山形
X間中武男 茨城
收正爾 栃木
荒木寛 新潟
朝日向昇 茨城
X坂田義澄 熊本
X(舊姓岡部) 櫻井泰藏 神奈川
御園生武雄 山口

水野金市 秋田
鈴木喜三郎 茨城
六月(四名) 服部繁次 福井
眞田健三 山形
木原佳郎 鹿兒島
X(舊姓道澤) 新谷史郎 奈良
七月(一名) 武田實造 鳥取

大正十五年第二十八回卒業

三月(十九名)

稻葉和夫 栃木
今西協一郎 宮崎
西久治 福岡
土井久治 兵庫
岡村正久 熊本
吉澤源造 埼玉

岡部久秋 秋田
長岡正幸 東京
永島義弘 栃木
長島武治 神奈川
栗野有常 愛知
X(舊姓近藤) 熊澤武晴 奈良
三浦滋雄 東京

白鳥健壽 宮城
志道吉次 山口
X(舊姓兼田) 下田清 神奈川
X平岡實 神奈川
X菅原與吉 新潟
杉山延里 石川
七月(一名)

X横川國彦 埼玉
九月(一名) 伊藤威雄 兵庫
十月(一名) 柳田四郎 鹿兒島

三月(二十四名)

稻津榮治 福岡
服部元忠 東京
小淵元吉 群馬
尾崎順三郎 山形
及川英雄 東京
和田長三 岐阜
川崎洛三 廣島

金井元 栃木
X吉川長之進 大阪
武久伊作 佐賀
永井寛次 東京
長東三四士 和歌山
南部辰真 東京
保田義夫 宮城
小林繁 神奈川

小屋勝之 兵庫
寺井正雄 奈良
安部丈夫 福岡
X(舊姓安藤) 坂田喜平 埼玉
坂田忠二 山口
北原隆貫 東京
北岡康雄 高知
三浦永治郎 岩手

島本正美 高知
五月(一名) 小林宗一 山口
九月(一名) 多々良孝一 静岡
十月(一名) 苜米 千葉
十二月(一名) 上村忠彦 鳥取

三月(二十六名)

伊原治 千葉
岩田勳 愛知

伊藤順男 埼玉
池田勝榮 鹿兒島
池田二郎 千葉

長谷川勝藏 山口
X大塚辰雄 東京
X(舊姓山口) 川邊三郎 山口

吉田八郎 群馬
X吉本己之助 鳥取
竹中善次 富山

昭和三年第三十回卒業

昭和二年第二十九回卒業

竹内 進 福岡
津崎 勝巳 福岡
中神 信次 滋賀
内村 忠夫 熊本
草間 秀俊 東京

昭和四年第三十一回卒業

保田 武夫 岡山
古川 三男 佐賀
藤井 貞次 山口
藤枝 貞夫 愛媛
駒井 青南 福岡

六月(三名)
長谷川 喜一 京都
米澤 六藏 東京
高橋 廣榮 愛媛

三月(十八名)

市村 要 山口
井上 彌太郎 兵庫
新原 宗路 鹿兒島
小川 義一 山梨
神崎 隆 佐賀

昭和五年第三十二回卒業

高桑 勝次 東京
中島 瀧藏 佐賀
上野 卓三 廣島
鶴澤 久則 静岡
○山崎 竹治 岡山
山下 行雄 兵庫

四月(一名)
宮本 武德 愛知
成澤 不二男 山形

三月(二十九名)

伊藤 喜代作 長崎
井山 頼雄 熊本
原田 勝美 静岡
時田 正作 埼玉
富岡 三郎 群馬
富澤 武雄 福島
川上 三千雄 茨城
吉川 淳 長野

高橋 廣太 長崎
高山 重嶺 東京
種市 良正 青森
竹田 繁夫 奈良
鶴田 三郎 神奈川
堤 源一 福岡
○上田 正喜 東京
松尾 博 埼玉
小出 勳 東京

森田 未歳 東京
瀬戸 武 熊本
角南 貞雄 岡山
十月(一名)
×折原 丈男 神奈川

三月(三十一名)

伊澤 義一郎 栃木
石黒 庚戌 茨城
○豊田 正謙 秋田
戸村 忠臣 宮城
富田 正 愛知
李 秉 網走
大衛 信二 岩手

昭和六年第三十三回卒業

渡邊 享 山口
金子 陸雄 神奈川
○横尾 保 佐賀
吉村 勇 宮崎
武田 文坪 東京
丹下 稔 愛媛
辻野 勇太郎 東京
×辻 尚 佐賀

永井 敏 茨城
永野 和雄 東京
上田 哲夫 富山
黒須 時夫 東京
山田 純三郎 熊本
福田 政信 香川
寺島 熊男 福岡
栗野 幸吉 山形

三月(三十四名)

市島 信郷 東京
半谷 武八 福島
○新美 廣秋 愛知
西山 惣平 埼玉
○(舊姓蓬萊) 中根 孝夫 兵庫
德島 喜知之 東京
富永 弘 茨城
長 豊次 新潟

昭和七年第三十四回卒業

小川 良藏 東京
加藤 坦 神奈川
加藤 重遠 三重
加藤 祐三 埼玉
金子 尚 群馬
龜本 太郎 廣島
吉富 和吉 東京
田中 敏夫 東京
土屋 小一 静岡

成富 信男 佐賀
長瀬 三郎 愛知
村田 傳 鹿兒島
裏辻 公博 東京
山口 九州男 佐賀
牧 重昂 愛知
小林 正 熊本
幸田 洋三 静岡
新井 準 千葉

三月(二十五名)

家久 博 愛媛

昭和八年第三十五回卒業

堀内 直一 福岡
○戸田 勉 石川

川田 四郎 富山
金近 英男 廣島

安西 敏雄 東京
佐藤 橋兵衛 兵庫
○(舊姓三木) 菊池 五郎 栃木
小寺 俊介 兵庫
白山 凡 和歌山
本村 嘉雄 宮崎
菅野 進 京都
鈴木 薫 徳島

有井 重治 山口
酒井 昇 岐阜
北島 卯 福岡
木村 喜次郎 愛知
森 巳太郎 福岡
關谷 治郎 神奈川
仙波 林三 栃木
菅谷 久 東京

宇野道夫 福岡
柳橋進 千葉
山城利數 兵庫
藪内茂 神奈川
松本楠義 山口

○增田正一 靜岡
藤本毅 山口
藤崎堤 宮崎
兒玉實 鹿兒島
小寺確郎 兵庫

安達三郎 東京
安藤清岐 東京
西郷正男 福岡
崎山守久 愛媛
水谷碧群 馬

宮本秀明 徳島
森田正一 東京
守屋武 東京

三月(三十一名)

今井一二 兵庫
今村豊福 岡
林包雄 東京
伴三綱 静岡
川上一郎 東京
川田三郎 栃木
金村秀雄 香川

吉原喜久一 滋賀
吉津綱人 熊本
吉本清秀 愛媛
筑紫次郎 静岡
根本嘉博 福島
内山晋 千葉
上田大吉 大分
國澤芳郎 山口

山田了 大阪
山口芳男 東京
前埜松司 神奈川
松浦朝之 徳島
近藤金之助 岡山
肥塚康一 兵庫
坂尾太熊 福岡
菊地弘福 鳥

○柴原多聞 三重
○鹽谷政徳 新潟
○清水房雄 福井
日高久 東京
末山福治 福岡

昭和九年第三十六回卒業

(11) 製造科

明治三十一年第一回卒業

四月(三十四名)
×今井次郎 神奈川
(舊姓沖) 長谷川作次 石川
×濱元良太郎 富山
(舊姓廣瀬) 宮常八 香川
×西保八 熊本
×堀江銀次郎 東京
×本郷益雄 東京
小野辰次郎 東京

×大津吉之介 茨城
岡本賢一 大分
×吉川尙方 東京
×吉田三俊 大阪
高松勝重 三重
(舊姓關根) 中西清雄 茨城
×田所清三 三重
×中島庸三 長野
(舊姓和太郎) 大和和七 東京

大和地由太郎 千葉
山本廣三 大分
(舊姓佐藤) 牧野左馬三 大分
前田庄五郎 兵庫
×藤村守一 高知
×松生猪三男 福岡
×古賀駿輔 佐賀
駒澤幸一 石川
北川克郎 高知

水原方吉 佐賀
宮木周市 山口
×三島拙郎 鳥根
白石順三 鹿兒島
篠崎順三 千葉
平井友安 千葉
(舊姓廣瀬) 守田貞三 大分
關原東太 千葉

四月(二十二名)

井關正行 和歌山
市橋丁九 東京
西堀良造 北海道
富堅恒千 千葉
(舊姓誠一) 小川清一 佐賀

大木盛三郎 東京
×辻好司郎 石川
×中村平八 徳島
(舊姓小倉) 久南恒介 山口
×黒岡安定 東京
×府波健藏 石川

府中喜八郎 石川
小石季一 秋田
×小岩井治世 青森
×藍野一男 千葉
佐々木繁太郎 香川
×北野宇佐吉 徳島

×肝付兼昌 鹿兒島
×光増健三郎 佐賀
×宮島伊望 千葉
×澁谷源七 宮城
(舊姓勝蔵) 廣戸松右衛門 鳥根

明治三十二年第二回卒業

明治三十三年第三回卒業

四月(十五名)
 (舊名長作) 宮 弘人 長崎
 (舊名虎藏) 金高喜一郎 千葉
 (舊名大市) 品吉 德島
 (舊名伏五郎) 三重
 (舊名渡邊) 浦山 伍作 石川
 久保 茂助 山口
 ×久木田 勝馬 鹿兒島
 (舊名親郎) 久谷 卓男 島根
 ×阿部 轍 宮城
 ×齋藤 七郎 千葉
 ○水野 幸次郎 愛知
 ×鹽田 愛隣 千葉
 (舊名大西) ×鈴木 珍平 岩手

四月(九名)
 ×池田 熊之助 鹿兒島
 千葉 幸三郎 東京
 小野寺 利吉 宮城
 中井 國太郎 愛媛
 野元 俊一 鹿兒島
 松原 榮兵衛 兵庫
 船橋 晋吉 神奈川
 ×小見山 富市 熊本
 ×朝比奈 雪 靜岡

四月(三名)
 ×岩城 宣郎 靜岡
 ×久保田 信治 兵庫
 明治三十四年第四回卒業
 明治三十五年第五回卒業
 明治三十六年第六回卒業

七月(十三名)
 ×石原 重良 山形
 ×岩本 正孝 長野
 渡邊 安忠 大分
 ×吉川 秀之 石川
 (舊名野田) 田島 百人 熊本
 宗 熊大分
 內村 可一 德島
 ×松尾 靈彦 愛知
 淺井 謙吉 東京
 ×酒井 惣次郎 三重
 (舊名與吉) 菊池 健 岩手
 ×宮内 友吉 鹿兒島
 志村 彦藏 山形

七月(八名)
 (舊名嘉吉) 堀田 熊次郎 岩手
 ×河村 尊雄 京都
 (舊名熊山) 鍋島 應道 高知
 ×倉田 秀雄 熊本
 ○安藤 俊吉 兵庫
 ×白石 庸次郎 新潟
 森 萬次郎 東京
 勢島 莊太郎 福岡
 明治三十七年第七回卒業

明治三十八年第八回卒業
 七月(十七名)
 (舊名二郎) 伊東 啓之 茨城
 林 碌郎 大阪
 ×馬場 清止 宮城
 ×河西 延次郎 香川
 (舊名熊雄) 武季 作 東京
 (舊名屋啓之助) 長屋 啓之助 廣島
 ×宇加治 文雄 茨城
 ×國島 徹 北海道
 安永 宗治 福岡
 牧野 健次郎 靜岡
 松坂 省輔 山口
 ×益滿 行綱 東京
 江島 悅次郎 福岡
 栗屋 協二 愛知
 木村 金太郎 東京
 鈴木 幸太郎 靜岡
 杉山 恒吉 德島
 (舊名仁三郎) 赤坂 和一 北海道
 ×喜代美 榮一郎 長崎
 篠原 陸造 島根
 ×柴田 匡一 岐阜
 島崎 眞哉 高知
 ×杉村 泰治 宮城

七月(十八名)
 ×池内 清 愛知
 岩井 龜治 高知
 ○高崎 達之助 大阪
 立川 卓逸 新潟
 仲野 九郎 兵庫
 中山 克巳 高知
 ×中村 平 福岡
 ×名村 竹雄 福岡
 宗像 浩次郎 廣島
 内田 耕 東京
 上田 壯一 山口
 大槻 清三 東京
 ×山内 豊彦 茨城
 福島 政吉 東京
 間世田 名臣 鹿兒島
 穂谷 六三 埼玉
 佐々田 榮重 島根
 ×里深 清一 兵庫
 ×三森 富雄 東京
 角田 鶴雄 埼玉

七月(十五名)
 (舊名阪元) 市川 清 東京
 ×林 隆 東京
 ×吉野 孝長 野
 永峰 治光 北海道
 梅宮 鶴藏 福島
 野口 莊次 埼玉
 ×岡本 剛三 東京
 山中 巖 廣島
 西方 佛次郎 神奈川
 富山 正巳 千葉
 富田 達道 高知
 大島 慎二 東京
 岡田 勝夫 東京
 明治四十一年第十回卒業
 明治四十二年第十一回卒業

○田口寧一郎 茨城
 (舊名安太郎) 中島健吉 愛知
 (舊姓大竹) 梅浦健吉 東京
 ×久志木欣之助 三重
 ×權淵覺太郎 群馬

×山極七郎 長野
 松下 高福岡
 ×前田隆一 兵庫
 眞田吉之助 石川
 藤田要太郎 愛媛

七月(二十一)名
 一ノ瀬福巳 福岡
 ○小倉善平 栃木
 若林忠雄 茨城
 ×田中良平 埼玉
 谷口直太郎 兵庫

高瀬重之 栃木
 田代實範 福岡
 武晴宣 群馬
 ×永井良 神奈川
 ×中岡盛隆 岡山
 山路政一 廣島

七月(十五)名
 ×岩佐定一 長崎
 西村和雄 東京
 ×高宮正 山形
 ×内藤俊一 山口
 ×中野常徳 北海道

○飯澤 發宮城
 (舊姓武藤) 中山留八 福島
 太山貞太郎 東京
 (舊姓水谷川) 九條良叙 東京
 ○矢野實 富山
 山本祥吉 廣島

小島米吉 茨城
 ×赤嶺慎一 沖繩
 新井虎之助 東京
 相澤毅 長野
 ×神隄三 東京

増田久家 愛媛
 ×福井守一 東京
 ×小林丈太郎 岡山
 (舊姓坪田) 小山甲三 茨城
 有賀篠夫 長野
 ×北島格一 佐賀

前澤織衛 長野
 (舊姓竹内) 淵崎顯三 神奈川
 有坂利一 群馬
 青田春藏 福岡
 鈴木儀八 岩手

北川政次郎 神奈川
 木村松太郎 群馬
 三木源吉 兵庫
 菅原元一郎 岩手

森谷茂 鹿兒島
 鈴木厚三郎 兵庫

七月(十二)名
 池田良作 山形
 ○伴誠一 東京
 大橋哲郎 静岡
 大内義男 福島
 ×川端豊松 兵庫

十一月(八)名
 ×關根 豊埼玉
 ×大川 實静岡
 長光 悟福岡
 ×三井 澄東京
 (舊姓岩澤) 實川計徳 千葉

七月(二十四)名
 市島徹太郎 新潟
 飯岡忠重 栃木
 本田鹿人 熊本
 ×鳥居強次 東京
 萩原茂 長野
 大觀房吉 京都

江副元三 佐賀
 齊藤登樓 香川
 ×佐藤善右衛門 岩手
 深山義雄 千葉

山本泉 東京
 松生義勝 大阪
 ×藤本尙一 石川
 近藤辰雄 新潟
 (舊姓久保田) 後藤覺壽 茨城
 寺門弘隆 茨城
 ×源義一 廣島

十二月(五)名
 ×伊藤孝夫 新潟
 ×外山源吾 新潟
 ×横尾藤作 群馬
 荻野濱一 兵庫
 佐田作郎 宮崎

×清水一司 東京
 平林愛民 長野
 森田巽 佐賀
 ×鈴木武 栃木

森 兵庫
 (舊姓名仙石茂之) 森六郎 徳島
 鈴木直辰 東京
 ×諏訪賢治 和歌山

大正二年第十六回卒業

明治四十五年、大正元年第十五回卒業

明治四十三年第十三回卒業

明治四十二年第十二回卒業

明治四十四年第十四回卒業

大正三年第十七回卒業

七月(十四名)

伊藤 眞三 新潟
池尻 文郎 福岡
○(舊姓西島) 星野直太郎 大阪

渡邊 富藏 茨城
吉田 實千 千葉
吉村 善一 兵庫
中村 鐵太 東京

七月(十二名)

岩松 三郎 東京
久入 秋治 鹿兒島
富田 四郎 東京
吉永 一隆 熊本
○田山 來介 埼玉

津幡 文八郎 青森
○(舊姓村田) 宇田 繁山 山口
熊澤 楠吉 高知
佐藤 秀雄 福島
菊山 武雄 愛媛
○弓削 讓 茨城

七月(九名)

×岩淵 修平 宮城
秦 義輔 福井
太田 正一 石川
内田 一郎 埼玉

松島 敏之 神奈川
×福田 作次郎 香川
宣保 友厚 沖繩
志村 良英 東京
×澁谷 亮 東京

三月(十四名)

大正六年第二十回卒業
生田 廉山 山口

大正四年第十八回卒業

十月(六名)

内海 直國 愛媛
×小野 信之 神奈川
前田 石之助 京都
小和田 金吉 新潟

荒川 隼 東京
×北野 漸 長崎
×三ツ澤 福定 群馬

九月(二名)

鈴木 鉦三 愛知
中島 吉十郎 佐賀

水口 元 石川
清水 淳三 神奈川

十月(五名)

×寺西 爲信 大阪
原 三太 佐賀
○吉澤 久藏 北海道

田邊 五郎 山梨
山田 永雄 大分
平塚 顯輔 宮城

六月(一名)

赤松 勳 愛媛
×佐野 貞三 岡山
×杉山 泰 岡山
○吉澤 久藏 北海道

○加藤 清一郎 富山

三月(二十名)

×井出 孝吉 東京
濱本 清志 鳥取
○新妻 善七 宮城
富岡 謙吉 兵庫
梶原 頼久 兵庫

河内 吾郎 山口
兼本 盛光 沖繩
田村 光三 大阪
成田 穰 千葉
中島 計次 群馬
村井 英雄 福岡

三月(十五名)

石川 成人 宮城
原 武雄 廣島
西 磐山 形
富崎 善吾 佐賀

大久保 嘉壽彦 香川
吉川 市次 佐賀
×(舊姓中谷) 畑中 正雄 大分
○畑中 正雄 大分
村井 午之助 千葉

三月(十三名)

×稻葉 茂祐 熊本

西塔 朝祐 兵庫
堀越 一三 茨城

三月(十三名)

大正九年第二十三回卒業

宇都見 修藏 茨城
×楠 鋼四郎 愛知
淺野 一哉 千葉
眞田 幸次 石川
○島田 浦 大分

○(舊姓栗原) 德田 傳四郎 三塔
○川口 武男 重玉

三月(二十名)

大正七年第二十一回卒業

本村 惟 鹿兒島
三輪 儀三郎 大阪
○(舊姓三木) 岡尾 觀藏 兵庫

森川 庄次郎 大阪
四月(一名) 古川 武毅 千葉

川本 鶴雄 廣島
高橋 重治 廣島

三月(十七名)
馬場 孟夫 長野
○原口 安雄 東京
○原口 政雄 東京
橋爪友四郎 三重
○間庭 秀文 東京

三月(二十三名)
○岩本 正一 宮城
井波 義雄 東京
原孝 吉徳 東京
原(舊姓木村) 金藏 埼玉
○早川 眞二 宮城
堀田 文雄 熊本

三月(二十六名)
稻生 正直 愛知
井上 耐 神奈川
今堀 孝人 北海道

小泉 喜代治 静岡
有賀 松夫 長野
安藤 信衛 東京
坂田 信太郎 東京

金子 安治 埼玉
村上 芳雄 静岡
○山本 元次郎 廣島
松崎 秀雄 神奈川
福岡 國男 福岡

池邊 康彌 東京
石塚 森男 神奈川
古賀 保一 佐賀
増田 泰一 福岡
益田 泰一 福岡
松澤 定五郎 千葉
前波 季子 熊本
○山下 利得 東京
○矢住 清亮 熊本
松田 悦郎 長野
増田 悦郎 長野

相良 谷次郎 大阪
佐野 昇次郎 東京
水野 忠一 神奈川
平松 角治 長崎

○篠窪 寺崎 福井
篠窪 重弘 福井
青木 林藏 愛知
○砂原 作治 富山

齊藤 孝治 千葉
宮良 當宴 神奈川
日高 照宮 神奈川
廿日出要之進 廣島
西山 廉 東京

三月(三十二名)
○伊藤 敏三 山口
林(舊姓粟林) 丈夫 兵庫
橋爪 英士 福岡
鳥居 正明 東京
大(舊姓小川) 要 茨城
片野 悦也 東京
岡田 郁之助 神奈川
小谷 和夫 兵庫

大正十三年第二十七回卒業
小澤 俊雄 神奈川
數野 傳次郎 香川
○神岡 政也 鹿兒島
○田中 泉太郎 長野
○田村 辨一 山口
宗田 將雄 福岡
中村 正記 宮城
山田 貞二郎 新潟
丸地 廣男 愛知

大正十五年第二十八回卒業
岡屋 忠治 山口
寛 梁 東京
吉本 滿藏 山口
高橋 義一 埼玉
竹内 一郎 東京

三月(二十四名)
飯塚 正雄 栃木
羽部 修 茨城
原田 清 千葉
大島 秀長 東京

松田 悦郎 長野
増田 悦郎 長野
秋野 光次 山形
酒井 達雄 茨城
宮崎 文四 廣島

正木 太四郎 千葉
○藤本 茂 京都
藤田 周吉 京都
小林 茂雄 静岡
江良 至徳 熊本
○遠藤 正英 東京
安藤 正一 香川
淺野 昇一 徳島
朝倉 要三 神奈川

瀧澤 巖 新潟
○瀧澤 米作 富山
永田 德松 東京
中村 武 東京
内山 超一 東京
山内 超一 東京

曲淵 市太郎 東京
眞瀬 恒 栃木
雨宮 榮藏 山梨
齋藤 惠三 静岡
○猿谷 九万 長野

山口 明則 長崎
篠原 正規 石川
毛利 重之 東京
杉田 豊藏 静岡

秋月 實雄 岡山
三原 丑弘 長崎
宮坂 俊雄 愛媛
清水 裕二 滋賀
杉原 裕二 滋賀

1015

澤田 正順 廣島

目黒 徳太郎 新潟

鈴木 博 千葉

五月(一名) 中川 金兵衛 宮城

三月(二十五名)

伊藤 育三 静岡
五十嵐 源治 福島
豊田 忠雄 廣島
富永 静彦 長崎
大塚 徳太郎 佐賀
奥田 直首 埼玉
渡邊 正雄 熊本

○能條 京司 神奈川
荒井 虎之助 東京
甘利 久吉 徳島
朝倉 清見 長野
澤登 謹次 東京
北川 令三 福井
三宅 二郎 北海道
篠崎 仁包 東京

下井 誠 山口
平井 吉明 神奈川
四月(二名) 東原 正雄 香川
茂貫 雅義 宮城

三月(二十名)

飯野 増太郎 福岡
岩澤 平治 新潟
濱野 寛 茨城
大岩 東助 愛知
大石 義秋 香川

大沼 豊吉 宮城
大關 昇 茨城
葛西 巖 香川
多賀 宗將 東京
○高草 木雅雄 群馬
田中 房之助 京都

那須 潔 滋賀
松本 良香 長崎
寺門 彬 東京
吉坂 象二郎 兵庫
佐藤 七郎 福島
木村 敬三郎 愛媛

坂田 貞一 大阪
久松 義男 兵庫
清野 文二 宮城
四月(二名) 橋詰 友太郎 埼玉
×平置 三郎 愛媛

三月(十七名)

伊古田 憲造 東京

大木 壯 山口
加藤 康治 新潟

○加藤 舜郎 廣島
田島 喜市 新潟

中村 龍福 井
宇賀 明香 川

三月(二十八名)

池田 幸作 東京
石井 義臣 廣島
馬場 良助 東京
得田 助雄 石川
土信田 章三郎 東京
大塚 四郎 茨城
和田 英夫 岡山

昭和五年第三十二回卒業

米田 繁三 廣島
高木 達雄 東京
田治 米隆 兵庫
長田 菅男 長野
名嘉元 岩太郎 東京
鶴澤 利彦 東京
黒田 桥雄 兵庫
山本 三郎 兵庫

舟木 好右衛門 福島
今野 信忠 福島
在田 盛一 東京
齋藤 一雄 青森
齋藤 米次郎 東京
○齋藤 治郎 左衛門 静岡
佐藤 兼一郎 廣島
佐々木 藤 廣島

×木村 千代男 廣島
木俣 正夫 長野
水谷 邦夫 岐阜
三浦 新 東京
杉浦 義雄 東京

三月(二十九日)

×犬塚 信夫 東京
大丸 芳 廣島
今西 俊雄 奈良
春元 一能 大阪
濱田 善郎 大阪
濱田 重行 廣島
二ノ宮 金治郎 埼玉

昭和六年第三十三回卒業

徳田 三郎 石川
加藤 武夫 東京
金子 量作 新潟
谷口 宗儀 宮崎
高橋 福治 山形
高野 正三郎 埼玉
團部 新一郎 東京
中村 敏郎 岩手

中村 新七 山形
上村 秀雄 香川
内田 一郎 東京
郡司 重彦 山口
山村 彌六郎 福島
松枝 萬吉 佐賀
小林 利章 群馬
小嶋 哲郎 石川

秋陣 慶次 東京
坂部 義夫 愛知
白石 友義 山口
遠藤 敏夫 東京
關口 得郎 埼玉
○末永 保藏 宮城

三月(二十五名)

新村大三郎 長野
外村達三 滋賀
大橋一郎 東京
大須賀四郎 福島
小河弘 大阪
渡邊昇 大分

昭和七年第三十四回卒業

加藤勇吉 愛媛
○川本照雄 東京
田所豊太郎 高知
永井隆三 廣島
長尾浩一 京都
永田憲一郎 岡山
野口榮三郎 埼玉

一三八

進藤正雄 廣島
廣野幸雄 東京
關根宗三 埼玉
鈴木榮一 埼玉
鈴木千藏 東京

三月(二十二名)

稻葉鋼太 東京
○井上啓次郎 三重
華島親敬 東京
丹羽修二 岐阜
西山榮一 東京
大蝶武夫 岡山

昭和八年第三十五回卒業

大久保薫 東京
川上太左英 新潟
竹林靖 茨城
袖岡五郎 岡山
永山洋平 茨城
野口洲六 茨城
國村雅二 兵庫

五月(一名)

望田慶次郎 福岡
菅原貞一 東京
小坂部勇 山形

三月(二十九名)

今仁高雄 大分
石田俊夫 福岡
塙四郎 千葉
○二戸一磨 東京
本間正三郎 新潟
太田要 長野
梶山亥之助 山口

昭和九年第三十六回卒業

金子伊喜雄 新潟
田端信二 埼玉
田原功 京都
田淵進 佐賀
高橋八十一 香川
根岸吉郎 兵庫
永井逸平 岐阜
宇野壽一 岐阜

山元清 山口
松川行雄 東京
松本正治 愛知
松本庄七郎 福岡
寺柳吉次 福岡
青柳吉次 福岡
荒野慶之 福岡
天野慶之 東京

榑茂一 千葉
○北川彦造 滋賀
宮崎武夫 新潟
森井瓊夫 大阪
×杉浦喜兵衛 東京

(二) 養殖科

四月(九名)

(舊姓冬木)
×磯崎徳次郎 千葉

明治三十一年第一回卒業

(舊姓楠部)
西島新藏 山口
大石芳三 佐賀

×吉川諱 埼玉
高橋重太郎 岩手
長島幸吉 千葉

藤田政勝 兵庫
×淺井長三郎 福島
坂井安三郎 佐賀

四月(五名)

×○川端重五郎 三重

明治三十二年第二回卒業

×壁谷可也 東京
内山龜五郎 福井

山本開作 神奈川
須田劬 東京

四月(八名)

×伊藤俊治 千葉
○今野虎吉 福島

明治三十三年第三回卒業

×○石田五一郎 山口
(舊名茂十郎) 緒方惟孝 大分
×小野佐久雄 東京

秋山永次 東京
×櫻田廣吉 秋田
×肥後了一 鹿兒島

明治三十四年第四回卒業

(舊姓伊達) 片倉健吉 東京

×長島八郎 神奈川

須田義二郎 山形

四月(三名)

明治三十五年第五回卒業

四月(三名)

明治三十六年第六回卒業

○戸井田盛藏 新潟

×内田佐太夫 千葉

×前川鯉龜次郎 東京

七月(四名)

河合 嚴愛知 山下平造 兵庫

明治三十七年第七回卒業

七月(二名)

○丸川 久俊 鳥根

明治三十八年第八回卒業

七月(三名)

西山 伊六 佐賀

明治三十九年第九回卒業

七月(二名)

萩原 實治 兵庫

明治四十年第十回卒業

七月(二名)

谷口 利三郎 廣島

明治四十一年第十一回卒業

七月(七名)

河合 眉九 愛知

八幡 光造 山形

七月(七名)

武田 直宮 城

○倉上 政幹 埼玉

○越田 德次郎 石川

椎原 廣男 鹿兒島

東 道太郎 東京

鐘ヶ江 東作 佐賀

九月(一名) 西村 茂生 山口

○柳本 斗夫 徳島

藤城 存知 廣島

藤森 三郎 長野

青木 赴雄 滋賀

平木 治 福岡

阿部 圭 福岡

須賀原 善太郎 群馬

○日崎 守義 埼玉

菅俣 吉之助 東京

七月(五名)

山田 政滿 福岡

×早坂 良次 山形

小林 雄次 廣島

七月(十一名)

神谷 尙志 東京

井田 助作 新潟

田中 林三 大阪

河村 加四郎 廣島

塚越 靜吉 群馬

七月(十七名)

×高橋 宗作 山形

×○川村 久治郎 福岡

×中山 勝 熊本

笠村 確 栃木

×中澤 貞雄 長野

吉田 潔 福岡

×○村 松 那 愛知

田中 修次郎 東京

鬼塚 正治 鹿兒島

七月(十名)

田中 正男 東京

片岡 虎之助 山形

中村 正明 埼玉

川尻 稔三 三重

中島 顯一 大阪

×○米田 保 福岡

中井 信隆 和歌山

大正三年第十七回卒業

大正二年第十六回卒業

三宅 仙吉 東京

三木 保次郎 兵庫

○中野 宗治 長崎

○松野 助吉 東京

小林 尙次 静岡

牧野 謙二 静岡

前田 九平 兵庫

×小林 彦四郎 栃木

小金丸 汎愛 福岡

阿曾 文雄 千葉

松崎 冬次 東京

荒野 謙三 東京

×住道 潔水 福岡

鳥村 滿彦 高知

○下郷 誠一 愛知

鈴木 拙郎 三重

姉帯 定助 岩手

北村 強彦 熊本

×○春藤 一市 岡山

十月(一名) 岡田 彌一郎 東京

七月(十三名)

石井宗吉 東京
富永次男 長崎
渡部龜一 愛媛

吉田直道 長野
田口長次郎 長崎
能勢忠雄 愛知
大月菊男 茨城

松井佳一 山口
牧義男 熊本
天野京一 愛知
平井佐吉郎 東京

七月(十三名)

岩井準平 東京
内田泰二 福井
高島胤雄 三重
X中村巖 廣島

太田知度 岡山
長田正男 長野
小池正保 東京
幸田伴次郎 福井
佐藤玄三郎 岡山

坂本實市 京都
和氣友之助 香川
X三木信幸 德島
日比谷爲造 神奈川

十二月(一名)

澤田 進 東京

七月(七名)

石森武男 宮城

本間幸次郎 北海道
笠井繁治 山梨

藤本政男 兵庫
越田秀包 石川

江熊哲翁 大分
澁谷光時 山形

三月(十一名)

蟻川虎三 東京
堀重藏 和歌山

沼田礎助 大分
鷹司信敬 東京
丹治經治 福島

松本友雄 愛媛
X福島慶造 宮城
小西芳太郎 東京

X越石俊雄 新潟
今野壽三郎 山形
X青山鉦吉 東京

三月(五名)

原信福 岡

吉武實 山口
小園龍次 佐賀

X宮崎敏正 熊本
X鈴木秀策 静岡

大正八年第二十二回卒業

三月(十名)

濱名龜助 福島
西岡丑三 佐賀

大島信夫 東京
落合清 群馬
加藤喜八郎 石川

建部豪 兵庫
青木三雄 神奈川
明石博次 京都

秋谷庸 千葉
齋藤光雄 千葉

三月(八名)

巖谷那珂彦 福岡
永井正 東京

永坂勝次 東京
浦津肇太郎 熊本
上野惇五 東京

小林忠次 栃木
江島靜男 静岡
海老名謙一 千葉

四月(一名)

牧健三 福岡

三月(十一名)

五十嵐俊藏 山形
石川龜好 栃木

X川村正雅 東京
梶田與之亮 東京
X高島啓次 富山

X田中友三 東京
山田一男 群馬
八尋武良次 福岡

森本敬義 東京
陳謀琅 支那
陳椿壽 支那

三月(十一名)

井上良治 徳島
O川名武 千葉

高槻俊一 廣島
X山田豊 福岡
向山豊之進 山梨

野田文綱 熊本
熊田朝男 栃木
X福田亮三 和歌山

小見山樹 京都
酒井榎 東京
比留間崔 東京

三月(十五名)

深堀潤次 新潟
石井省一郎 静岡
原邦明 鳥取

土井久之 静岡
鳥飼敬義 千葉
小野寺元雄 宮城
O川本信之 東京

吉田裕 東京
X牛島貞夫 神奈川
X田中華太郎 神奈川
内藤新吾 千葉

山中孝太郎 京都
荒木勝二 山形
齋藤敏夫 岡山
菊池鶴松 埼玉

大正十二年第二十六回卒業

大正十一年第二十五回卒業

大正十年第二十四回卒業

大正九年第二十三回卒業

大正六年第二十回卒業

大正七年第二十一回卒業

大正四年第十八回卒業

大正五年第十九回卒業

大正十三年第二十七回卒業

三月(二十二名)

稻葉 俊 茨城
花田 信次郎 大阪
X 渡邊 清 岐阜
渡邊 茂男 山梨
河原 達雄 兵庫

川越 庸樹 福岡
田中 仁平 静岡
O 田村 松太郎 山口
X 玉利 亮一 東京
X 瀧澤 武雄 長野
永見 兼重 鳥根

村上 義成 岐阜
野口 利夫 兵庫
野澤 鑑 栃木
X 野澤 秀夫 栃木
安川 隆 東京
澤野 英四郎 京都

木下 虎一郎 和歌山
O 水野 復一郎 東京
O 三村 卓雄 茨城
O 宮崎 廣三 長野
杉浦 秋一 愛知

大正十五年第二十八回卒業

三月(十五名)

伊藤 一郎 長崎
岩橋 量 熊本
稻葉 傳三郎 大阪

O 富山 哲夫 長崎
川上 雅之 廣島
田中 小治郎 徳島
(舊姓上野) 日向 鐵五郎 山形

日下部 臺次郎 神奈川
矢板 開一 栃木
山内 謙 大分
古川 順一郎 愛媛

福田 隆道 岡山
福迫 徹郎 神奈川
國分 善一 東京
後明 喜好 新潟

昭和二年第二十九回卒業

三月(十七名)

諫早 隆夫 東京
O 畑中 主計 福井
新野 弘 東京
奥野 忠雄 大阪

川崎 吾八 佐賀
X 高須賀 頼夫 愛媛
永川 保雄 福岡
山本 宣夫 愛知
X 藤原 與助 岩手

藤田 正 廣島
小林 武 千葉
遠藤 雄吉 鳥取
相墨 春夫 新潟
天野 政之 愛知

酒井 銀次郎 東京
瀨田 廣吉 埼玉
鈴木 清藏 埼玉
十二月(一名)
(舊名千秋) 小川 博民 大分

昭和三年第三十回卒業

三月(十五名)

石島 涉 茨城
大坪 眞幸 東京
谷崎 正生 福岡

高橋 直利 岡山
高橋 清三郎 山形
立野 新光 岩手
O 中井 甚二郎 鳥根

中村 捷 群馬
内橋 潔 兵庫
倉本 三郎 東京
楠本 俊夫 和歌山

藤田 四郎 山口
小森 武雄 東京
重松 正俊 佐賀
廣瀬 篤郎 鳥根

昭和四年第三十一回卒業

三月(十五名)

稻並 芳幸 東京
林 茂樹 廣島
(舊姓矢野) 横田 瀧雄 福岡

多田 稔 京都
竹之内 彦四郎 東京
村上 二郎 兵庫
X 黒田 克彦 兵庫

久木田 寛信 鹿兒島
O 山本 孝治 東京
(舊姓阪本) 松原 喜代松 兵庫
福岡 義省 東京

兒玉 利一 兵庫
白石 義晃 愛知
清水 定雄 兵庫
鈴木 權次郎 山形

昭和五年第三十二回卒業

三月(十八名)

(舊姓倉田) 飯泉 功 茨城
五十嵐 徹夫 群馬
井澤 勝彌 山形
石井 源太郎 群馬

東條 鐵男 徳島
若山 貞三 岩手
渡邊 一 愛媛
X 和田 喜藏 高知
川上 四郎 東京

竹原 正二 静岡
村山 武 佐賀
久納 勝太郎 岐阜
X O 安成 一二 山口
松本 豊 東京

朝隈 達也 鹿兒島
齋藤 宗一 長崎
水野 六郎 東京
鹽谷 政四郎 新潟

昭和六年第三十三回卒業

三月(十八名)

石丸 惇次 岐阜
馬場 駿 山梨
細田 正美 長野
保科 利一 茨城

加藤 精一 東京
横田 繁雄 愛媛
(舊姓坪井) 山田 光治 山口
中村 秀也 京都
宇野 亨一 岐阜

O 黒沼 勝造 東京
X 草野 慎一 三重
山村 牧夫 長崎
古幡 一夫 長野
船坂 義郎 岐阜

三輪 林二郎 静岡
平山 繼男 静岡
茂木 喜一郎 群馬
鈴木 里司 長野

昭和七年第三十四回卒業

三月(十四名)

井上 義雄 埼玉
石川 伍平 秋田
春木 克巳 三重

原田 忠次 佐賀
大木 松次 埼玉
○岡 伯明 山梨
加藤 薫 愛知

高山 活夫 兵庫
野口 博 佐賀
山田 榮次 東京
山本 精二 兵庫

三浦 五郎 宮城
鹽井 幸郎 三重
平野 義見 三重

三月(十五名)

井川 正二郎 長崎
馬場 吉信 東京
友野 信次 長野

大西 正義 香川
加藤 五郎 東京
田中 一雄 長野
瀧川 悟 山口

松村 彰 高知
木村 五郎 神奈川
菊池 莊彌 福島
三井 光義 大分

三宅 昇 長野
千手 諒一 福岡
杉田 隆治 東京
鈴木 順 東京

昭和九年第三十六回卒業

三月(十七名)

池末 彌 福岡
西村 茂喜 福岡
塚口 義兵 兵庫
中川 一三 兵庫

○中川 恣 山梨
久保 伊津男 鹿兒島
桑野 英文 福岡
山田 敏 福岡
○松井 魁 山口

松下 政雄 徳島
福田 博 鳥取
榎本 信男 東京
阪本 勝一 大阪
北川 吉美 廣島

溝口 利憲 栃木
三浦 兼伯 島根
清石 禮藏 廣島

(四) 本科特別入學

明治四十一年

製造科修業(七月二名)

陳 非 支那
曹 文 瀾 支那

明治四十三年

漁撈科修業(七月一名)

王文 泰 支那

製造科修業(七月二名)

張 譯 支那
×孫 英 支那

明治四十四年

漁撈科修業(七月二名)

林 元 良 支那
李 士 襄 支那

製造科修業(七月二名)

伍 正 名 支那
胡 濬 泰 支那

大正四年

漁撈科(七月一名)

李 炫 國 朝鮮

製造科(七月一名)

李 商 鎬 朝鮮

養殖科(七月一名)

(舊名彭) 劉 伯 敏 支那

大正六年

漁撈科(三月一名)

金 泳 煥 朝鮮

大正八年

製造科(三月一名)

李 重 漢 朝鮮

大正九年

漁撈科(三月一名)

中 鴻 雨 朝鮮

大正十年

養殖科(三月二名)

特別卒業(三月二名)
陳 謀 琅 支那
陳 椿 壽 支那

大正十一年

製造科(三月一名)

張 元 第 支那

漁撈科(八月一名)

吳 毅 支那

昭和三年

製造科聽講、研(十一月二名)

ホーセ、ガルシア、マル

チネス、メキシコ

サムエル、ソリス、イ、

昭和四年

漁撈科在學(三月二名)

特別卒業(三月二名)
鄧 騰 裕 支那
張 榮 昌 支那

漁撈科修了(六月一名)

李明 哲 朝鮮

昭和五年

漁撈科(三月三名)

特別卒業(三月三名)
陳 維 風 支那
巫 忠 遠 支那

黃 文 澧 支那

漁撈科在學(三月一名)

黃 文 達 朝鮮

昭和六年

製造科(三月二名)

特別卒業(三月二名)
崔 瑞 日 全羅南道
吉 恒 鎮 平安北道

昭和七年

養殖科(三月一名)

特別卒業(三月一名)
藤原 炳 哲 東京

昭和七年

製造科(三月一名)

特別卒業(三月一名)
林 圭 元 慶尚南道

(五) 本科選科生

昭和七年

漁撈科十三學(三月二名)

安 西 功 北海道

二 遠洋漁業科

明治三十三年卒業
五月(一名) 武富榮一 佐賀
×黒田九萬男 東京
明治三十四年卒業
七月(二名) 南摩 紀磨 東京
藤田 勘太郎 島根
八月(一名) 木村廣三郎 石川
明治三十五年卒業
二月(二名) 高原剛太郎 福岡
志村 次郎 東京
七月(三名) 石野 敬之 千葉
松崎 彌市 鹿兒島
森 茂樹 鹿兒島
明治三十六年卒業
一月(一名) 高橋 彌二 岡山
十月(一名) 高橋 彌二 岡山

下田 圭一 廣島
明治三十七年卒業
五月(一名) 小金丸増太郎 福島
十一月(一名) 戸田 半平 静岡
明治三十八年卒業
一月(一名) 前田 春水 東京
三月(一名) 松尾 秀夫 長崎
十月(一名) 佐藤 正孝 山形
明治三十九年卒業
四月(一名) 田中 仁吉 島根
十一月(一名) 黒木 圓太 福岡
明治四十年卒業
十一月(二名) ×箕 多記 茨城

美代 清信 鹿兒島
明治四十一年卒業
八月(一名) ×川添 友志 鹿兒島
九月(一名) 上枝 平五郎 香川
十二月(一名) 小松 重利 高知
明治四十二年卒業
五月(二名) ×林田 甚八 長崎
國司 浩助 山口
十月(四名) 長友 寛 宮城
×柳 悦多 東京
安達 誠三 愛媛
秋山 實 千葉
明治四十四年卒業
九月(四名) 吉田 義男 長崎
福野 久松 石川

木下 信資 鳥取
×溝上 二州 兵庫
十二月(一名) ×宮脇 伊太郎 鹿兒島
大正元年卒業
八月(四名) 市川 峯吉 三重
谷本 坂惠 岡山
新井 藤一郎 茨城
箕田 静夫 鹿兒島
十月(四名) ×飯尾 公壽 福岡
與儀 喜宜 沖繩
後藤 節藏 大分
日比 義三 岐阜
十二月(一名) 岩本 清太郎 鳥取
大正二年卒業
八月(六名) 渡邊 康介 愛知
加藤 平吉 山形

大正三年卒業
三月(四名) 林 卯吉 大阪
越智 章 埼玉
小林 章之 埼玉
佐藤 敬吉 山形
五月(二名) 田中耕之助 東京
上野 省三 山形
八月(一名) 山本 静一 愛媛
十月(二名) 大塚 三平 茨城

御厨保太郎 長崎
大正四年卒業
六月(一名) 古閑 義康 熊本
十二月(五名) 飯田 與兵衛 東京
葛城 忠男 石川
國分 友海 鹿兒島
×莊 司 山形
×島田 喜一 静岡
大正五年卒業
四月(二名) 中川 甚藏 東京
三輪 源造 岡山
七月(六名) 高柳 繁太郎 群馬
塚崎 謙吉 秋田
山口 慶四郎 群馬
馬上 福壽 福島
松尾 我何人 長野
久富 元長 崎
十一月(一名) 郷井 捨吉 東京

十二月(一名) 岡本 重治 東京
大正六年卒業
一月(二名) 桐本 富次 和歌山
林 準二 東京
四月(一名) 本田 光吉 愛媛
六月(一名) 永福 虎 鹿兒島
八月(三名) 大村 道一 兵庫
大石 秀雄 静岡
山本 清内 山形
大正七年卒業
五月(一名) 中村 吉次 長野
十月(一名) 仙波 平馬 栃木
十二月(二名) ×森村 共正 石川
日下部 彦次郎 兵庫
大正八年卒業

五月(一名) 佐々木政之助 宮城
大正九年卒業
三月(二名) 關口 壽之助 東京
和田 秀政 東京
十二月(一名) 人見 秀四郎 東京
大正十年卒業
一月(一名) 家坂 孝平 新潟
八月(一名) 庵原 順一 兵庫
十一月(二名) ×池田 信也 廣島
小濱 氏清 鹿兒島
大正十一年卒業
十二月(一名) 大垣 光平 栃木
大正十二年卒業
二月(二名) 谷口 武三 岐阜
田原 精夫 東京
三月(一名)

吉田 春吉 東京
 大正十四年卒業
 四月(一名)
 新野 二郎 宮城
 十月(一名)
 里内 督 東京
 十二月(一名)
 堤 正夫 静岡
 大正十五年卒業
 五月(一名)
 眞後 外見 新潟
 昭和二年卒業
 九月(一名)
 ×間中 武男 茨城
 十二月(一名)
 眞田 健三 山形
 昭和三年卒業
 六月(一名)
 安原 良男 山形
 昭和四年卒業
 一月(一名)
 仁平 宣威 茨城
 三月(一名)
 白鳥 健壽 宮城

十二月(一名)
 熊凝 武晴 奈良
 昭和五年卒業
 八月(一名)
 木崎 喜平 東京
 十月(一名)
 小屋 勝之 兵庫
 昭和六年卒業
 一月(一名)
 山下 行雄 兵庫
 三月(一名)
 井上 彌太郎 兵庫
 五月(一名)
 原田 勝美 静岡
 九月(二名)
 井山 頼雄 熊本
 山崎 竹治 岡山
 昭和七年卒業
 二月(二名)
 川邊 三郎 山口
 小林 格 新潟
 四月(二名)
 金子 陸雄 神奈川
 菅谷 久 東京

六月(三名)
 丹下 稔 愛知
 上田 哲夫 富山
 木村 喜次郎 愛知
 九月(五名)
 伊澤 義一郎 栃木
 川上 三千雄 茨城
 吉村 勇 宮崎
 内村 忠夫 熊本
 福田 政信 香川
 昭和八年
 三月(一名)
 高桑 勝次 東京
 四月(四名)
 富永 弘 茨城
 小川 良藏 東京
 松澤 幸 長野
 小出 勳男 東京
 五月(一名)
 小林 正 熊本
 六月(五名)
 徳島 喜知之 東京
 大衛 信二 岩手

加藤 坦 神奈川
 佐藤 極 兵庫
 鈴木 薫 徳島
 昭和九年
 十月(二名)
 小寺 確郎 兵庫
 守屋 武 東京
 十一月(二名)
 横尾 保 佐賀
 關谷 治郎 神奈川

三 研 究 科

明治三十七年卒業
 漁撈科(二月一名)
 日高 靖 宮崎
 養殖科(十一月一名)
 今野 虎吉 福島
 明治三十九年卒業
 養殖科(十月一名)
 丸川 久俊 島根
 明治四十年卒業
 漁撈科(三月一名)
 吉永 貴八郎 長崎
 明治四十一年卒業
 製造科(十二月一名)
 杉村 泰治 三重
 明治四十三年卒業
 漁撈科(六月一名)
 渡邊 理一 東京
 (七月一名)
 武富 榮一 佐賀
 製造科(十二月一名)

梅浦 健吉 東京
 明治四十四年卒業
 製造科(七月一名)
 小山 甲三 茨城
 明治四十五年卒業
 製造科(三月一名)
 矢野 實 富山
 大正二年卒業
 製造科(五月一名)
 深山 義道 千葉
 (六月一名)
 内田 孝雄 東京
 (七月三名)
 谷村 重忠 岡山
 山添 兵造 兵庫
 關根 豊 埼玉
 大正三年卒業
 漁撈科(七月一名)
 熊田 頭四郎 栃木
 大正四年卒業

漁撈科(七月一名)
 (舊姓鈴木)
 村山 敏三 福島
 製造科(七月二名)
 萩原 茂 長野
 深澤 三郎 山梨
 養殖科(六月一名)
 中井 信隆 和歌山
 大正五年卒業
 漁撈科(五月二名)
 齋藤 陽三 東京
 李 炫 國朝鮮
 製造科(三月一名)
 李 商 鎬 朝鮮
 (七月一名)
 弓削 讓 茨城
 (十月一名)
 近藤 辰雄 新潟
 養殖科(十月一名)
 三木 信幸 徳島
 (十一月二名)

岡田 彌一郎 東京
 片岡 虎之助 山形
 大正六年卒業
 漁撈科(三月一名)
 徳永 外治 石川
 製造科(四月一名)
 清水 淳三 神奈川
 (九月一名)
 秦 義 輔 福井
 養殖科(四月一名)
 中島 頼一郎 大阪
 (五月一名)
 佐藤 玄三郎 東京
 (七月一名)
 松井 佳一 山口
 (九月一名)
 藤本 政男 兵庫
 大正七年卒業
 漁撈科(一月一名)
 石崎 實三郎 愛媛

製造科(二月一名)
小林 敏行 東京
養殖科(十一月一名)
鷹司 信敬 東京
大正九年卒業

漁撈科(七月一名)
服部 愛之助 大阪
大正十一年卒業
漁撈科(十二月一名)
郷 朔雄 東京

養殖科(十二月一名)
吉田 直道 長野
大正十二年卒業
漁撈科(二月一名)
福野 久松 石川

大正十四年卒業
養殖科(二月一名)
増田 與 東京

四別科 (現業科ヲ含ム)

(一)漁撈科
明治三十三年修業
山形網漁(三月五名)
業專修
戸田 圓次 高知
土井 常吉 新潟
×大橋 直吉 静岡
紙子 次作 石川
多屋 勢四郎 和歌山
明治三十九年修業
遠洋漁業專修(十月五名)
池田 隼吉 千葉
×石井 次郎 千葉
濱田 進 鹿兒島
渡邊 梅吉 千葉
津島 徳松 千葉
明治四十年修業
鯉漁業流網(九月五名)
及延繩漁業
岩崎 吉兵衛 静岡
田崎 次郎 茨城

増田 鬼一郎 静岡
有原 初三郎 静岡
見原 萬吉 静岡
延繩及流網漁業(十月四名)
津田 萬治 千葉
上原 丈助 千葉
平田 辰五郎 千葉
鈴木 萬之助 千葉
鯉漁業(十二月二名)
伊藤 猪之助 福岡
小田 積美 東京
明治四十一年修業
遠洋漁業專修(四月六名)
畑中 彦助 愛知
西川 村三郎 徳島
田中 由三郎 東京
竹内 治郎吉 三重
柳生 政藏 愛知
佐田 歌吉 東京

捕鯨專修(六月八名)
岩村 孫作 長崎
向井 三吉 和歌山
上原 由之助 静岡
倉光 三郎 青森
山岸 留之助 北海道
小坂 定治 長崎
島 可淳 神奈川
柴 恒太郎 岡山
流網及延繩漁業(十月六名)
×一色 勇 京都
川崎 徳左衛門 石川
横山 林四郎 三重
齋藤 與太郎 山形
榊 梅太郎 新潟
鈴木 三郎 千葉
明治四十二年修業
延繩及流網漁業(二月一名)
兼城 徳沖 徳島

鯖及鮪漁業(三月七名)
染田 五助 長崎
中世古 白吉 三重
山本 重松 愛知
湯淺 辰太郎 三重
平松 幸枝 三重
平賀 源之助 三重
洲加本 三五右衛門 長崎
延繩及流網漁業(四月一名)
鈴木 梅吉 千葉
延繩及流網漁業(八月一名)
×岩並 勝次郎 千葉
明治四十三年修業
延繩及流網漁業(二月一名)
石塚 甚四郎 山形
延繩及流網漁業(四月八名)
石塚 直彦 山形
中川 菊藏 三重
山下 三之助 三重

出口 數平三 重
佐藤 德松 秋田
湯淺 萬吉三 重
宮崎 長太郎 秋田
鹿内 力松 青森
(二)製 造 科
明治三十一年修業
罐詰專修(一月五名)
河野 巖 宮崎
加藤 明二 秋田
鹽井 與八 石川
廣瀬 宗義 鹿兒島
森 義直 京都
明治三十二年修業
魚油魚蠟(八月五名)
沃度專修
×田中清之助 三重
山口三之助 千葉
昆 良八 岩手
越瀬 市松 和歌山
佐藤 義厚 茨城
罐詰專修(十二月五名)
中村 里次郎 愛知
内田 藏次郎 島根

松浦 善市 熊本
松坂 豐次郎 富山
菅沼 仙之助 福島
明治三十三年修業
魚油魚蠟(二月五名)
沃度專修
畑谷 丑太郎 北海道
赤平 卯十郎 青森
佐藤 漁太郎 宮城
宮津 晋式 山口
杉本 傳太郎 静岡
罐詰專修(十二月五名)
及川 鼎壽 宮城
村田 新五郎 愛知
山田 徳松 宮崎
×梁 瀬 弘 長崎
吉川 徳吉 滋賀
明治三十四年修業
魚油魚蠟(三月三名)
沃度專修
田中 富佐 福井
松本 龜次郎 高知
木高 金之助 千葉
罐詰專修(十月二名)
大黒 誠 高知

齋藤 初治 長崎
魚油魚蠟(十二月四名)
沃度專修
池内 林太郎 高知
熊谷 伊三郎 福岡
山口 太助 佐賀
森崎 茂樹 静岡
罐詰專修(十二月五名)
村江 保翼 長崎
小松 山平 千葉
宮内 喜一 鹿兒島
鈴木 兼助 愛知
菅原 養藏 宮城
明治三十五年修業
節類專修(十月五名)
節類其他
秦 信之助 島根
(舊名榮)
米田 隆保 青森
熊谷 伊三郎 福岡
山下 荒太郎 和歌山
山下 藤三郎 鹿兒島
罐詰專修(十二月六名)
余井 藤吉 京都
米田 隆保 青森
中尾 千代之助 鹿兒島

山田 忠五郎 東京
新井 元吉 和歌山
里見 時之助 山口
明治三十六年修業
魚油魚蠟(四月四名)
沃度專修
(舊名榮)
米田 隆保 青森
前田 隆次郎 愛知
小松 山平 千葉
齋藤 玉治 愛知
節類專修(十一月三名)
節類其他
市川 忠吉 山形
山岡 則重 高知
安里 稷動 沖繩
罐詰專修(十二月六名)
井上 三太郎 三重
花見 七治 北海道
金子 房治 千葉
河合 晋治 愛知
田村 忠太夫 岩手
黃 桂 芬 支那
魚油魚蠟(十二月五名)
沃度專修
島山 吉雄 宮城

砥板 源三郎 福岡
大久保 直次郎 高知
古川 九滿次 熊本
坂口 榮太郎 静岡
明治三十七年修業
罐詰專修(十月八名)
×濱 壽 楠 和歌山
加藤 磯次 富山
八木 佐吉 滋賀
山田 達 愛知
松浦 金平 兵庫
紺谷 平治 石川
相木 嘉一 福井
森 眞 静岡
明治三十八年修業
節類其他
節類專修(十月二名)
箱石 米定 岩手
名嘉 幸徳 沖繩
罐詰專修(十二月十名)
堀内 謙藏 岩手
堀部 貫一 大分
小野 末男 福岡
大上 伊勢吉 兵庫

高橋 敬三郎 三重
田河 恒藏 熊本
×高杉 賢藏 秋田
田中 寅之助 愛知
仲田 文五郎 沖繩
森本 喜之助 和歌山
魚油魚蠟(十二月五名)
蠟專修
土岐 晋吉 千葉
高鍋 志郎 兵庫
田井 安太郎 京都
曾根 武兵衛 和歌山
松浦 萬龜太 島根
明治三十九年修業
節類其他
節類專修(十月六名)
徳平 秀那 沖繩
竹田 信平 島根
國吉 榮洪 沖繩
淺沼 文八 東京
坂下 同次郎 岩手
柴 正 式 富山
罐詰專修(十二月十名)
濱口 義正 三重
西川 正次 東京

放生 要松 富山
相馬 柳吉 秋田
梅野 忠政 愛知
岡田 太郎 鹿兒島
矢野 喜藏 新潟
松浦 久雄 三重
小松 義篤 新潟
趙 楣 支那
明治四十年修業
魚油魚蠟(一月三名)
蠟專修
芳賀 岩治郎 宮城
小坂 傳吉 岩手
小澤 謙三 千葉
冷藏法(九月一名)
村上 徳市 廣島
節類其他專修(十月三名)
岩城 宇平 宮崎
村上 倉次郎 北海道
齋藤 八郎 静岡
罐詰專修(十二月七名)
一色 彌太 京都
石川 喜助 北海道
秩父 重宏 青森

大畑 伊八 三重
野村 利兵衛 京都
山 道 隆 長崎
三浦 大造 愛知
明治四十一年修業
節類其他
節類專修(九月四名)
井合 榮俊 新潟
佐野 實 香川
三浦 操 島根
日比谷 要造 神奈川
罐詰專修(十二月七名)
伊藤 末千代 山口
今藤 一馬 宮城
岩崎 正己 島根
石原 彦三 三重
河野 徳治 神奈川
野川 重五郎 岩手
小堀 誠一 滋賀
明治四十二年修業
節類其他
節類專修(九月三名)
橋本 喜之助 青森
桂 信 吉 京都
田所 壽彦 高知

罐詰專修(十二月九名)
 今立 昌雄 福井
 馬場 一夫 滋賀
 島中 敬三 山形
 高橋 善三 宮城
 栗本 冬助 北海道
 山本 金吉 三重
 佐脇 哲郎 三重
 吉川 廣助 熊本
 三橋 淳 鳥取
 明治四十三年修業
 貝殼彫刻專修(七月四名)
 ×伊笠 小六 東京
 津田 德 高知
 遊佐 孫藏 宮城
 森本 繁尾 高知
 罐詰專修(十二月十二名)
 池山 盛一 三重
 芳賀 岩次郎 宮城
 岡崎 常松 愛媛
 渡邊 照吉 北海道
 加藤 福松 愛媛
 上林 唯治 京都

加瀬 松吉 茨城
 田中 東太郎 北海道
 福士 良三 青森
 酒井 茂吉 高知
 紀谷 金之助 北海道
 東 鐵造 大分
 明治四十四年修業
 貝殼彫刻專修(七月六名)
 池田 與志雄 熊本
 德井 利左衛門 三重
 渡邊 正勝 福島
 隈部 文男 熊本
 三好 德三郎 愛媛
 弘末 英男 高知
 大正三年修業
 珊瑚彫刻專修(四月四名)
 泉 助次郎 宮城
 知場 伊太郎 福島
 竹中 尚三 鹿兒島
 江夏 武義 鹿兒島
 大正四年修業
 珊瑚及介殼
 彫刻專修(九月一名)
 高橋 清一郎 長崎

大正六年修業
 珊瑚及介殼
 彫刻專修(三月三名)
 有島 好光 鹿兒島
 宮司 登 靜岡
 清水 義八 新潟
 珊瑚及介殼
 彫刻專修(十一月一名)
 栗田 達道 熊本
 貝殼彫刻
 專修(十二月一名)
 南風原 英當 沖繩
 罐詰專修(十二月十四名)
 泉 拙郎 秋田
 星野 誠一 東京
 田中 泰夫 京都
 田中 長一郎 北海道
 中村 義男 福岡
 宗像 敬二 東京
 宗像 健吉 福岡
 上野 務 大分
 山口 保平 神奈川
 藤井 金吾 廣島
 後藤 山 青森
 菅原 誠 宮城

鈴木 富太郎 三重
 貝殼彫刻
 專修(十二月一名)
 赤井 卯八 福井
 大正七年修業
 貝殼彫刻
 專修(十月二名)
 市川 友治 茨城
 山本 政七 高知
 大正八年修業
 貝殼彫刻
 專修(四月二名)
 多田 館郷 山形
 野口 貞美 東京
 貝殼彫刻
 專修(六月二名)
 東 角藏 岐阜
 菅 繁 鹿兒島
 大正九年修業
 貝殼彫刻
 專修(四月一名)
 鷹本 初太郎 愛媛
 貝殼彫刻
 專修(七月一名)
 二見 林太郎 神奈川
 貝殼彫刻
 專修(十月一名)
 市川 正次 栃木
 大正十年五月修業
 貝殼彫刻
 專修(五月一名)

安並 善次郎 高知
 貝殼彫刻
 專修(十二月一名)
 五十嵐 善晴 山形
 大正十一年修業
 貝殼彫刻
 專修(七月一名)
 仁科 逸郎 千葉
 水産工藝
 專修(十一月一名)
 坂入 一三男 茨城
 大正十二年修業
 水産工藝
 專修(四月二名)
 浦田 武夫 岡山
 及川 善一 岩手
 水産工藝
 專修(十二月三名)
 寶來 利一 兵庫
 高田 卯一 群馬
 齋藤 學 福井
 大正十三年修業
 水産工藝
 專修(十二月三名)

岩田 利機 東京
 竹内 弘次 神奈川
 野村 廣一 宮城
 (三)養殖科
 明治四十一年修業
 鮭鱒養殖(三月三名)
 石川 廣之助 茨城
 拂川 悌之助 秋田
 野村 菊次郎 宮城
 大正十三年修業
 淡水養魚
 專修(三月五名)
 内藤 啓一 高知
 内田 靜雄 靜岡
 山本 四郎 愛知
 幸田 勇喜雄 長野
 清水 久馬次 兵庫
 大正十四年修業
 淡水養魚專修(三月八名)

岩崎 松三郎 宮城
 河合 一 愛知
 吉岡 正三 三重
 吉川 義人 熊本
 村松 讓 靜岡
 小庭 太郎 岡山
 寺田 孫兵衛 靜岡
 相澤 彌生 群馬
 大正十五年修業
 淡水養魚專修(三月五名)
 岩村 久喜 熊本
 大川 富秀 三重
 與那原 孫莊 沖繩
 植松 正徳 島根
 寺岡 正義 福岡
 昭和二年修業
 淡水養魚專修(七月五名)
 石黒 二郎 愛知

谷口 秀男 宮崎
 國府田 公 栃木
 關根 豊重 茨城
 關澤 祐次 茨城
 昭和三年修業
 淡水養魚專修(六月三名)
 永井 清作 宮崎
 内山 良夫 福井
 森 初穂 北海道
 昭和四年修業
 淡水養魚專修(六月五名)
 矢田 操 鳥取
 安藤 伊太郎 香川
 下村 義徳 茨城
 下村 七太郎 滋賀
 森谷 榮造 茨城

五 水産教員養成科

明治三十年卒業
十二月(十五名)
市原佐太郎 高知
羽生辨之進 愛媛
大竹敬造 北海道
加藤伊砂吉 靜岡
片岡久次郎 新潟
加藤登太郎 山形

蒲良輔 福井
正富彌藏 岡山
正林英雄 長崎
秋保知次 京都
佐々木武治 青森
宮崎賢一 長崎
滿岡彦三 佐賀
平山嘉門 岩手

關菊次 秋田
明治三十六年卒業
四月(十名)
西原佐一 愛媛
長内清吾 青森
×山本次郎八 熊本
松波虎之助 和歌山
佐藤退 岡山

笹子 治 千葉
喜多川良吉 東京
志水清兵衛 兵庫
篠原直衛 廣島
森川萬藏 福井

六 製鹽技術員養成科

明治三十九年卒業
三月(十名)
市川信次 鹿兒島
濱清一 栃木
富田登吉 埼玉
東條高治 新潟
岡本靜一郎 福岡
中原經治 福岡
中村丈福 岡

室川重義 和歌山
北川九一郎 滋賀
平林保義 東京
尾關素一 東京
吉武幾甫 山口
永井重藏 兵庫
黒田藤五郎 愛媛

黒住安臣 岡山
松田一平 徳島
三浦一岩 手
三輪清彦 愛知
明治四十一年卒業
三月(六名)
橋本昇次郎 栃木
片山甲太郎 三重
×永山千春 東京

安岡貞雄 高知
清水新太郎 香川
清家幹一郎 愛媛
明治四十二年卒業
三月(十名)
糸雅仁一 埼玉
伊藤純造 埼玉
大塚松次 栃木
早稻田俊彦 愛知

谷本善夫 廣島
宗安宅 福岡
那須文六 香川
酒井鐵三郎 茨城
木下實治 京都

壬生勇一郎 東京
明治四十三年卒業
三月(九名)
稻垣基一 香川
羽鳥久雄 東京

大澤國助 東京
武田晴彦 鹿兒島
谷悦三郎 徳島
工藤甚五郎 青森
五島彰 茨城

相場好作 群馬
宮宗料介 廣島

七 特殊技術員養成科

明治四十四年卒業
製鹽科(三月八名)
金子團三 新潟
米倉八郎 宮城
吉野久 北海道
山田童治丸 大分
丸山廣作 新潟
遠藤金治 宮城
佐藤與市 大分
柴田政行 北海道
大正二年卒業
鱈肝油採製(三月十二名)
法短期講習
伊藤傳次 青森
如中彦助 愛知
西尾磯三郎 東京

地井辰藏 千葉
吉戸昌俊 愛知
田村晉吉 千葉
村尾福太 神奈川
安田豊吉 千葉
山下太郎 東京
駒澤惣平 北海道
小形徳治 東京
越中谷定吉 秋田
大正三年卒業
鱈肝油採製(三月九名)
法短期講習
如中彦助 愛知
田村晉吉 千葉
竹田與八 石川
田村寅吉 千葉

田中半七 香川
高瀬鶴次郎 富山
安田友吉 東京
小杉徳治 東京
越中谷定吉 秋田
冷水魚類養殖(八月七名)
法短期講習
石川久治 東京
石川廣之助 茨城
池田藤太郎 兵庫
星野守治 群馬
和井内貞時 秋田
金子傳次郎 岐阜
高木初太郎 福井
谷川吉之助 福井
村井藏三郎 福島

村上秀治郎 福井
山崎良輔 秋田
菊地興易 茨城
北原定治 福井
標賢一 山梨
平野長藏 福島
平塚金兵衛 長野
門馬當次郎 福島
船用發動機(十月三名)
土肥長作 新潟
小出健太郎 新潟
山本通愛 媛
大正四年卒業
養殖及漁業基(九月五名)
本調査方法
田谷英石 川

別年業卒科	別年業卒科										科
	四十	三十九	三十八	三十七	三十六	三十五	三十四	三十三	三十二	三十一	
漁撈科	一八	二二	一三	一二	一七	二八	一一	一五	一三	一三	
製煉科	一六	一八	一七	一八	二三	三三	一九	二二	三四	二二	
養殖科	三	二	三	二	四	三	三	八	五	九	
合計	三七	三三	三三	二二	二四	二一	二〇	三五	四二	五六	
特別入學											
選科生											
遠洋漁業科	二	二	三	二	二	五	三	一			
研究科	一	一		二							
別科								五			
漁業科	一	五									
罐詰	七	一〇	一〇	八	六	六	五	五	五	五	
魚油魚鱈	三		五		九	七	五	五			
鱈節其他	三	六	二		三	五	二				
冷藏	一										
淡水養殖											
貝殼彫刻											
合計	二五	二一	一七	八	一八	一一	一四	一五	一〇	五	
牧員養成科					一〇					二五	
製鹽技術員養成科	八	一〇									
特殊技術員養成科											
短期講習類											
總計	七三	六六	五三	三四	五四	二七	三七	五一	五二	六一	一五

一六一

第二節 卒業生狀況

一、卒業生一覽表 (昭和八年九月調) 本表中×印ハ本所本科卒業生以外ノモノトス

大正八年卒業
藻類養殖法(十月廿二名)
大正八年卒業
羽生田源作 群馬馬
星野信太郎 群馬馬
本田林三 群馬馬
大竹只之助 群馬馬
尾崎清一 群馬馬

八

短期講習

河村兵三 東京重
内田孝雄 東京重
安井章一 兵庫東
鈴木儀八 岩手
立川卓逸 新潟湯
福井守一 東京
内藤謹三郎 東京
藍野一男 千葉

西村和雄 東京
村上次郎 山口
久保田覺壽 茨城
關虎雄 東京
濱野仙吉 京都
大島慎二 東京
大戸與七 福井
宮本周市 山口
大川龜吉 秋田

一六〇

小曾根勘助 群馬馬
阿部藤三郎 群馬馬
齋藤貞造 群馬馬
齋藤森三郎 群馬馬
佐藤郁造 群馬馬
木村喜作 群馬馬
君島松之助 群馬馬

平出誠太郎 栃木
平出元司 栃木
森出吉 栃木

平出誠太郎 栃木
平出元司 栃木
森出吉 栃木

計	メ キ シ コ	中 華 民 國	朝 鮮	沖 繩	鹿 兒 島	宮 崎	熊 本	佐 賀	大 分	福 岡	高 知	愛 媛	香 川	德 島	和 歌 山	山 口	廣 島	岡 山	鳥 取	島 根	富 山	石 川	福 井	秋 田	山 形		
七 四 五				一 一 七	二 一 三	二 二 六	四 一 四	一 一 七	一 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	二 一 七	一 九	
七 三 二				四 四	三 七	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	
三 七 一				六	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二 八 八				一 五	四 七	一 三	四 九	二 三	七 九	二 六	三 四	二 九	二 五	二 七	一 五	五 九	三 九	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	四 二
三 一				一 九	〇																						
一																											
一 × 四 三																											× 一 七
四 四																											
三 〇 八																											七
二 五																											
四 三																											
七 四																											四 二 一 六
二 二																											一
四 七 二																											一 九
二 五 三 八																											× 五 九

一六五

府 縣 別	科 別	漁 撈 科	製 造 科	養 殖 科	計	特 別 入 學 選 科 生	漁 業 科	洋 科	研 究 科	別 科	教 員 製 成 科	員 製 成 科	員 製 成 科	特 殊 技 術 員 製 成 科	短 期 講 習	計	總 計
青 島	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
福 山	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
宮 崎	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
長 崎	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
岐 阜	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
滋 賀	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
山 梨	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
靜 岡	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
愛 知	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
三 重	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
奈 良	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
枋 木	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
茨 城	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
千 葉	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
群 馬	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
埼 玉	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
新 潟	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
長 崎	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
兵 庫	縣	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
神 戶	府	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
大 阪	府	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
京 都	府	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
東 京	府	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
北 海 道	道	一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
計		一 一	二 〇	一 一	一 一											一 一	二 三
總 計		二 〇	三 〇	一 一	一 一											一 一	二 三

三、卒業者道府縣別表

(昭和九年十一月調) 本表中×印ハ本所本科卒業者以外ノモノトス

一六四

附 錄

一 在外研究員

在外研究生規程及在外研究員規程ニ依リ海外ニ派遣シタル者左ノ如シ

研 究 事 項	派 遣 期 間	官 名	氏 名
獨逸國ニ於ケル水産養殖法ノ研究	自明治四〇、一一、二二 至同治四二、一一、二七	技手	日暮 忠
英國及諾威國ニ於テ漁撈法ノ研究	自明治四二、一一、三〇 至同治四四、一一、三〇	技手	小瀬 次郎
佛國ニ於テ水産食用品製造法研究	自明治四四、一一、三〇 至同治四六、一一、三〇	技手	小野 辰次郎
獨逸國及諾威國ニ於テ水理生物學研究	自明治四四、一一、三〇 至同治四六、一一、三〇	技手	丸川 久俊
米英佛國ニ於テ貝類其他鹹水魚養殖研究	自明治四四、一一、三〇 至同治四六、一一、三〇	技師	妹尾 秀實
獨逸國ニ於ケル蠶結其他食品及油蠟等ニ關スル事項並生理化學ノ研究	自明治四四、一一、三〇 至同治四六、一一、三〇	技師	山 川 洵
追加 北米合衆國ニ於テ前記研究事項ノ外國食物條例實施方法ノ研究	自明治四四、一一、三〇 至同治四六、一一、三〇	技師	山 川 洵

英國諸國及北米合衆國ニ於ケル旋網汽船流網及各種近海漁業ノ研究	自大正一〇、一一、三〇 至同大正一一、一一、三〇	技手	關 根 磯吉
獨逸國及英國ニ於ケル水産物製造法貯藏法及魚病ニ關スル細菌學的研究	自大正一一、一一、三〇 至同大正一二、一一、三〇	技師	木村金太郎
米國、英國、佛國、獨逸國及伊國ニ於テ水産ニ關スル機械ノ研究	自大正一一、一一、三〇 至同大正一二、一一、三〇	技師	星野 三郎
米國ニ於テ水産ニ關スル發生學及生存統計學研究	自大正一一、一一、三〇 至同大正一二、一一、三〇	技師	寺 尾 新
米國ニ於テ食品化學並ニ有機化學ノ研究	自大正一一、一一、三〇 至同大正一二、一一、三〇	技師	山 本 祥吉
獨逸國ニ於テ水産製造化學ノ研究	自昭和四三、一一、三〇 至同昭和四四、一一、三〇	技師	大谷 武夫
獨逸國ニ於テ海洋漁場學ノ研究	自昭和四三、一一、三〇 至同昭和四四、一一、三〇	技師	岡 田 光世
獨逸國ニ於テ水産製造學ノ研究	自昭和四三、一一、三〇 至同昭和四四、一一、三〇	技師	松 生 義勝
英國ニ於ケルトロール漁業、諾威國ニ於ケル捕鯨業並鯨漁業及米國ニ於ケル大鯨漁業ノ研究	自昭和四三、一一、三〇 至同昭和四四、一一、三〇	技師	庵 原 順一
米國及獨逸國ニ於テ餌料水質ノ化學的研究	自昭和四三、一一、三〇 至同昭和四四、一一、三〇	技師	富 山 哲夫

二 職員移動

(自昭和八年十二月
至同九年十二月)

昭和八年十月三十一日任水産講習所技手	佐成常次郎	同日物理及数学ノ教授ヲ囑託ス	竹内能忠
同日依頼免本官	技手 佐成常次郎	昭和九年四月十九日願ニ依リ實習船白鷹丸船醫囑託ヲ解ク	奥野博
昭和八年十二月十五日養魚實習ノ指導ヲ囑託ス	鳥飼敬義	同日實習船白鷹丸船醫ヲ囑託ス	津田義一
昭和九年一月十九日修身ニ關スル教授ヲ囑託ス	田中義能	昭和九年四月二十日任水産講習所教授	清水亘
昭和九年二月十四日願ニ依リ動物生理學教授囑託及普通動物學授業並實驗囑託ヲ解ク	囑託員 森潤三郎	昭和九年六月十二日願ニ依リ衛生事項囑託ヲ解ク	囑託員 鈴木健要
昭和九年四月十日氣象學ノ教授及物理學ノ教授並同實驗ノ指導囑託ヲ解ク	囑託員 宇野慶三郎	同日衛生事項ヲ囑託ス	堀重藏
同日願ニ依リ水産貿易學教授囑託ヲ解ク	囑託員 大槻清三	昭和九年七月十四日任水産講習所教授	小石安一
昭和九年四月十一日修身ニ關スル教授囑託ヲ解ク	囑託員 田中義能	同日任水産講習所教授	鳥飼敬義
昭和九年四月十七日任水産講習所技手兼水産講習所助教授	熊凝武晴	同日養魚實習ノ指導囑託ヲ解ク	鳥飼敬義
同日任水産講習所助教授	松原喜代松	同日任水生講習所助教授	山崎竹治
		同日任水産講習所助教授兼水産講習所技手	三善清旭

三 學友會

昭和九年七月十六日任水産講習所助教授
田村辰馬
囑託員 所 要

昭和九年十二月十三日願ニ依リ衛生事項囑託ヲ解ク
村瀬健夫
同日衛生事項ヲ囑託ス

德操ヲ研碁シ體育ノ發育ヲ期センカ爲メ職員學生相謀リテ學友會ヲ組織シ所長ヲ會長トシ本所監督ノ下ニ開會スルモノニシテ之ニ要スル費用ハ職員並學生ノ醵金ヲ以テ支辨ス

本會ハ學藝部及運動部ノ二部ニ分テ學藝部ヲ更ニ講演、辯論ノ二部、運動部ヲ更ニ端艇、柔道、劍道、庭球、角力、水泳及野球部ノ七部トシ學藝部ニ於テハ每學期一回以上講演會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ請ヒ以テ學生ノ德風ヲ發揚セシコトヲ期セリ

運動部ニ於テハ各部毎年一回大會ヲ開キテ技術ノ鍊

磨身體鍛鍊ノ目的ヲ達セシメンコトヲ期セリ
本會役員左ノ如シ

會長 杉浦 保吉

幹事

常任 三浦 正
深山 義道
長棟 暉友
中井 信隆

學藝部長 松生 義勝

理事

小石 安一 講演部委員 岡部 五郎
 棚橋 鐘一郎 辯論部委員 佐藤 武久
 久保 清左衛門

運動部長 山川 洵

柔道部委員長 小石 安一

劍道部委員長 猿谷 九万

相撲部委員長 篠山 武次郎

端艇部 委員長 田中 耕之助
 副委員長 岡田 郁之助

庭球部委員長 小谷 和夫

野球部委員長 豊田 正謙

水泳部委員長 海老名 謙一

會計掛 石塩 甚二郎

平田 馬男

委員 矢崎 春夫
山本 篤一

水産講習所學友會規則

昭和七年五月改正

第一章 總 則

第一條 本會ハ水産講習所學友會ト稱ス
 第二條 本會ハ會員ノ親睦ヲ厚クシ精神ノ修養身體ノ鍛鍊ヲ爲スナ
 目的トス
 第三條 本會ハ本所學生及現職職員出身者ヲ以テ組織ス
 第四條 本會ハ其ノ目的ヲ達センカ爲左ノ二部ヲ置ク
 一 學藝部
 二 運動部
 學藝部ヲ分チテ講演部及辯論部ノ二部トシ運動部ヲ分チテ端艇部
 柔道部、劍道部、庭球部、角力部、水泳部及野球部ノ七部トス
 第五條 各部ニ於テ其ノ細則ヲ設クルトキハ會長ノ認可ヲ受クヘシ
 第二章 會 員
 第六條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス
 一 通常會員(本所學生)
 二 特別會員(本所職員)
 三 贊助會員(本所出身者及舊職員)

第三章 役 員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 一 會長 一名 本所々長之ニ任ス

二 幹 事 四名

三部 部長 學藝部、運動部各一名

四 理事 二名

五 運動部委員長 七名

但端艇部ニハ副委員長一名ヲ置ク

六 會計掛 二名

七 委員學藝各部三名運動各部二名學生互選

但端艇部委員ハ四名トス

前項第二號乃至第六號ノ役員ハ本所職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第八條 會長ハ會務ヲ總理ス

幹事ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ會務ヲ掌ル

部長ハ其ノ部ノ事務ヲ掌ル

理事ハ學藝部長ヲ補佐シ其ノ部ノ事務ヲ掌ル

運動部委員長ハ部長ヲ補佐シ各部ノ事務ヲ掌ル

會計掛ハ本會ノ會計事務ヲ掌ル

委員ハ其ノ部長及委員長ノ指揮ヲ承ケ及會計委員ハ會計掛ヲ補佐

シ各事務ヲ處理ス

第九條 委員ノ任期ハ一年トシ毎年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル

委員ノ改選ハ毎年四月之ヲ行フ

第四章 會 議

第十條 會議ヲ分ツテ總會役員會及部會トス

第十一條 總會ハ毎年四月一回之ヲ開ク

第十二條 役員會ハ役員ヲ以テ組織シ重要ナル會議ヲ決議ス

第十三條 部會ハ其ノ部ニ關スル事務ヲ決議ス

第十四條 必要ノ場合ニ於テハ會長ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ

第五章 會計

第十五條 通常會員ノ會費ハ一個年九圓トシ各學年ノ始ニ之ヲ前

納スルモノトス

特別會員ノ會費ハ俸給年額三百分ノ一トシ毎月之ヲ分納ス

第十六條 通常會員ハ入會金二圓五十錢ヲ納ムルモノトス

第十七條 豫算ハ毎年三月役員會ニ於テ之ヲ決議ス

各部會ニ於テハ毎年三月ニ其部豫算ヲ決議シ會長ニ差出スヘシ

第十八條 會計決算ハ毎年ノ總會ニ之ヲ報告スルモノトス

第十九條 經費ノ剩餘アルトキハ之ヲ基本金トシテ積立テ確實ナル

銀行ニ預ケ入ルモノトス

四 財團法人水産研究獎勵會

本所創立ヨリ十年水産講習所創立ヨリ二十年ニ相當
スル明治四十年三月二十二日ヲトシ有志者相謀リ水
産研究獎勵會獎學資金ヲ募集シ翌四十一年六月創立
資金一萬二千四百三十四圓六十七錢四厘ヲ以テ財團
法人ヲ設立シ水産講習所學生及其ノ他ノ者ニ對シ水
産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補助
或ハ貸與、若ハ賞與スルコトトナセリ同財產ハ現時
登錄資産八萬三千六百七十二圓十二錢ニシテ創立以
來本所學生ノ學資補助ヲ受ケタル者、廿六人此金額
九千八百九十四圓五十錢、貸與ヲ受ケタル者百十六

人此金額二萬七千四百四十圓ニシテ内昭和八年度ニ
於テ貸與ヲ受ケタル者水産講習所學生二十一人此金
額三千百八十圓、大學在學生二人此金額四百六十圓
ナリ又昭和七年度ニ於テ魚類學分類研究者ニ二百圓
ヲ補助セリ

一 目的

第一條 本財團法人ハ水産講習所學生及其他ノ者ニ對シ水産ニ關ス
ル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補助シ貸與シ若クハ賞與ヲ
附與スルニアリ

二 名稱

第二條 本財團法人ハ財團法人水産研究獎勵會ト稱ス

三 事務所

第三條 本法人ハ事務所ヲ東京市深川區越中島町八番地水産講習所

内ニ置ク

四 資産

第四條 本法人ハ左記ノ資産ヲ以テ組成ス

一、牧村眞ノ募集ニ係ル水産講習所獎學資金ノ現金及有價證券

二、牧村眞ノ募集ニ係ル伊谷以知二郎獎學資金ノ現金及有價證券

三、故山脇宗次遺族ノ寄附ニ係ル現金

四、故林田甚八遺族ノ寄附ニ係ル現金

第五條 本法人ハ寄附金品ヲ受クルコトヲ得

第六條 本法人ノ經費ハ其資産ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨ス

但シ寄附金募集ニ要スル經費ハ資産ヨリ支出スルコトヲ得

第七條 本法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一

日ニ終ル

第八條 本法人ノ收支豫算決算並ニ事業ノ狀況ハ毎年一回常議員會

ノ承認ヲ經テ發表ス

第九條 本法人解散スルニ到リタルトキハ顧問理事監事全員ノ同意

ヲ得且ツ常議員會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得テ其資産

ヲ本財團法人ノ目的ト同一ナルカ又ハ之ト類似セル他ノ學校團體

若クハ學會ニ寄附シ本法人設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシム

五 解散

第十條 本法人ハ法定ノ解散事由發生スルニアラサレハ解散スルコ

トナシ

六 役員

第十一條 本法人ニハ理事八名(内一名ハ水産講習所所長ヲ以テ之ニ

充ツ但シ其承諾ヲ得サル場合ハコノ限リニアラス)監事三名常議

員三十名ヲ置ク但シ東京府及ヒ隣接縣在任者ニ限ル

理事ノ中一名ヲ理事長トシ水産講習所所長タル理事ヲ以テ之ニ充ツ

若シ水産講習所所長タル理事アラサル場合ニハ理事ノ互選ニ依リ之

ヲ定ム水産講習所所長タル理事以外ノ理事ハ常議員會ニ於テ互選ス

其任期ハ三ヶ年トス

理事ハ互選ヲ以テ常務理事ヲ定ム

監事ハ常議員會ニ於テ互選ス其任期ハ二ヶ年トス

常議員ノ任期ハ四ヶ年トシ其任期滿了前常議員會ニ於テ後任者ヲ

推薦ス補缺ノ場合亦同シ

理事監事常議員中缺員ヲ生シタルトキハ之ヲ補缺スルモノトシ其

就任者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條 理事長ハ本法人ヲ代表ス

常務理事ハ常務ヲ處理シ理事長事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ本法人ノ事務ヲ掌理ス

監事ハ本法人ノ事務ヲ監査ス

常議員ハ本法人ノ豫算決算並ニ目的ノ實行ノ方法其他重要ナル事項

ヲ審議ス

常議員會ハ本法人ニ功勞アルモノヲ顧問ニ推薦スルコトヲ得

常議員會ハ過半数ノ出席アルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス

顧問ハ各役員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

七 寄附行爲ノ變更
第十三條 本寄附行爲ハ目的ニ關スル規定ヲ除クノ外顧問理事監事
全員ノ同意ヲ經タル後常議員會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ
之ヲ變更スルコトヲ得

八 附 則

第十四條 本寄附行爲施行ニ關スル細則ハ理事ノ多數ニ依リ之ヲ定
ム之ヲ變更スル場合亦同シ

第十五條 本寄附行爲當初ノ常議員ハ寄附行爲者牧朴眞之ヲ推薦ス
本寄附行爲ノ變更ニヨリ理事新任セラルルマテ現在理事其事務ヲ
掌理ス

昭和九年十二月二十四日印刷
昭和九年十二月二十六日發行

(非賣品)

農林省水産講習所

東京市本郷區本郷五丁目三十六番地

印刷人 三 瓶 秀 太 郎

東京市本郷區本郷五丁目三十六番地

印刷所 萬 壽 堂 印 刷 所



296
3

終

